



# 取扱説明書

Rev. 5.3

## ソフトウェアデコーダー

## N-SD2000

このたびは、TOAソフトウェアデコーダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA 株式会社

# 目次

## 第1章 はじめに

### 本書で使用する名称について

機器の名称 .....	1-2
説明書の名称 .....	1-2

本編の構成 .....	1-3
-------------	-----

概 要 .....	1-3
-----------	-----

特 長 .....	1-3
-----------	-----

## 第2章 準 備

### 本ソフトウェアをインストールする前に

ディスプレイアダプター .....	2-2
ネットワークアダプター .....	2-2
サウンドコントローラー .....	2-2
使用上のご注意 .....	2-2

インストールのしかた .....	2-4
------------------	-----

アンインストールのしかた .....	2-8
--------------------	-----

接続のしかた .....	2-8
--------------	-----

## 第3章 起動から表示まで

操作の手順 .....	3-2
-------------	-----

ソフトウェアデコーダーの起動 .....	3-2
----------------------	-----

### Windows Vista、Windows 7でのご使用について

Windows のユーザーアカウント制御(UAC)の設定を解除する .....	3-6
---	-----

ソフトウェアデコーダーの終了 .....	3-8
----------------------	-----

Windows ファイアウォールについて .....	3-8
----------------------------	-----

各部の名称とはたらき .....	3-9
------------------	-----

### 機器リストを作成する

スキャンを利用して機器リストへ登録する .....	3-10
---------------------------	------

機器リストへ手動で登録する .....	3-11
ライブ映像を PC で表示する .....	3-12
ライブ映像をレシーバーで表示する .....	3-13
録画を再生する .....	3-14

## 第4章 設定のしかた

### ネットワーク上の機器の設定と操作

ネットワーク上の機器の検出 .....	4-2
機器のネットワーク設定を変更する .....	4-4
機器のLED点滅を行う .....	4-4
機器の再起動を行う .....	4-4

### 機器リストを作成する

スキャンリストを利用して機器リストへ登録する .....	4-5
機器リストへ手動で登録する .....	4-6

### 登録した機器のパラメーター設定

接続時パラメーター設定 .....	4-8
-------------------	-----

### システムログを見る

表示するログを絞り込む .....	4-18
ログを消去する .....	4-18
ログをファイルへ保存する .....	4-18
メッセージ番号について .....	4-19
記録されるログについて .....	4-19
表示更新について .....	4-19

### 動作ログを見る

### 機器メンテナンスを利用する

コンフィギュレーションファイルのアップロード .....	4-24
コンフィギュレーションファイルのダウンロード .....	4-25
ファームウェアのアップロード .....	4-26

### アプリケーションの設定を行う

管理者パスワードを設定する .....	4-28
ユーザーパスワードを設定する .....	4-29
アプリケーション全般の設定を行う .....	4-30
ストリーミング接続時の受信音声の設定を行う .....	4-31

アラーム接続の設定を行う .....	4-32
設定の初期化・保存・読み込みをする .....	4-33
機器からのログ受信の設定を行う .....	4-35
自動再起動の設定を行う .....	4-36
自動でフルスクリーン表示にする設定を行う .....	4-37

## 第5章 操作のしかた

### ログインについて

ログイン画面 .....	5-2
ユーザーログインレベル .....	5-4

### ツリービューを構築する

ツリービューへ機器を追加する .....	5-8
ロケーションを設定する .....	5-9
グループを設定する .....	5-10
シーケンスパターンを設定する .....	5-10
常時接続グループツリーの設定 .....	5-11
ツリービューからの削除 .....	5-11

### 接続状態の表示について

ツリービューの表示 .....	5-12
ビュー GUI 表示動作 .....	5-13
ツールバーの表示 .....	5-14

### 常時接続

常時接続機能について .....	5-15
------------------	------

### ライブ映像を表示する

1 台の機器を接続する .....	5-17
グループ接続を行う .....	5-18
シーケンスを行う .....	5-19

### ライブ音声を受信・送信する

機器からの音声を受信する .....	5-20
機器へ音声を送信する .....	5-21
音声状態の表示について .....	5-22

### ライブ接続中の操作について

スナップショットを保存する .....	5-23
接続中に各種パラメーター変更を行う .....	5-24
デジタルズームを行う .....	5-25
ライブ映像を静止する .....	5-26

接点入力について .....	5-27
接点出力について .....	5-27
<b>機器の制御を行う</b>	
カメラメニュー制御について .....	5-28
デジタルレコーダーの制御を行う (C-DR1605/0905) .....	5-29
デジタルレコーダーの制御を行う (C-DR161/DR091/DV09xW-6) .....	5-31
マルチスイッチャーの制御を行う (C-MS シリーズ) .....	5-34
システムコントローラーの制御を行う (C-SC80/C-SC50) .....	5-35
コンビネーションカメラ、 屋外メガピクセルズームカメラの制御を行う .....	5-36
<b>アラーム</b>	
ソフトウェアデコーダーのアラーム接続について .....	5-39
アラームについて .....	5-39
アラーム受信時の画面表示状態について .....	5-40
アラームの設定について .....	5-41
<b>検索・再生する</b>	
イベント検索して再生する .....	5-42
詳細を検索して再生する .....	5-44
再生について .....	5-45
<b>ビュー制御について</b>	
4画面表示 .....	5-49
1画面表示 .....	5-49
フルスクリーン表示 .....	5-49
ステータスバーについて .....	5-50
接続の優先度について .....	5-50
<b>登録した機器とレシーバーを接続する</b>	
接続 .....	5-51
切断 .....	5-52
モーションディテクト設定について .....	5-53
バージョン情報表示について .....	5-58
ブラウザ接続について .....	5-59
機器の接続情報について .....	5-59

登録機器のプロパティ ..... 5-60

## 機器リストのCSVエクスポート

保存動作 ..... 5-61

エクスポートのしかた ..... 5-61

## 第6章 付 録

故障かな?と思ったら ..... 6-2

ステータスバーの表示について ..... 6-5

仕 様 ..... 6-7

# 第1章

---

はじめに

## 本書で使用する名称について

### ■ 機器の名称

本書は、映像ネットワーク機器の名称と品番を以下のように記載しています。  
PTZカメラ、コンビネーションカメラは「コンビネーションカメラ」と記載します。

IP カメラ	
ネットワークドーム型カメラ	N-CC2200MD、N-CC2230D2、N-CC2230R2 N-CC2800MD、N-CC2830D2
ネットワークカメラ	N-CC2100M、N-CC2130、N-CC2360 * N-CC2360A、N-CC2420MD、N-CC2420MR
屋外メガピクセルズームカメラ	N-CC2400MZ
ネットワークコンビネーションカメラ (ネットワーク PTZ カメラ)	N-CC2561、N-CC2571、N-CC2600 N-CC2650M、N-CC2700 *、N-CC2720
トランスミッター	
ネットワークビデオトランスミッター	N-VT2010
レシーバー	
ネットワークビデオレシーバー	N-VR2010
ネットワークデジタルレコーダー	N-DR2000 *
ソフトウェアデコーダー	N-SD2000 (CD-ROM)

\* 生産完了品

### ■ 説明書の名称

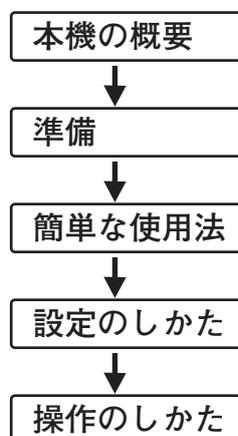
映像ネットワーク機器の説明書の名称は以下のとおりです。

映像ネットワークシステム 設定説明書 (PDF)	N-CC2130、N-CC2230D2、N-CC2230R2、 N-CC2360 *、N-CC2360A、N-CC2561、 N-CC2571、N-CC2600、N-CC2700 *、 N-CC2720、N-CC2830D2、N-VT2010、 N-VR2010、N-DR2000 *
ネットワークメガピクセルカメラ スタートアップガイド (冊子)	N-CC2100M、N-CC2200MD、N-CC2420MD、 N-CC2420MR、N-CC2800MD
N-CC2650M 設定説明書 (冊子)	N-CC2650M
N-CC2400MZ 取扱説明書 (冊子)	N-CC2400MZ

\* 生産完了品

## 本編の構成

ソフトウェアデコーダーは、ユーザーの使用方法によっていろいろな設定ができるように構成されています。本編の内容は以下の流れで構成されています。



## 概要

Windows PCにインストールして使用します。本ソフトはLAN上に接続されているネットワークカメラ、ネットワークコンビネーションカメラ、ネットワークビデオトランスミッターのライブ映像や、ネットワークデジタルレコーダーの録画映像を同時に任意の4台まで表示することができます。また、音声の送受信も可能です。

## 特長

- N-SD2000 は Microsoft Windows OS 上で動作するソフトウェアです。レシーバーを利用することなく PC 上で監視することが可能です。
- ネットワーク上に接続されている映像ネットワークシステムの機器を検出してシステム管理や設定ができます。
- IPカメラとトランスミッターのライブ映像を MPEG-4 ストリームにより 1 画面、4 画面で監視できます。
- ネットワークデジタルレコーダーの録画の検索や再生ができます。
- 録画映像とライブ映像を同時に閲覧できます。
- IPカメラとトランスミッターからのアラーム受信による接続ができます。
- 常時接続ができます。
- ログインの機能により、操作権限を持つことができます。

## 第1章 はじめに

### ● MPEG-4 特許ライセンスに関するご注意

本製品は、画像情報の取扱に関して、MPEG 技術（MPEG-4 VISUAL STANDARD）を使用しており、同技術の使用に関しては、特許管理団体 MPEG LA,LLC.の許諾を受けております。

以下の場合を除いては、本製品のご利用が禁止されていますので、ご注意下さい。

MPEG 技術利用者の個人的使用及び非営利的な使用であって、(i) MPEG-4 VISUAL STANDARD に適合するビデオ（以下、「MPEG-4 ビデオ」）の符号化、及びまたは、(ii) 個人的使用及び非営利活動に従事する MPEG 技術利用者により符号化された MPEG-4 ビデオ、及びまたは、MPEG LA,LLC. からライセンス許諾されているビデオ・プロバイダーから提供された MPEG-4 ビデオの復号化。

なお、販売促進のための使用、営利目的の使用、並びに、ライセンスに関する追加情報は、MPEG LA,LLC. までお問い合わせ下さい。

[HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM) をご覧下さい。

# 第2章

---

準備

## 本ソフトウェアをインストールする前に

本ソフトウェアをインストールする前に、ディスプレイアダプター、ネットワークアダプター、およびサウンドコントローラーのインストールと環境設定を行ってください。

### ■ ディスプレイアダプター

- ディスプレイアダプターは、最低1024×768の解像度、カラー階調16ビット（65,536色）で動作するものを使用してください。その他のカラー解像度はサポートされていません。
- ディスプレイアダプターによっては、十分な性能を発揮できない場合があります。

### ■ ネットワークアダプター

本ソフトウェアは、ネットワークを使用した監視アプリケーションです。PCをネットワークに接続するためには、ネットワークアダプター（LANアダプター）が必要です。

ネットワークアダプターおよびTCP/IPプロトコルの環境設定は、Windowsの[コントロールパネル] → [ネットワーク接続]で行います。

本ソフトウェアは自動的にネットワークアダプターを認識して使用します。

### ■ サウンドコントローラー

サウンドコントローラーをインストールすることにより、本ソフトウェアを使ってネットワークビデオトランスミッターから音声信号を受信して再生し、また音声信号をネットワークビデオトランスミッターに送信できます。

本ソフトウェアは自動的にサウンドコントローラーを認識して使用します。

**ご注意** サウンドコントローラーのインストールについては、メーカーの取扱説明書をお読みください。

### ■ 使用上のご注意

- 本ソフトウェアを起動している間に、TOA映像ネットワークシステム以外のアプリケーションを使用すると、ソフトウェアデコーダーが正しく動作しない場合があります。
- 1台のPCで複数のソフトウェアデコーダーを起動することはできません。
- ファイアウォールを利用している場合、正しく動作しないことがあります。
- ネットワークドライブ上からインストールを行うとファイアウォールの設定により正常にインストールできない場合があります。インストールをする場合は、ファイアウォールをオフにする、またはローカルディスクドライブよりインストールをしてください。
- ソフトウェアデコーダーおよびDirectX、Adobe Readerをインストールする場合は、ハードディスクに最低110MBの空き容量が必要です。
- ソフトウェアデコーダーのみがPC上で動作し、ソフトウェアデコーダー内のフローティングウィンドウを表示しているときに[alt] + [tab]キーを押すと、フローティングウィンドウが背面に移動し、隠れてしまう場合があります。[alt] + [tab]キーで前面に出すことができますが、メインウィンドウがフローティングウィンドウへ映り込むことがあります。

- スクリーンセーバーや省電力などを利用すると、映像を正しく表示できないことがあります。
- マルチディスプレイ環境で使用する場合、以下の点にご注意ください。
  - ・ 動作中にディスプレイ間を移動すると正常に動作しない場合があります。使用中は片側のディスプレイで常に表示するようにしてください。
  - ・ デジタルズーム機能は、画像の静止表示中に行ってください。静止表示をせずにデジタルズームを使用すると正常に動作しない場合があります。  
ライブ映像の静止機能については、P. 5-26 を参照してください。
- マルチキャスト機能について  
マルチキャスト機能を使用する場合、ネットワークがマルチキャストに対応している必要があります。
- ソフトウェアデコーダーの起動中に Windows のユーザー（アカウント）切り替えを行うと正常に動作しない場合があります。Windows のユーザー（アカウント）切り替えを行った後は、ソフトウェアデコーダーを再起動してください。

# インストールのしかた

PCに本ソフトウェアをインストールします。

## 1 CD-ROMをPCのドライブに入れる。

PCがCD-ROMを認識し、「Netcansee Setup Launcher」が自動で起動します。

### ご注意

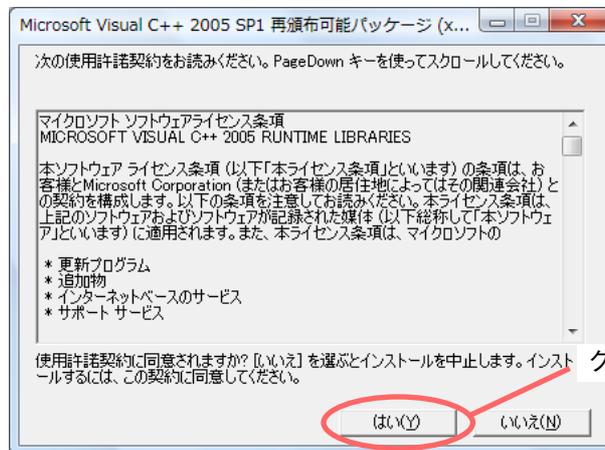
CD-ROMドライブがオートランに対応していないときは、CD-ROMを挿入してもセットアップランチャーは起動しません。自動で起動しないときは、CD-ROM内のAutorun.exeをクリックしてください。



- 映像ネットワークシステム設定説明書を開きます。
- ソフトウェアデコーダーの取扱説明書を開きます。
- N-SD2000のインストールを開始します。
- DirectXのインストールを開始します。

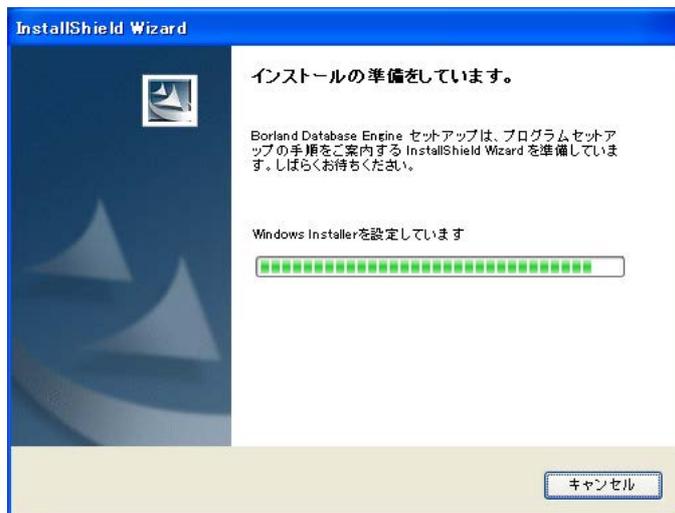
## 2 セットアップランチャー画面内の「インストール」下の「N-SD2000」をクリックして、インストールを開始する。

VC2005 runtimeのインストールウィンドウが表示されます。

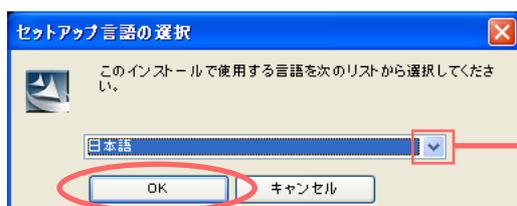


クリックしてください。

使用許諾契約に同意後、「Borland Database Engine」のインストールウィンドウが表示され、自動でインストールされます。



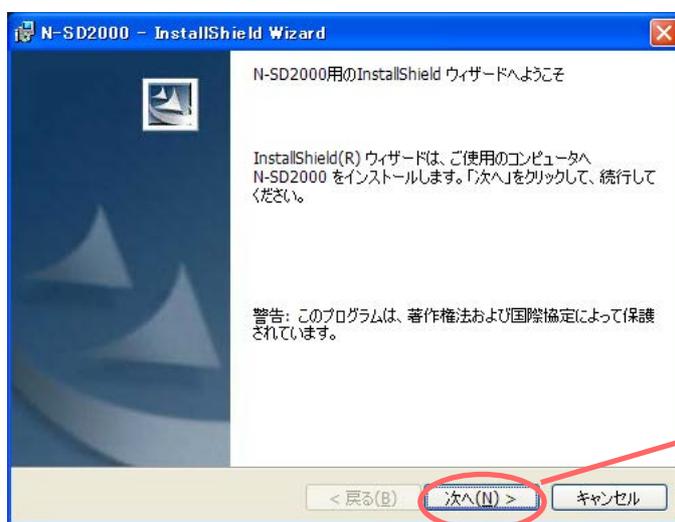
インストールすると、「セットアップ言語の選択」ダイアログが表示されます。



① [日本語] を選択し、クリックしてください。

② [OK] をクリックしてください。

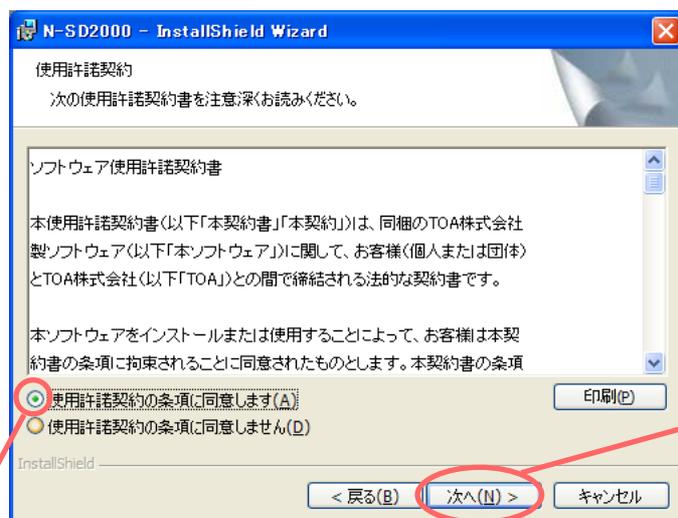
InstallShield Wizard ウィンドウが表示されます。



[次へ] をクリックしてください。

## 第2章 準備

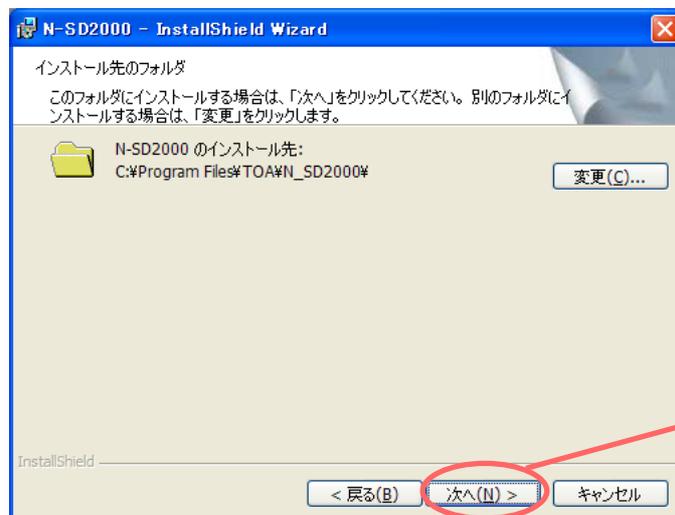
使用許諾契約に関する画面が開きます。



[次へ] をクリックしてください。

[使用許諾契約の条項に同意します] をクリックしてください。

インストールするフォルダを指定します。



[次へ] をクリックしてください。

### ご注意

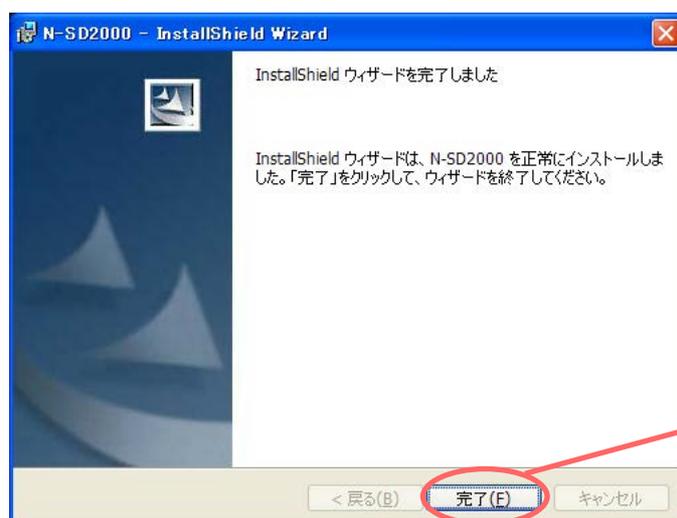
インストール先のフォルダを変更する場合は、「変更」をクリックしてインストール先を指定します。

インストールを開始します。



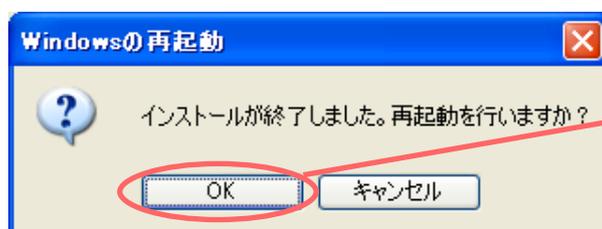
[インストール] をクリックしてください。

インストールが完了します。



[完了] をクリックしてください。

インストールが完了すると、システムの再起動を促す画面が表示されます。



[OK] をクリックしてください。

**3** PCを再起動すると、ソフトウェアアデコーダーが利用できます。

## アンインストールのしかた

インストールしたソフトウェアデコーダーの削除を行います。

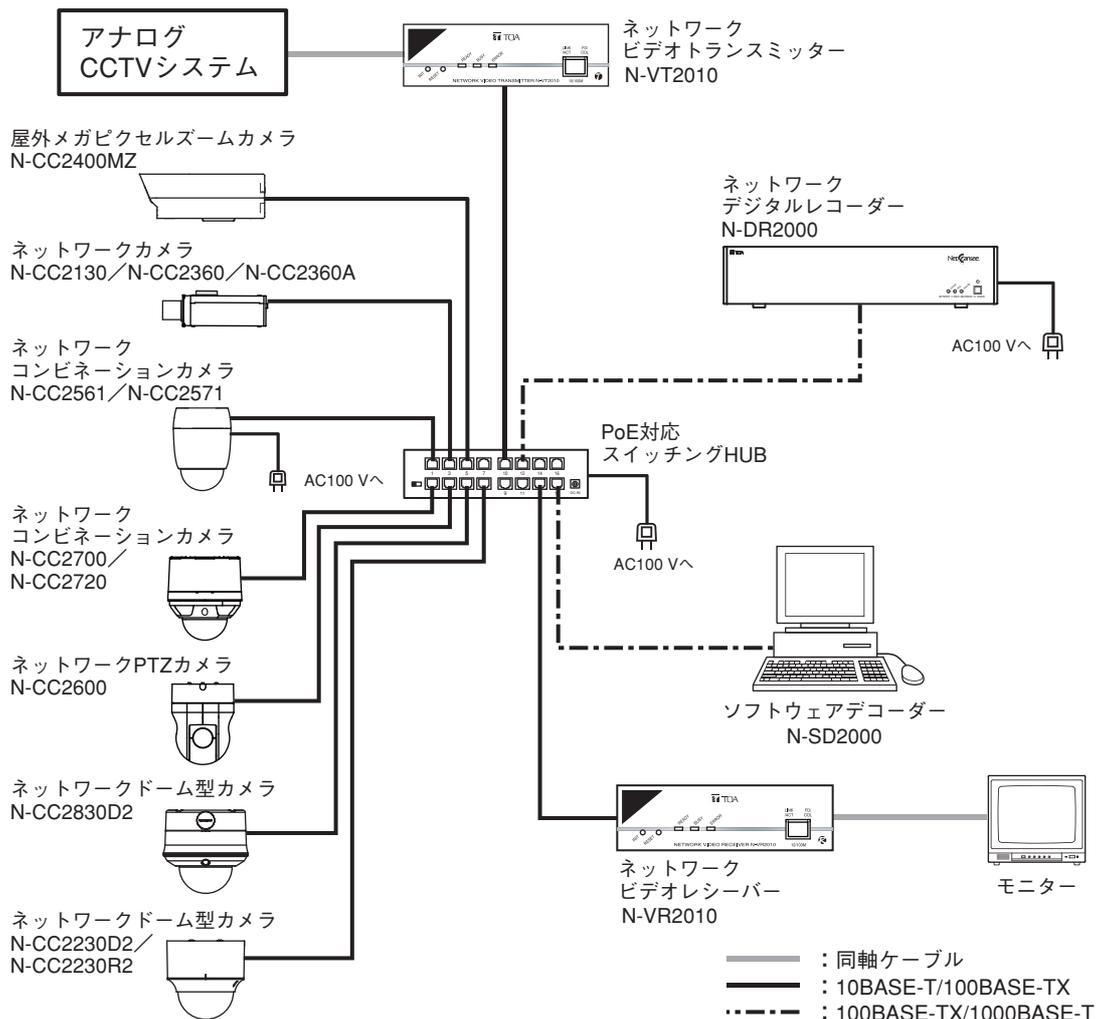
- 1 [スタート] をクリックして、[コントロールパネル] を選択する。  
PCで設定する項目が表示されます。
- 2 [プログラムの追加と削除] のフォルダをクリックする。  
プログラムの追加と削除ウィンドウが表示されます。
- 3 N-SD2000 を選択し、[削除] をクリックする。  
ソフトウェアが削除されます。

### ご注意

ソフトウェアデコーダーのアンインストールを行う前にソフトウェアデコーダーを終了してください。

## 接続のしかた

### ● 接続例



※ 基本接続例以外のシステム構成については映像ネットワークシステム設定説明書を参照してください。

# 第3章

---

起動から表示まで

## 操作の手順

基本操作の手順は以下の通りです。

- 1 ソフトウェアデコーダーを立ち上げる。(「ソフトウェアデコーダーの起動」参照)
- 2 ログイン画面よりパスワード入力を行い、ログインする。
- 3 シリアルキー未登録の場合、シリアルキーを登録する。
- 4 メインウィンドウより機器リストを作成する。(P. 3-10「機器リストを作成する」参照)
- 5 映像を表示する。
  - ライブ映像を PC で表示する
  - ライブ映像をレシーバーで表示する
  - 録画された映像を PC で再生する

## ソフトウェアデコーダーの起動

インストールしたソフトウェアデコーダーを起動します。

☒ ☒

- ソフトウェアデコーダーを起動する前に、DirectX がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合はセットアップランチャーよりインストールしてください。
- ソフトウェアデコーダーを起動する前に .NET Framework 2.0 がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合は、Microsoft のホームページより .NET Framework 2.0 をダウンロードし、PC にインストールしてください。

Microsoft 社 .NET Framework ホームページ (2011/08/30 現在)  
<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/netframework/aa569263>

[Microsoft .NET Framework 2.0 Service Pack 2] へ進み、「NetFx20SP2\_x86.exe」をダウンロードし、インストールしてください。

- ソフトウェアデコーダーは、インストールを行った管理者権限の Windows アカウントで使用してください。

- 1 デスクトップ上の「N-SD2000」のショートカットをダブルクリックする。

N-SD2000 が起動し、ログインウィンドウが表示されます。

☒ ☒ [スタート] メニューの [プログラム] → [TOA] → [Netcansee] → [N-SD2000] から起動できます。

### ご注意

ソフトウェア起動時にディスプレイアダプターの性能の判定が行われます。十分な性能を確保できなかった場合は使用機能が制限され、ログイン画面上に「ディスプレイアダプターの制約により一部機能が使用できません」と警告が表示されます。制限される機能は、以下の通りです。

- ライブ、再生中のスナップショット機能
- モーションディテクト設定画面上の矩形表示機能
- ライブ、再生中のデジタルズーム機能
- ズームビュー機能利用時の白枠表示機能
- ライブ中の映像静止機能



ダブルクリックする



## 2 ユーザーを選択する。

ユーザー : 管理者、ユーザー1、ユーザー2、ユーザー3  
 自動でログインする : チェックを入れてユーザーモードでログインすると、次回のソフトウェアデコーダー起動時に自動でログインできます。

詳しくは、P.5-4「ユーザーログインレベル」を参照してください。

## 3 ネットワークアダプターを選択する。(管理者のみ)

「使用するネットワークアダプタ」のリストにPC上のネットワークアダプターとIPアドレスが表示されます。このリストからカメラと接続されているアダプターを選択してください。

**ご注意** 正しいネットワークアダプターが選択されなかった場合、正常に動作しません。

**メモ** 1つのアダプターに複数のIPアドレスが登録されていると、同一アダプターがIPアドレスの登録数だけ表示されます。利用するIPアドレスを選択してください。

## 4 ログインを行う。

N-SD2000 ログイン画面にてパスワードを入力します。

工場出荷時の設定は以下のようになります。

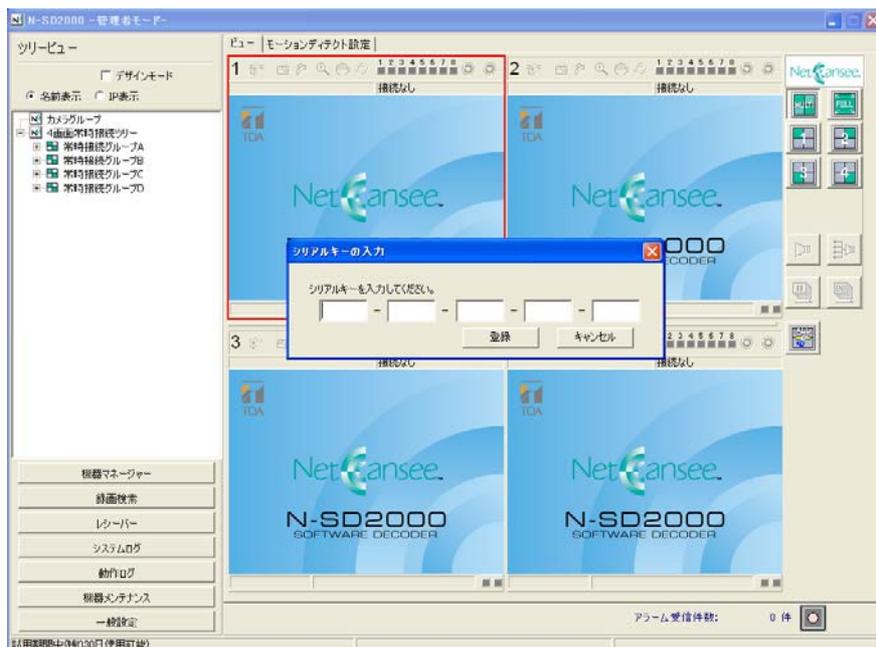
ユーザー : 管理者  
 パスワード : guest

正しいパスワードが入力されると、ソフトウェアデコーダーのメインウィンドウが表示されます。シリアルキーが未登録の場合は、シリアルキー入力のダイアログが表示されます(下図)。後で登録する場合は [キャンセル] をクリックしてください。

**ご注意** 使用するPCのスペックによっては、メインウィンドウ表示まで時間がかかることがあります。

**メモ**

- シリアルキー未登録で使用可能な期間は30日です。
- シリアルキーを登録しない場合は、1時間おきにシリアルキー入力のダイアログが表示されます。



### 第3章 起動から表示まで

[シリアルキーが登録されていない場合]

#### 5 シリアルキーを入力する。

CD ケースに貼付されているシリアルキーを入力してください。

メモ

[キャンセル] をクリックするとシリアルキー入力ダイアログが閉じて、キー未登録の状態ですソフトウェアデコーダーが使用できます。

#### 6 [登録] をクリックする。

登録に成功すると「シリアルキーの登録が完了しました」と表示されます。

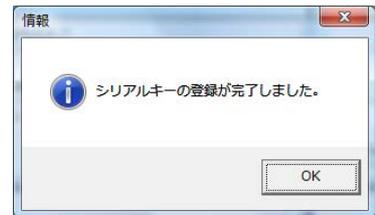
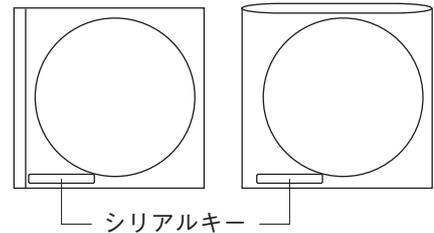
[OK] をクリックすると、ソフトウェアデコーダーが使用できます。

メモ

シリアルキーが正しくなければ「シリアルキーが正しくありません」と表示されたダイアログが開きます。

[OK] をクリックするとシリアルキー入力ダイアログに戻ります。

CD ケース



### ● その他のシリアルキー登録方法

[使用開始から 30 日を越えていない場合]

#### ● 手動でシリアルキー登録画面を表示して登録する

#### 1 メインウィンドウ上の [Netcansee] ロゴをクリックする。

バージョン情報ダイアログが表示されます。



#### 2 [製品シリアルキー登録] をクリックする。

シリアルキー未登録の場合、ボタンが表示されます。クリックするとシリアルキー入力ダイアログが表示されます。

#### 3 シリアルキーを入力する。

CD ケースに貼付されているシリアルキーを入力してください。

メモ

[キャンセル] をクリックすると、バージョン情報ダイアログに戻ります。



#### 4 [登録] をクリックする。

登録に成功すると「シリアルキーの登録が完了しました」と表示されます。

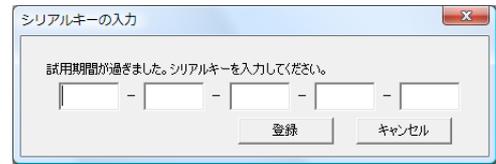
[OK] をクリックすると、ソフトウェアデコーダーが使用できます。



[使用開始から 30 日を越えた場合]

● 使用開始から 30 日を越えた後にソフトウェアデコーダーを起動した場合

**1** ソフトウェアデコーダーを起動する。  
シリアルキー入力のダイアログが表示されます。

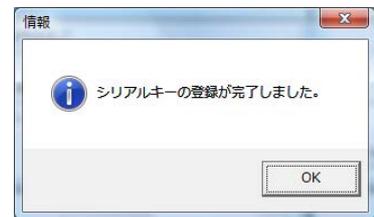


**2** シリアルキーを入力する。  
CD ケースに貼付されているシリアルキーを入力してください。

メモ

[キャンセル] をクリックすると、ソフトウェアデコーダーを終了します。

**3** [登録] をクリックする。  
登録に成功すると「シリアルキーの登録が完了しました」と表示されます。  
[OK] をクリックするとログインウィンドウが表示され、ソフトウェアデコーダーが使用できます。



● ソフトウェアデコーダー起動中に 30 日を越えた場合

**1** ソフトウェアデコーダーの画面に [シリアルキー登録] と [アプリケーション終了] のボタンが表示される。



**2** [シリアルキー登録] をクリックする。  
シリアルキー入力のダイアログが表示されます。

メモ

[アプリケーションの終了] をクリックすると、シリアルキーの登録を行わずにソフトウェアデコーダーを終了します。

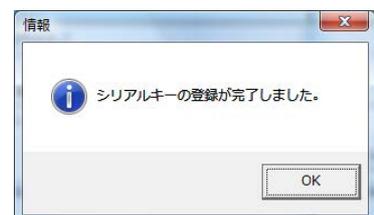
**3** シリアルキーを入力する。  
CD ケースに貼付されているシリアルキーを入力してください。

メモ

[キャンセル] をクリックすると、手順1のソフトウェアデコーダー画面に戻ります。

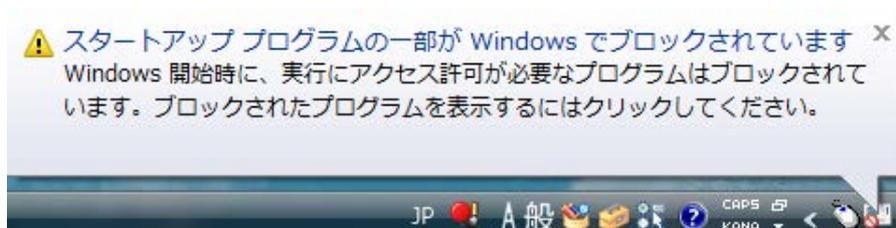


**4** [登録] をクリックする。  
登録に成功すると「シリアルキーの登録が完了しました」と表示されます。  
[OK] をクリックすると、引き続きソフトウェアデコーダーが使用できます。



## Windows Vista、Windows 7 でのご使用について

Windows Vista、Windows 7 をご使用の場合、Windows の設定を変更する必要があります。設定を変更しないと、N-SD2000 を Windows のスタートメニューのスタートアップに登録し、Windows の起動時に自動的に起動するようにした場合、Windows Defender の機能により N-SD2000 が起動しません。



以下は Windows の設定の変更例です。Windows Vista の画面で説明します。

### ■ Windows のユーザーアカウント制御（UAC）の設定を解除する

**1** [スタート] メニューから [コントロールパネル] を開く。



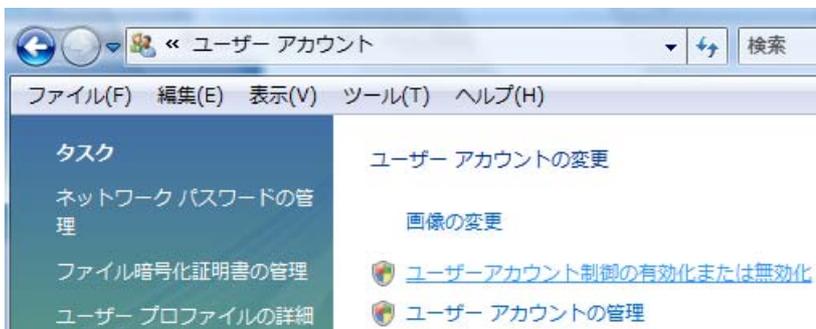
**2** [コントロールパネル] の [ユーザーアカウント] を開く。



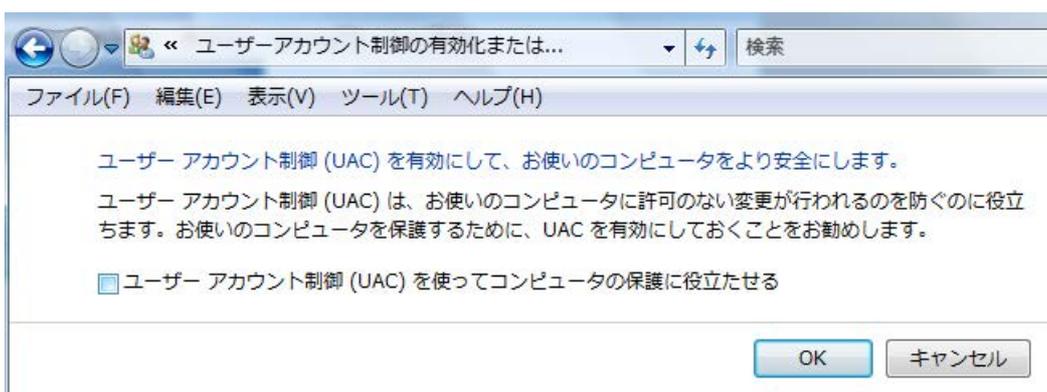
### 3 [ユーザーアカウント] を開く。



### 4 [ユーザーアカウント制御の有効化または無効化] を開く。



### 5 [ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる] のチェックを外し、[OK] をクリックして設定を完了する。



**ご注意** UAC を解除することによって生じたセキュリティリスク、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。

## ソフトウェアデコーダーの終了

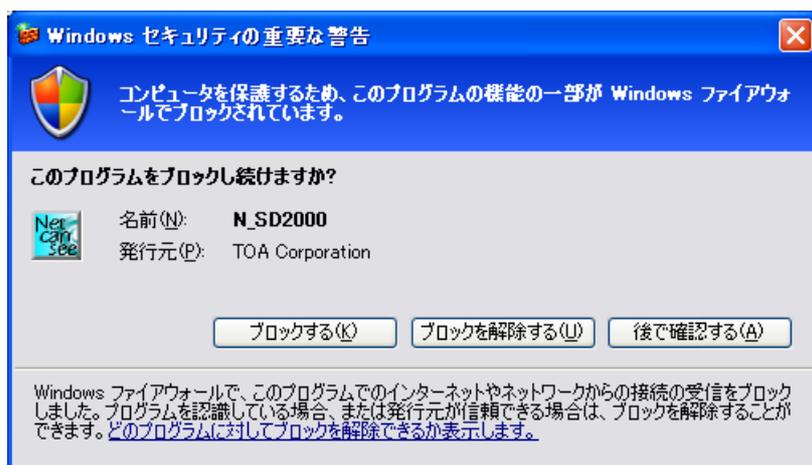
ソフトウェアデコーダーを終了するには、タイトルバーの「X」ボタンをクリックします。

### ご注意

ソフトウェアデコーダーを終了する前に、表示中の映像を切断してください。表示中の映像を切断しないで終了すると、次回起動時にしばらく接続できないことがあります。

## Windows ファイアウォールについて

Windows ファイアウォールが有効になっていると、N-SD2000 起動時およびログイン時に以下の警告ダイアログが表示されます。

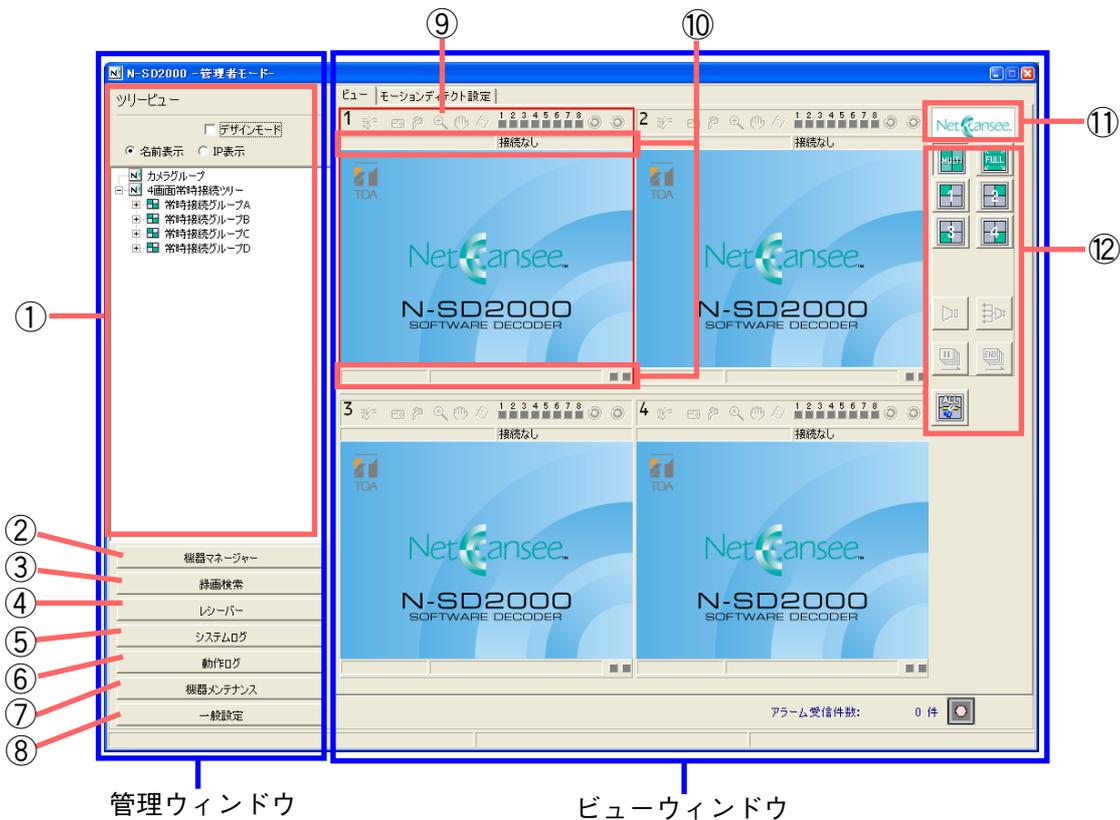


☒ ☒ ダイアログ内の名前は「Startapp」および「N\_SD2000」が表示されます。

「ブロックを解除する」をクリックし、ファイアウォールによるブロックを解除してください。ブロックを解除しないと正しく接続できない場合があります。

この操作はN-SD2000のインストール直後の起動時のみ必要になります。

# 各部の名称とはたらき



- ① ツリービューエリア  
このエリアに表示したいネットワークカメラをグループ分けして、わかりやすく登録できます。
- ② 機器マネージャーボタン  
クリックすると、LAN上に接続されているネットワーク機器を検出して登録するためのウィンドウが表示されます。
- ③ 録画検索ボタン  
クリックすると、ネットワークデジタルレコーダーの録画を検索するためのウィンドウが表示されます。
- ④ レシーバーボタン  
クリックすると、登録されているネットワークビデオレシーバーに映像を表示させるためのウィンドウが表示されます。
- ⑤ システムログボタン  
クリックすると、ネットワーク機器のログを表示するシステムログウィンドウが表示されます。
- ⑥ 動作ログ  
クリックすると、接続に関する動作ログを表示するウィンドウが表示されます。
- ⑦ 機器メンテナンスボタン  
クリックすると、ネットワーク機器のコンフィギュレーションファイル、ファームウェアをメンテナンスするウィンドウが表示されます。
- ⑧ 一般設定ボタン  
クリックすると、ソフトウェアデコーダーの各種設定のためのウィンドウが表示されます。
- ⑨ ツールバー  
映像の切断、スナップショット、デジタルズームなどの操作ボタンがあります。
- ⑩ ステータスバー  
ビューの情報が表示されます。
- ⑪ Netcansee ロゴ  
クリックすると、バージョン情報が表示されます。
- ⑫ 制御ボタン  
1画面、4画面、フルスクリーン表示の切り換え、音声送信などの制御ボタンがあります。

# 機器リストを作成する

ネットワーク機器を機器リストに登録することで、ソフトウェアデコーダー上でライブ接続、録画検索、再生、レシーバーに接続されたモニターでの表示が可能となります。

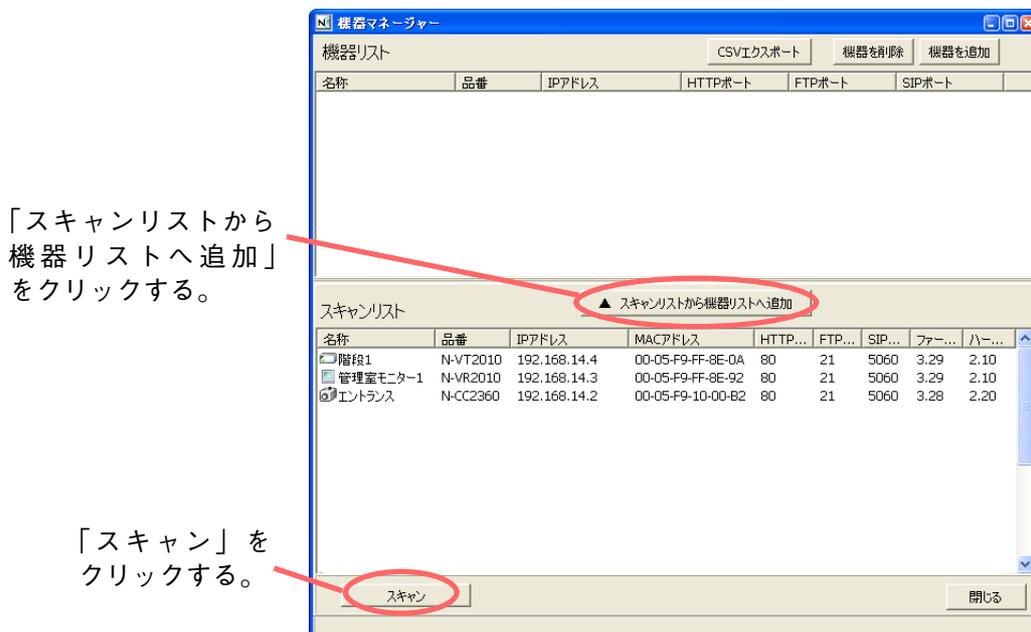
機器リストに機器に登録するには、以下の2種類の方法があります。

- スキャンを利用して機器リストへ登録する
- 機器リストへ手動で登録する

## ■ スキャンを利用して機器リストへ登録する

ネットワークに接続されている機器を検出して、機器リストに登録します。

- 1 管理ウィンドウの「機器マネージャー」をクリックする。  
以下の機器マネージャーウィンドウが表示されます。



- 2 「スキャン」をクリックする。  
ネットワーク上に接続されている機器がスキャンリストに表示されます。
- 3 登録したい機器を選択し、「スキャンリストから機器リストへ追加」をクリックする。  
選択した機器が機器リストに登録されます。

☒ ☒ 機器リストの機器を削除するときは、機器を選択して「機器を削除」をクリックしてください。

### ご注意

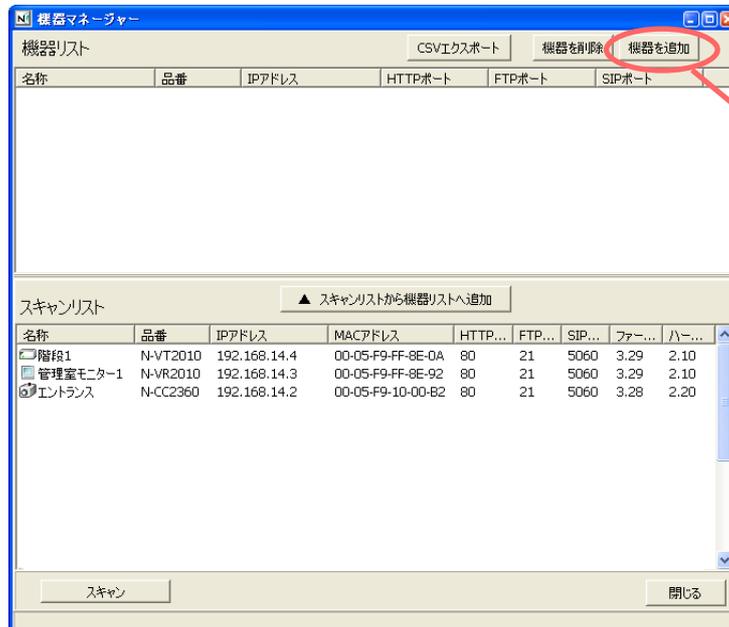
- ローカルブロードキャストが届く範囲で、電源が入っている機器が検出されます。
- ネットワークの状態により、一部の情報がリスト表示されない場合があります。
- 機器リストに同一MACアドレスの機器がすでに登録されている場合は、スキャンリストから機器リストへ重複して登録することはできません。
- 接続中の機器は、機器リストから削除することはできません。

## ■ 機器リストへ手動で登録する

ネットワークに存在しない機器およびローカルブロードキャストの届かない範囲に設置した機器を機器リストに登録します。

### 1 管理ウィンドウの「機器マネージャー」をクリックする。

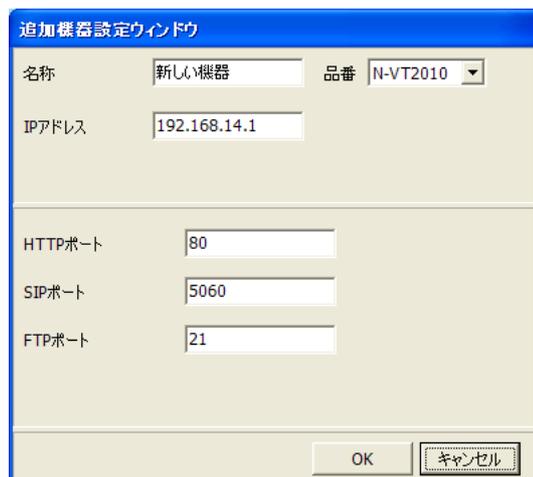
以下の機器マネージャーウィンドウが表示されます。



「機器を追加」をクリックする。

### 2 「機器を追加」をクリックする。

追加する機器の設定ウィンドウが表示されます。



### 3 追加したい機器の品番やIPアドレスを設定する。

表示されたウィンドウ上で必要な項目を入力してください。

### 4 「OK」をクリックすると、設定した機器が登録されます。

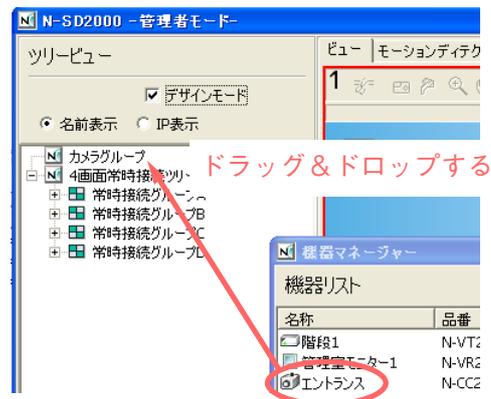
☒ モ 機器リストの機器を削除するときは、機器を選択して「機器を削除」をクリックしてください。

**ご注意** 接続中の機器は、機器リストから削除することはできません。

# ライブ映像を PC で表示する

ライブ映像をソフトウェアデコーダー上で表示します。

- 1 ライブを表示したい機器を機器リストへ登録する。
- 2 ツリービューの「デザインモード」にチェックを入れる。
- 3 ツリービューへ機器を登録する。  
機器リストからツリービューへ機器をドラッグ&ドロップして登録します。
- 4 ライブ映像を表示させたいビューをクリックして指定する。  
指定したビューが赤枠選択されます。
- 5 表示したい機器をツリービュー上でダブルクリックする。  
接続が完了すると、ライブ映像が表示されます。



メ モ 1画面表示では指定の必要はありません。

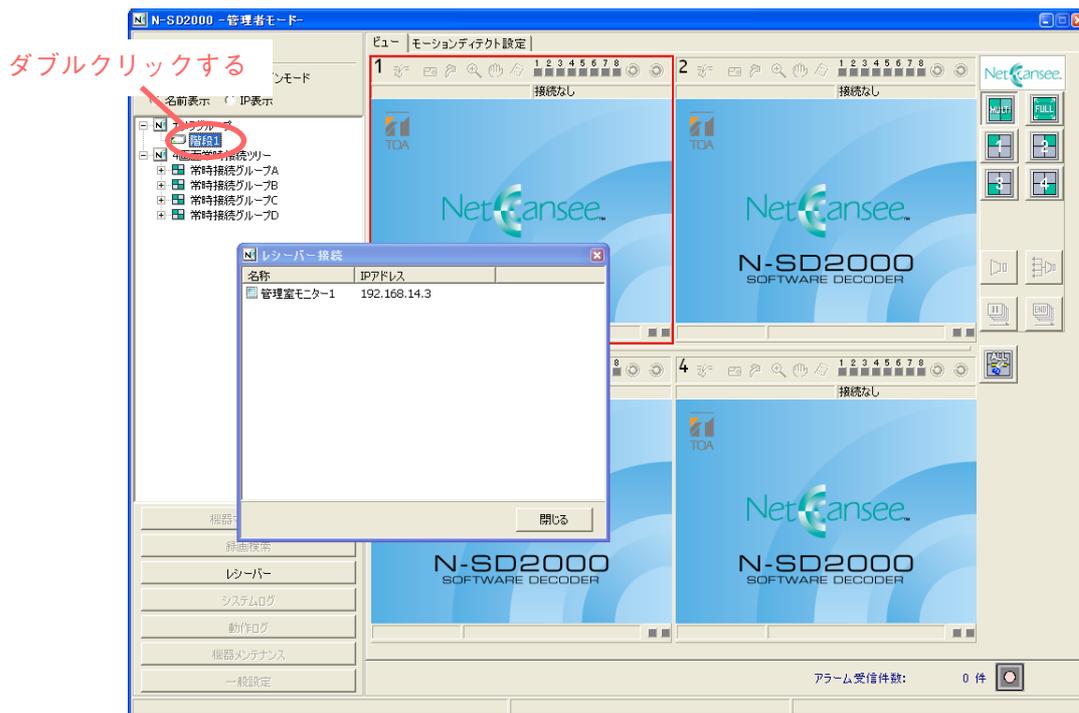
メ モ ツリービューは、IPカメラ、トランスミッターの登録が可能です。



# ライブ映像をレシーバーで表示する

レシーバーに接続されたモニターにライブ映像を表示します。

- 1 機器リストへ接続するレシーバーを登録する。
- 2 管理ウィンドウの「レシーバー」をクリックする。  
レシーバーウィンドウが表示され、機器リストに登録したレシーバーが表示されます。
- 3 接続を行いたいレシーバーを選択する。
- 4 モニターに表示したい機器をツリービュー上でダブルクリックする。  
接続が完了すると、レシーバーに接続されたモニターに映像が表示されます。

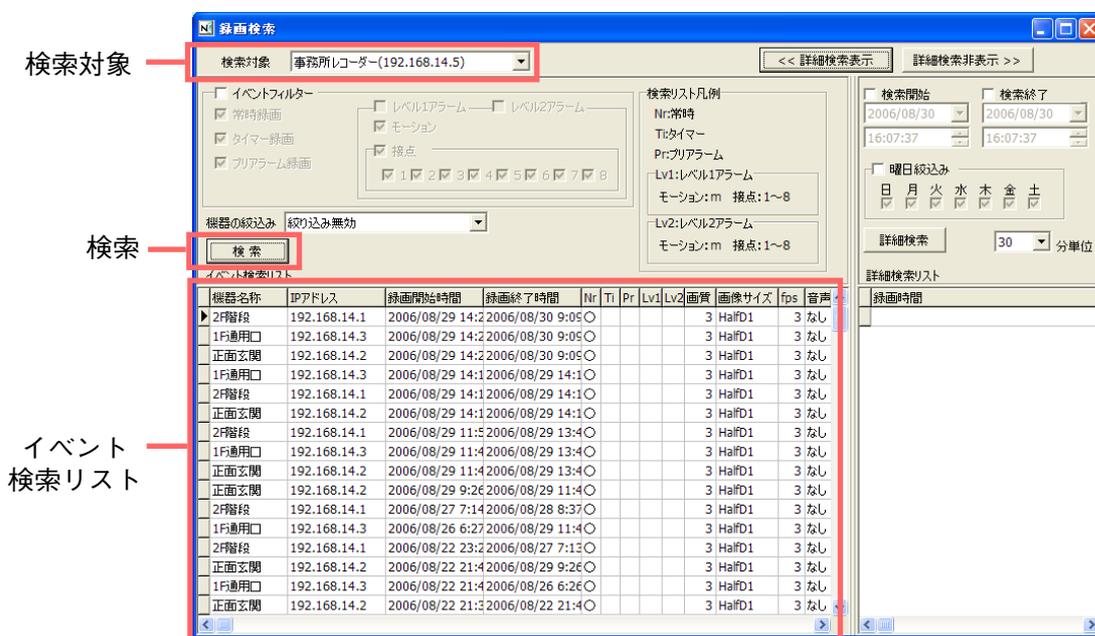


# 録画を再生する

ネットワークデジタルレコーダーの録画を検索し、ソフトウェアデコーダー上で再生します。

**1** 検索したいネットワークデジタルレコーダーを機器リストへ登録する。

**2** 管理ウィンドウの「録画検索」をクリックする。  
録画検索ウィンドウが表示されます。



**3** 「検索対象」 から検索するネットワークデジタルレコーダーを選択する。

**4** 「検索」 をクリックする。  
イベント検索リストに検索結果が表示されます。

- 5** 接続を行いたいビューをクリックして指定する。  
指定したビューが赤枠選択されます。

☒ モ 1画面表示では指定の必要はありません。

- 6** 再生したいイベントをダブルクリックする。  
接続が完了すると、ビューウィンドウで再生が開始されます。



ダブルクリックする



# 第4章

---

設定のしかた

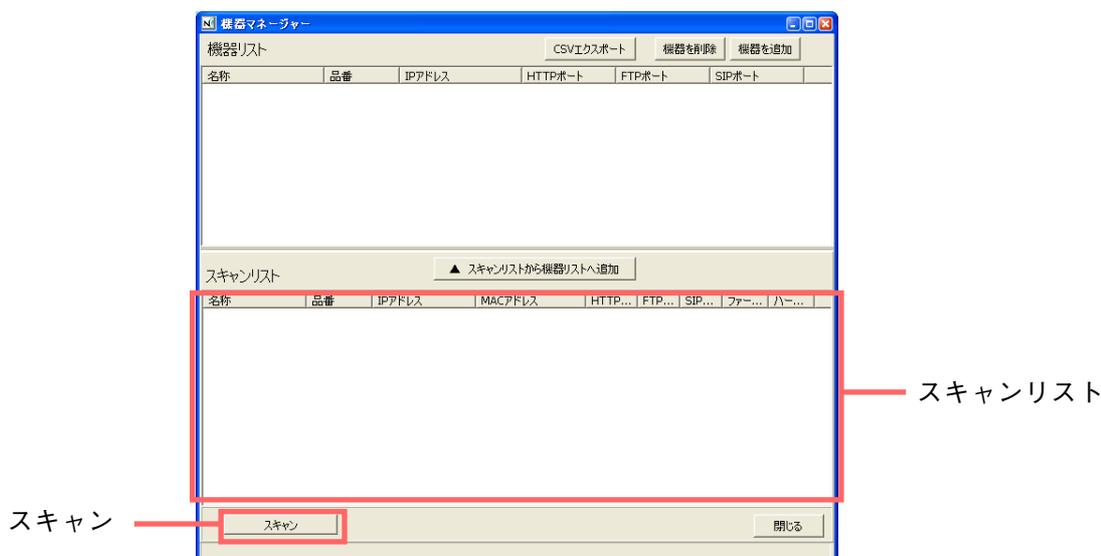
# ネットワーク上の機器の設定と操作

ネットワーク上に接続されている機器をスキャンリストに表示させて、機器の設定や操作ができます。

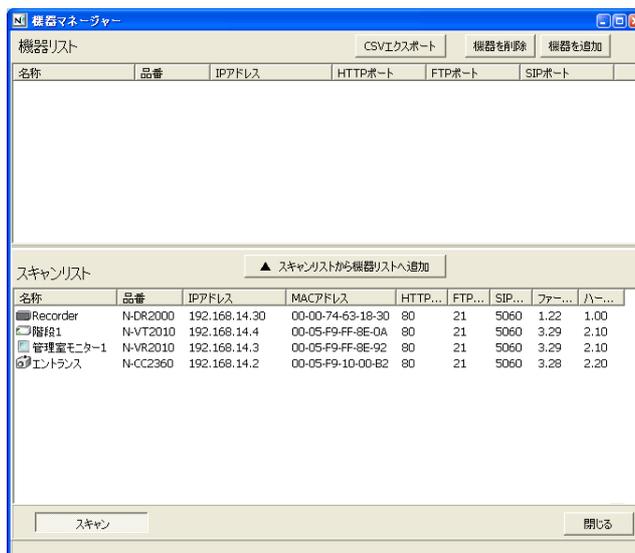
## ■ ネットワーク上の機器の検出

ネットワーク上に接続されている機器を検出します。

- 1 管理ウィンドウの「機器マネージャー」をクリックする。  
機器マネージャーウィンドウが表示されます。



- 2 「スキャン」をクリックする。  
ネットワーク上に接続されている機器とその内容がスキャンリストに表示されます。



メモ スキャンリストには、最大2,000台の機器が表示できます。

スキャンにより取得される情報は以下の通りです。

- 名称 : 機器のアイコンと名称が表示されます。
- 品番 : 機器の品番が表示されます。
- IP アドレス : 機器に設定されている IP アドレスが表示されます。
- MAC アドレス : 機器の MAC アドレスが表示されます。
- HTTP ポート : 機器に設定されている HTTP ポートが表示されます。
- FTP ポート : 機器に設定されている FTP ポートが表示されます。
- SIP ポート : 機器に設定されている SIP ポートが表示されます。
- ファームウェア Ver : 機器のファームウェアバージョンが表示されます。
- ハードウェア Ver : 機器のハードウェアバージョンが表示されます。

#### **ご注意**

- ローカルブロードキャストが届く範囲で、電源が入っている機器が検出されます。
- スキャンボタンがクリックされた状態で、5分間経過すると自動的にボタンがオフ状態になります。
- ネットワークの状態により、一部の情報がリスト上に表示されない場合があります。

## ■ 機器のネットワーク設定を変更する

1 スキャンリストに表示された機器を選択し、右クリックする。  
ポップアップメニューが表示されます。

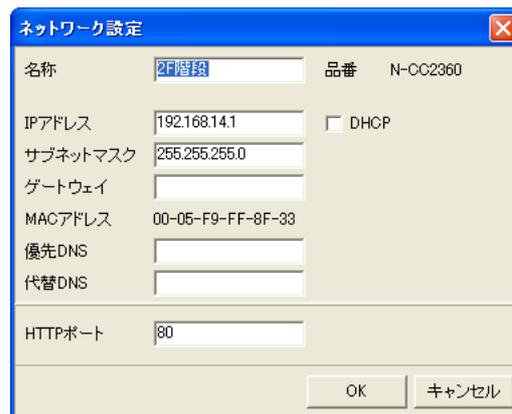
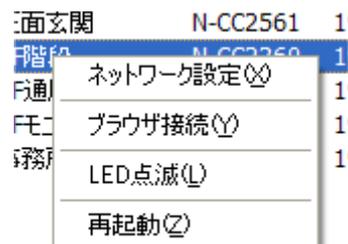
2 「ネットワーク設定」をクリックする。  
ネットワーク設定画面が表示されます。

3 変更したい項目を変更する。

4 「OK」をクリックする。  
再起動確認ダイアログが表示され、「OK」をクリックすると、機器が再起動されます。再起動後に設定が機器へ反映されます。

モ 機器の名称は全角15文字、半角31文字まで入力可能です。

ご注意 ネットワークデジタルレコーダーでは、DHCPの設定はできません。



## ■ 機器のLED点滅を行う

1 スキャンリストに表示された機器を選択し、右クリックする。  
ポップアップメニューが表示されます。

2 「LED点滅」をクリックする。  
選択した機器のREADY LEDが点滅します。この機能により選択した機器の判別が可能です。

### ご注意

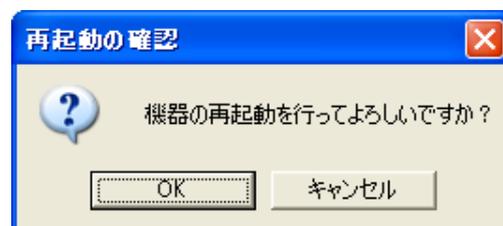
- ネットワークデジタルレコーダーでは、ポップアップメニューの「LED点滅」は選択できません。
- 機器によっては対応していない機器やカバーを外す必要のあるカメラがあります。詳しくは、各カメラの取扱説明書を参照してください。

## ■ 機器の再起動を行う

1 スキャンリストに表示された機器を選択し、右クリックする。  
ポップアップメニューが表示されます。

2 「再起動」をクリックする。  
再起動の確認ダイアログが表示されます。

3 「OK」をクリックする。  
再起動が実行されます。



## 機器リストを作成する

ネットワーク機器を機器リストに登録することで、ソフトウェアデコーダー上でライブ、録画検索、再生、レシーバーでの表示が可能となります。

機器リストに機器に登録するには、以下の2種類の方法があります。

- スキャンを利用して機器リストへ登録する。  
(ネットワーク上にすでに機器が設置されている場合)
- 機器リストへ手動で登録する。  
(ネットワーク上に機器が設置されていない場合、またはローカルブロードキャストの届かない場所へ機器を設置している場合)

✕ 機器リストには、最大2,000台の機器が登録できます。

### ■ スキャンリストを利用して機器リストへ登録する

ネットワーク上に接続されている機器を検出して、機器リストに登録します。

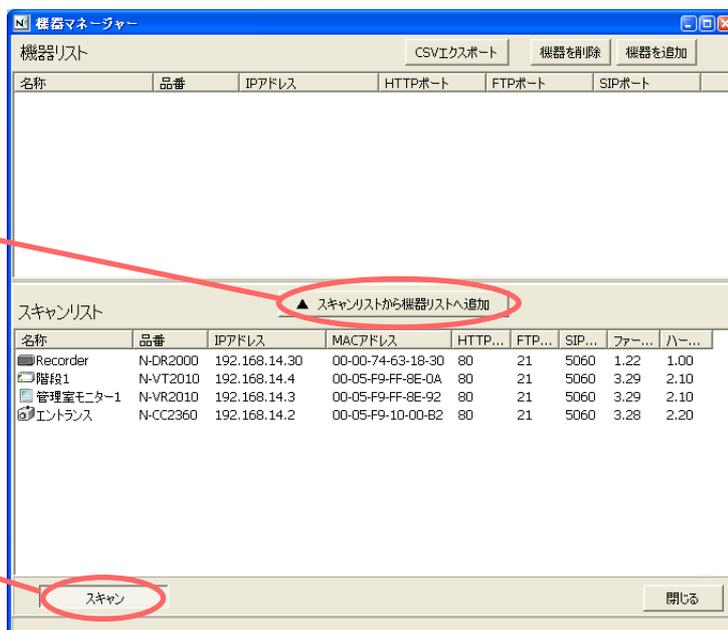
- 1 管理ウィンドウの「機器マネージャー」をクリックする。  
機器マネージャーウィンドウが表示されます。
- 2 「スキャン」をクリックする。  
ネットワーク上に接続されている機器がスキャンリストに表示されます。
- 3 登録したい機器を選択し「スキャンリストから機器リストへ追加」をクリックする。  
選択した機器が機器リストに登録されます。  
登録時にはスキャンで取得した機器の設定情報が反映されます。

#### ご注意

機器リストに同一MACアドレスの機器がすでに登録されている場合は、機器リストへ登録することができません。

「スキャンリストから  
機器リストへ追加」  
をクリックする。

「スキャン」を  
クリックする。

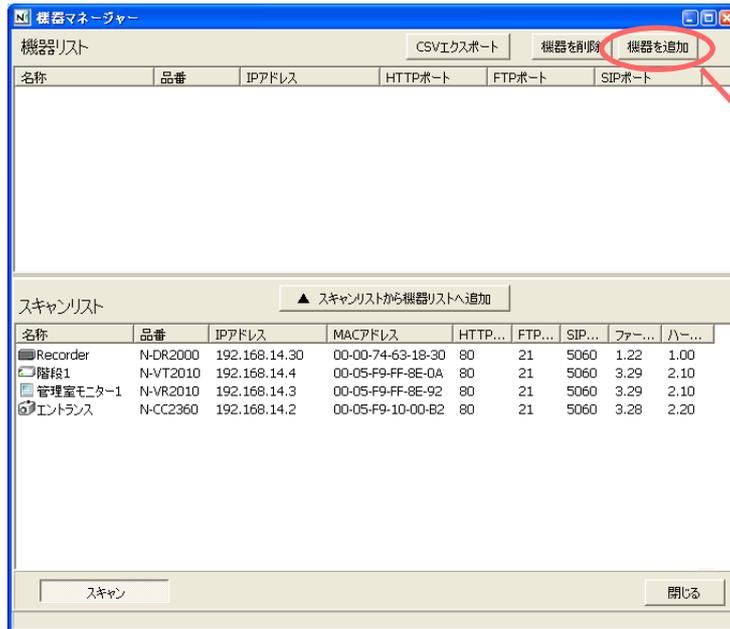


## ■ 機器リストへ手動で登録する

ネットワークに存在しない機器およびローカルブロードキャストの届かない範囲に設置した機器を機器リストに登録します。

☒ ☒ ネットワークに存在する機器と同じ設定の機器は登録可能ですが、MACアドレスは設定できません。

- 1 管理ウィンドウの「機器マネージャー」をクリックする。  
機器マネージャーウィンドウが表示されます。

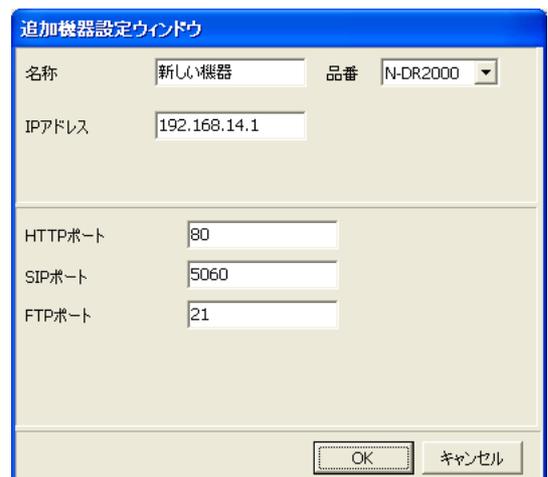


「機器を追加」をクリックする。

- 2 「機器を追加」をクリックする。

追加機器設定ウィンドウが表示されます。  
以下の項目が設定できます。

- 名称 : 登録する機器の名称を設定します。
- 品番 : 登録する機器の品番を選択します。
- IPアドレス : 登録する機器のIPアドレスを設定します。
- HTTPポート : 登録する機器のHTTPポートを設定します。
- SIPポート : 登録する機器のSIPポートを設定します。
- FTPポート : 登録する機器のFTPポートを設定します。



☒ ☒

- 機器の名称は全角15文字、半角31文字まで入力可能です。
- FTPポートはN-DR2000の場合にのみ設定可能です。

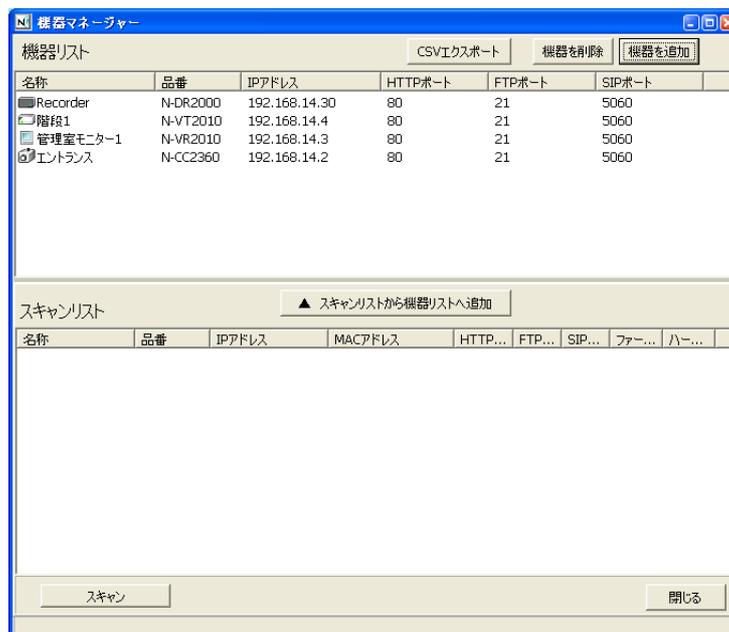
- 3 「OK」をクリックすると、設定した機器が機器リストへ登録されます。

# 登録した機器のパラメーター設定

ソフトウェアデコーダーに登録した機器の接続に利用するパラメーターの設定を行います。

**ご注意** 設定内容は登録した機器本体の設定へは反映されません。

- 1 管理ウィンドウの「機器マネージャー」をクリックする。  
機器マネージャーウィンドウが表示されます。



- 2 機器リストに表示されている機器を選択し、右クリックする。  
ポップアップメニューが表示されます。



- 3 「接続時パラメーター設定」をクリックする。  
機器に対応したウィンドウが開き、設定が変更できます。

## ■ 接続時パラメーター設定

### ● IPカメラとトランスミッターの設定

N-SD2000 から接続する際のパラメーターを決定します。

設定項目	選択（下線は初期値）	説明
名称	全角15文字／半角31文字まで	登録した機器の名称を設定します。
IPアドレス	半角数字のみ	登録した機器のIPアドレスを入力します。
MACアドレス	入力不可	スキャンリストより登録された機器のみ、その機器のMACアドレスが表示されます。
HTTPポート	半角数字1～65535まで	登録した機器のHTTPポートを設定します。
SIPポート	半角数字1～65535まで	登録した機器のSIPポートを設定します。
FTPポート	入力不可	機器のFTPポートが表示されます。
管理者SIPパスワード、 ユーザーSIPパスワード	半角英数15文字まで 初期値 guest（管理者）、なし（ユーザー）	登録した機器の接続時の認証のパスワードを設定します。機器側の設定と合わせてください。
ストリーミング モードで接続	チェックなし／あり	有効にすると、接続時にストリーミングモードで接続します。
音声送受信モード	なし／受信のみ／送信のみ／送受信	接続時の音声のモードを設定します。ストリーミングモードでは「なし」または「受信のみ」の選択になります。
RS-232C*2	なし／C-DR1605/C-DR0905 制御／ C-DR161/DR091/DV09xW-6 + TOA コン ビネーションカメラ制御（C-RM1000 機 能）／マルチスイッチャー（C-MS シリ ーズ）制御（C-RM100(ISDN) 機能）／ C-SC100/ マルチスイッチャー（C-MS シリーズ）制御（C-RM100(ISDN) 機能 ／C-SC80/C-SC50 制御（C-RM100 (ISDN) 機能）／ブリッジ	トランスミッターのRS-232Cポートに接続する機器を指定することで、ソフトウェアデコーダーとトランスミッターの接続時に指定した機器の制御が可能になります。*1
RS-485*2	なし／TOA コンビネーションカメラ タイ プA（C-RM700 マスター機能）／TOA コ ンビネーションカメラ タイプA （C-RM500 スレーブ機能）／TOA コン ビネーションカメラ タイプA（C-RM700 ス レーブ機能）／TOA コンビネーションカ メラタイプB（C-RM700 マスター機能）（ポ イントビュー含む）／C-DR161/DR091/ DV09xW-6 +TOA コンビネーションカメ ラ制御（C-RM1000 機能）／ブリッジ	トランスミッターのRS-485ポートに接続する機器を指定することで、ソフトウェアデコーダーとトランスミッターの接続時に指定した機器の制御が可能になります。*1

設定項目	選択（下線は初期値）	説明
接続カメラ選択	—	クリックするとトランスミッターに接続したコンビネーションカメラ、またはトランスミッターに接続した DVR からカメラを制御するために、接続するカメラの種類を設定するウィンドウが表示されます。 <sup>*1</sup>
DVRカスケード設定	—	クリックするとトランスミッターに接続した DVR のカスケード接続状態を設定するウィンドウが表示されます。 <sup>*1</sup>
シリアル設定	—	クリックすると PC のシリアルポートの設定をするウィンドウが表示されます。 <sup>*1</sup>
接続時DVR	<u>0</u> ~8	トランスミッターに複数のデジタルレコーダーがカスケード接続されている場合に、ビュー接続直後に制御したいデジタルレコーダーの ID を指定します。ビュー接続後は、制御パネルで DVR ID を変更できます。 <sup>*1</sup> 0 を指定すると無効になります。
接続時カメラID	<u>0</u> ~255	トランスミッターに複数のカメラが接続されている場合に、ビュー接続直後に制御したいカメラの ID を指定します。ビュー接続後は、制御パネルでカメラ ID を変更できます。 <sup>*1</sup> 0 を指定すると無効になります。
接続時ポジション	<u>0</u> ~255	機器との接続時にコンビネーションカメラを指定したポジションに向けるための設定です。ここで指定したカメラポジションにカメラが旋回します。 <sup>*1</sup> 0 を指定すると無効になります。 <sup>*3</sup> ネットワークコンビネーションカメラ、トランスミッターからアナログコンビネーションカメラを制御する場合のどちらでも設定可能です。
接続時制御モニター	<u>1</u> /2	トランスミッターに C-DR161/DR091/DV09xW-6 を接続している場合に、接続時の制御対象モニターを指定します。 <sup>*1</sup> 接続後に手動で切り換えることも可能です。
アラーム接続時に接続時接点出力、接続時ポジション移動を有効にする	チェックなし / <u>あり</u>	アラーム接続時に接点出力、接続時ポジション動作を行うかどうかを設定します。
接点出力1/2	チェックなし / <u>あり</u>	接続時に接点出力を行うかどうかを設定します。 <sup>*1</sup>
画像サイズ	<u>D1</u> /Half D1/QVGA/CIF	接続時に利用する画像サイズを設定します。 <sup>*1</sup>
フレームレート	1/2/3/5/6/10/15/20/25/ <u>30</u> (1/2/3/5: N-DR2000の場合)	接続時に利用するフレームレートを設定します。 <sup>*1 *3</sup>
画質	動き優先 / やや動き優先 / <u>標準</u> / やや画質優先 / 画質優先	接続時に利用する画質を設定します。 <sup>*1 *3</sup>
ビットレート	16/32/64/128/256/384/ 512/768/1024/1536/ <u>2048</u> / 3072/4096	接続時に利用するビットレートを設定します。 <sup>*1 *3</sup>

\*1 ストリーミングモード時は無効です。

\*2 RS-232CとRS-485ポートに同時に利用できない機器を選択した場合は、ダイアログにて警告表示され設定できません。

\*3 ビットレートを制限するために、状況によっては設定値よりも画質やフレームレートが下回る場合があります。詳しくは、各機器の説明書（P. 1-2「説明書の名称」）の「解説」を参照してください。

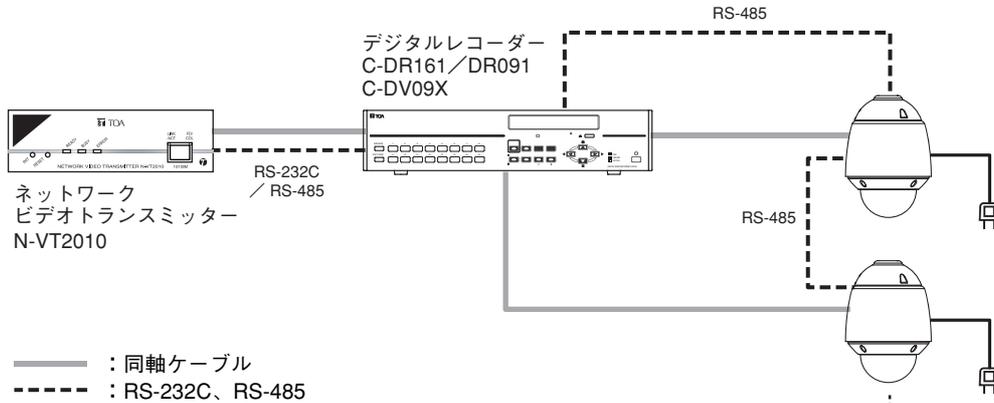
#### ご注意

ストリーミングに設定した場合、接続対象機器の設定も合わせて行ってください。ストリーミングモードの詳細については、各機器の説明書（P. 1-2「説明書の名称」）の「解説」を参照してください。

● 接続カメラ選択について

トランスミッターに直接接続したコンビネーションカメラや、トランスミッターに接続したデジタルレコーダー、マルチスイッチャーに入力するコンビネーションカメラを制御するために設定します。トランスミッターとコンビネーションカメラの接続により、表示される接続カメラリストウィンドウは変わります。

[デジタルレコーダー C-DR161/DR091/DV09x に接続したコンビネーションカメラを制御する場合]

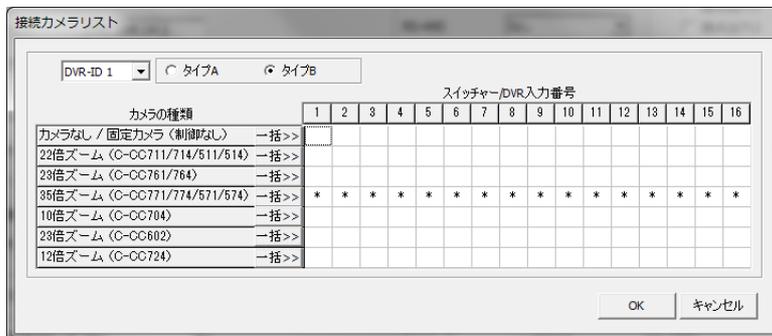


1 「接続時パラメーター設定」でトランスミッターのシリアルポートに接続したデジタルレコーダーを設定する。

「RS-232C」または「RS-485」で「C-DR161/DR091/DV09xW-6 + TOA コンビネーションカメラ制御 (C-RM1000 機能)」を選択する。

2 「接続カメラ選択」をクリックする。

以下のウィンドウが表示されます (図はタイプBの場合)。



3 デジタルレコーダーに接続したカメラを設定する。

接続するカメラのタイプを選択すると制御可能な機器が接続カメラリスト内に表示されます。リスト内をクリックすることで使用するカメラを選択できます。すべて同じカメラを選択する場合はリスト左の一括ボタンをクリックしてください。

DVR をカスケード接続している場合は DVR-ID を切り換え、再度カメラを選択してください。

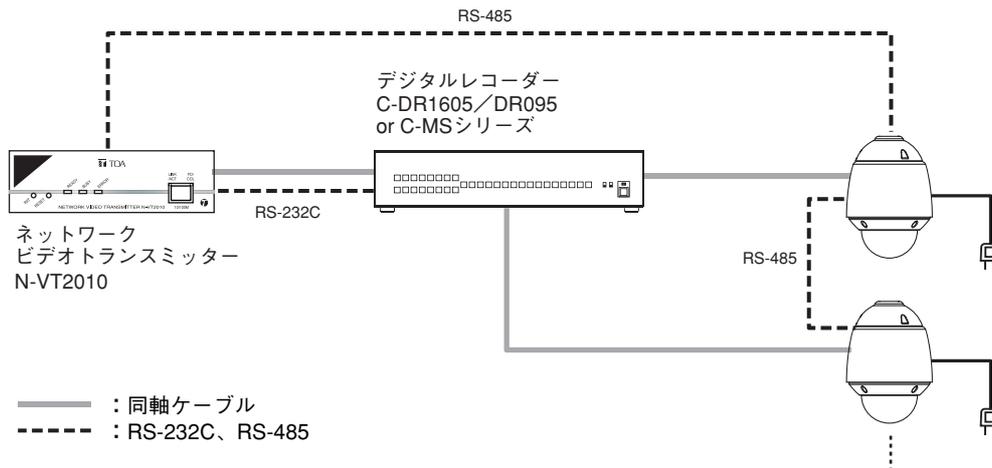
4 「OK」をクリックする。

設定が反映され、接続時にカメラの制御が可能になります。

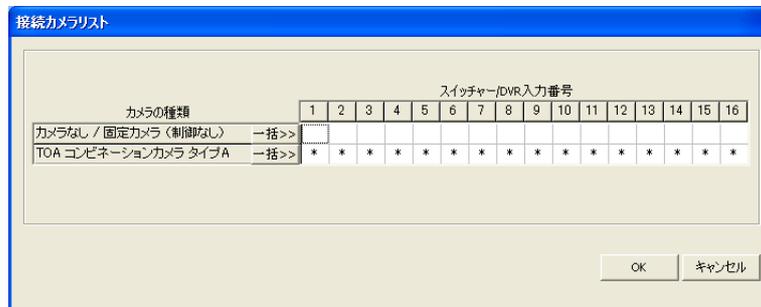
メ モ 1 台のデジタルレコーダーでのカメラ制御は、タイプA、タイプBのいずれかになります。

- ご注意**
- 接続カメラ選択と実際の接続が異なる場合は正しく制御できません。
  - デジタルレコーダーのカメラ入力端子番号とコンビネーションカメラのカメラIDは一致させて設置してください。一致していない場合は正しく制御できません。

[デジタルレコーダー C-DR1605/0905 およびマルチスイッチャーに接続したカメラを制御する場合]



- 1 「接続時パラメーター設定」でトランスミッターのシリアルポートに接続した機器とコンビネーションカメラの設定を行う。  
 接続時パラメーター設定の「RS-232C」で「C-DR1605/C-DR095 制御」もしくは「マルチスイッチャー (C-MS シリーズ) 制御 (C-RM100(ISDN)機能)」を選択し、「RS-485」に「TOA コンビネーションカメラタイプ A (C-RM700 マスター機能)」もしくは「TOA コンビネーションカメラ タイプ B (C-RM700 マスター機能 (ポイントビュー含む))」を選択する。
- 2 「接続カメラ選択」をクリックする。  
 以下のウィンドウが表示されます (図はタイプ A の場合)。



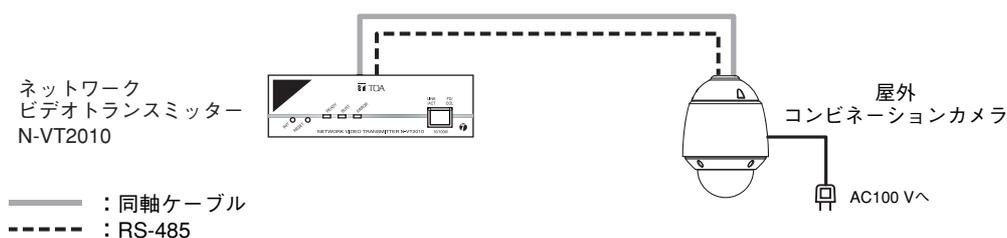
- 3 デジタルレコーダーおよびマルチスイッチャーに接続したカメラを設定する。  
 接続カメラリストをクリックすると、使用するカメラを選択できます。すべて同じカメラを選択する場合はリスト左の一括ボタンをクリックしてください。
- 4 「OK」をクリックする。  
 設定が反映され、接続時にカメラの制御が可能になります。

**メモ** 接続カメラ選択と実際の接続が異なる場合は正しく制御できません。

**ご注意**

デジタルレコーダーおよびマルチスイッチャーのカメラ入力端子番号とコンビネーションカメラのカメラ ID は一致させて設置してください。一致していない場合は、正しく制御できません。

[トランスミッターに直接接続したコンビネーションカメラを制御する場合]

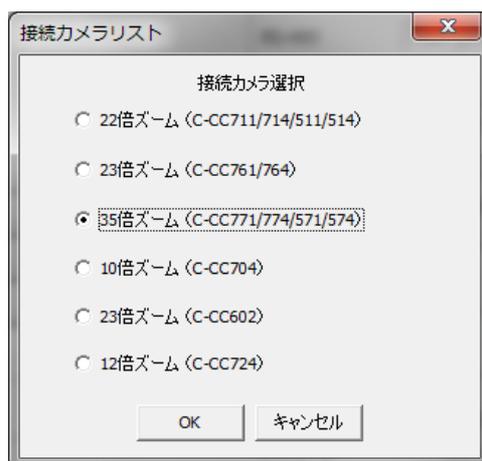


**1** 「接続時パラメーター設定」でトランスミッターのシリアルポートに接続したコンビネーションカメラの設定を行う。

接続時パラメーター設定の「RS-485」で「TOA コンビネーションカメラ タイプ A (C-RM700 マスター機能)」「TOA コンビネーションカメラ タイプ B (C-RM700 マスター機能 (ポイントビュー含む))」のどちらかを選択する (タイプ A を選択した場合はこれで設定終了です)。

**2** 「接続カメラ選択」をクリックする。

以下のウィンドウが表示されます。



**3** 使用するコンビネーションカメラを選択し「OK」をクリックする。

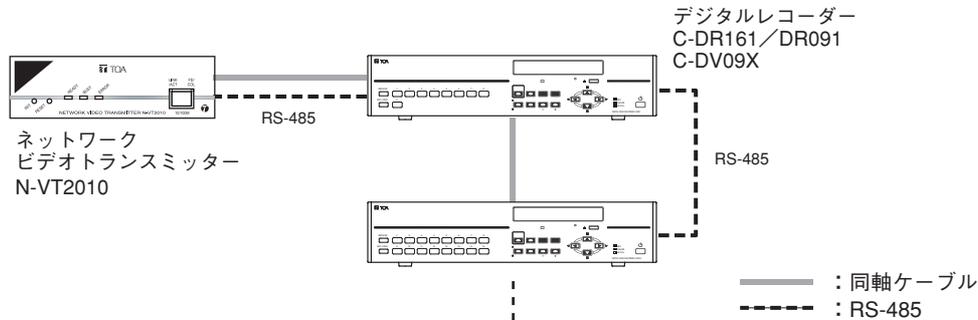
設定が反映され、接続時にカメラの制御が可能になります。

**メモ** 接続カメラ選択と実際の接続が異なる場合は正しく制御できません。

● DVR カスケード設定について

カスケード接続をした C-DR161/DR091/DV09xW-6 を、トランスミッターを通してソフトウェアデコーダーから制御するために設定します（カスケード接続していない場合は設定する必要はありません）。

**ご注意** N-SD2000 からグループシーケンスの制御を行うことはできません。

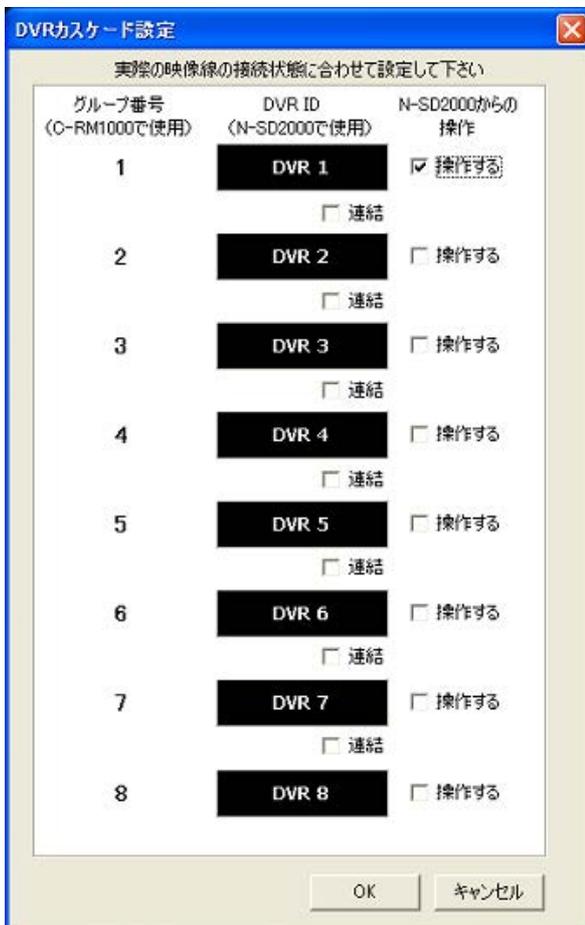


**1** 「接続時パラメーター設定」でトランスミッターのシリアルポートに接続したデジタルレコーダーを設定する。

「RS-485」で「C-DR161/DR091/DV09xW-6 + TOA コンビネーションカメラ制御（C-RM1000 機能）」を選択する。

**2** 「DVR カスケード設定」をクリックする。

以下のウィンドウが表示されます。



### 3 デジタルレコーダーの映像線の接続状態を設定する。

カスケード接続したデジタルレコーダー間で映像線が繋がれている場合は、該当する位置の「連結」をチェックしてください。チェックすると接続状態を示す線が表示され、それらのデジタルレコーダーは同一グループになります。

### 4 操作するデジタルレコーダーを設定する。

「操作する」をチェックすると、そのデジタルレコーダーの属するグループのデジタルレコーダーをソフトウェアデコーダーから操作可能になります。

メモ

- 「操作する」チェックボックスは、各グループの最も若いDVR IDのみ有効状態になります。
- 「操作する」チェックボックスは、最低1つチェックしてください。

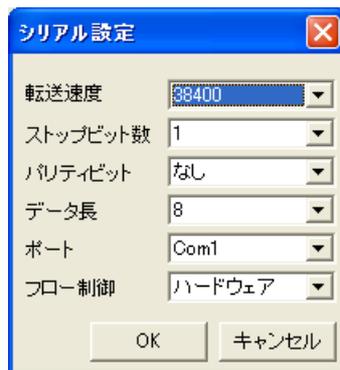
### 5 「OK」をクリックする。

設定が反映され、接続時にDVRの制御が可能になります。

## [シリアル設定について]

PCのシリアルポートに接続した機器の通信仕様とPCのシリアルポートの設定をあわせるために利用します。この設定をすることで、ブリッジ機能によりPCのシリアルポートに入力されたデータを接続先トランスミッターのシリアルポートに出力することができます。

- 1 「接続時パラメーター設定」の「RS-232C」で「ブリッジ」を選択する。  
「RS-485」でも選択できます。
- 2 「シリアル設定」をクリックする。  
以下のウィンドウが表示されます。



- 3 シリアルポートの設定をする。  
PCのシリアルポートに接続した機器の仕様にあわせて設定します。
- 4 「OK」をクリックする。  
設定が反映され、接続時にブリッジ機能が利用できます。

設定項目	選択 (下線は初期値)	説明
転送速度	110 / 300 / 1200 / 2400 / 4800 / 9600 / 19200 / <u>38400</u>	PCのシリアルポート接続機器の転送速度を設定します。
ストップビット数	<u>1</u> / 2	PCのシリアルポート接続機器のストップビット数を設定します。
パリティビット	<u>なし</u> / 偶数 / 奇数	PCのシリアルポート接続機器のパリティビットを設定します。
データ長	5 / 6 / 7 / <u>8</u>	PCのシリアルポート接続機器のデータ長を設定します。
ポート	Com <u>1</u> -9	PCのシリアルポート接続機器のポートを設定します。
フロー制御	Xon / Xoff / <u>ハードウェア</u> / なし	PCのシリアルポート接続機器のフロー制御の設定をします。

### ● ネットワークデジタルレコーダーの設定

以下のウィンドウが表示されます。

パラメーターの詳細は、P. 4-8 「接続時パラメーター設定」を参照してください。

接続時パラメーター設定			
名称	東棟 記録1	品番	N-DR2000
IPアドレス	192.168.14.1		
MACアドレス	00-00-74-63-18-30		
HTTPポート	80		
SIPポート	5060		
FTPポート	21		
SIPパスワード	*****		
フレームレート	5		
		OK	キャンセル

### ● レシーバーの設定

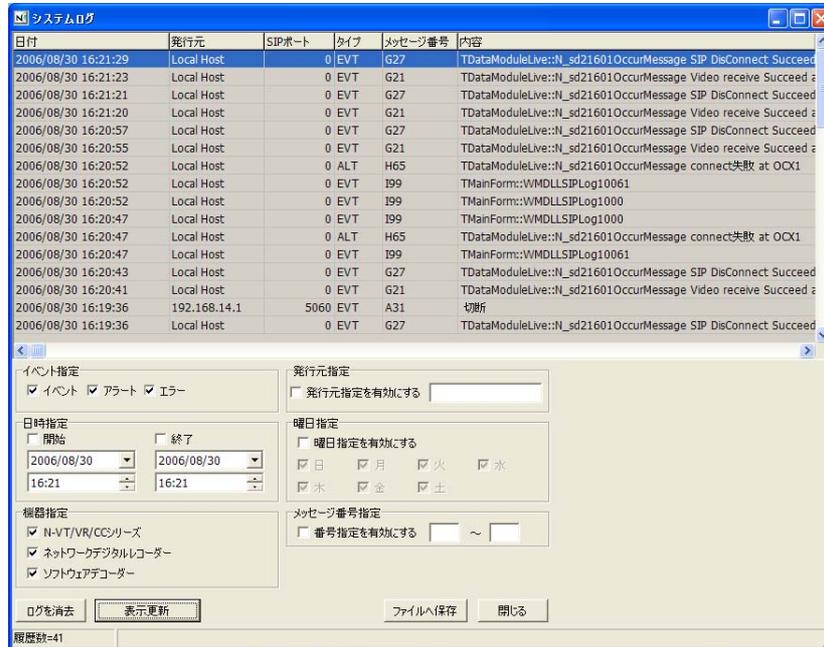
以下のウィンドウが表示されます。

パラメーターの詳細は、P. 4-8 「接続時パラメーター設定」を参照してください。

接続時パラメーター設定			
名称	新しい機器	品番	N-VR2010
IPアドレス	192.168.14.1		
MACアドレス			
HTTPポート	80		
SIPポート	5060		
FTPポート	21		
		OK	キャンセル

# システムログを見る

ソフトウェアデコーダーおよびネットワークに接続されている機器のシステムログを閲覧することができます。



管理ウィンドウの「システムログ」をクリックする。

保存されたログが表示されます。

## メモ

- ネットワーク上の他のソフトウェアデコーダーのログは取得できません。
- ログは最大5,000件の表示と保存ができます。5,000件を超えた場合、古いものから順に削除されます。
- システムログのサーバーポートの設定は、「一般設定」 → 「アプリケーションタブ」の「SIPサーバー使用ポート範囲」から行ってください。

## ■ 表示するログを絞り込む

### ● イベント指定

「イベント」「アラート」「エラー」のチェックボックスをクリックすると、チェックが外れます。チェックがあるイベントが表示されます。

### ● 日時指定

「開始」「終了」のチェックボックスをクリックして、最初と最後の日時を入力して表示を絞り込みます。

### ● 機器指定

「N-VT / VR / CC シリーズ」「ネットワークデジタルレコーダー」「ソフトウェアデコーダー」のチェックボックスをクリックするとチェックが外れます。チェックがある機器のログが表示されます。

### ● 発行元指定

IP アドレスを入力し、「発行元指定を有効にする」のチェックボックスをクリックして表示を絞り込みます。

### ● 曜日指定

「曜日指定を有効にする」のチェックボックスをクリックすると、曜日チェックボックスが有効になります。このときチェックされている曜日のログが表示されます。

### ● メッセージ番号指定

「番号指定を有効にする」のチェックボックスをクリックして番号を入力し、表示を絞り込みます。番号は2桁の数字で入力してください。

## ■ ログを消去する

「ログを消去」をクリックする。  
保存されているすべてのログが消去されます。

## ■ ログをファイルへ保存する

「ファイルへ保存」をクリックする。  
名前を付けて、指定の場所に保存することができます。  
表示されているログのみファイルへ出力されます。  
ファイルは CSV（カンマ区切り）形式で保存されます。

## ■ メッセージ番号について

メッセージ番号は以下のように割り当てられます。

機器 イベント	N-VT/VR/CC シリーズ	ネットワークデジタル レコーダー	ソフトウェア デコーダー
EVT	A00 ~ A99	D00 ~ D99	G00 ~ G99
ALT	B00 ~ B99	E00 ~ E99	H00 ~ H99
ERR	C00 ~ C99	F00 ~ F99	I00 ~ I99

## ■ 記録されるログについて

ソフトウェアデコーダーがインストールされている PC をログサーバーとして設定しているネットワーク上の機器のログが保存されます。

ただし、ソフトウェアデコーダーが起動していない場合に送られてきたログは保存されません。

## ■ 表示更新について

システムログはウィンドウを開いた時点までに保存されているログを表示します。

最新の状態に更新したい場合は、表示更新ボタンをクリックしてください。

## 動作ログを見る

動作ログは、ユーザーが接続／切断の操作をした内容を見ることができます。  
保存される内容は以下の通りです。

- ・ビューへの接続／切断
- ・ビューへのシーケンス接続
- ・アラーム受信

管理ウィンドウの「動作ログ」をクリックすると、動作ログウィンドウが表示されます。

未読	開始日付	終了日付	ビュー	Ct	Nr	Lv1	Lv2	Pl	IPアドレス	SIPポート
!	2007/08/09 14:46:59	2007/08/09 14:47:02	2/4					1	10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:46:59	2007/08/09 14:46:59						1	10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:46:33	2007/08/09 14:47:08	3/4					○	10.107.150.30	5060
!	2007/08/09 14:46:31	2007/08/09 14:47:05	4/4					○	10.107.150.30	5060
!	2007/08/09 14:46:29	2007/08/09 14:47:07	1/4					○	10.107.150.30	5060
!	2007/08/09 14:46:26	2007/08/09 14:46:59	2/4					○	10.107.150.30	5060
!	2007/08/09 14:42:49	2007/08/09 14:42:51	1/4					○	10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:37:06	2007/08/09 14:37:08	3/4					○	10.107.1.243	5060
!	2007/08/09 14:35:32	2007/08/09 14:36:45	3/4		S				10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:33:23	2007/08/09 14:33:26	4/4			1			10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:33:23	2007/08/09 14:33:23				1			10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:32:55	2007/08/09 14:32:57	4/4			1			10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:32:54	2007/08/09 14:32:54				1			10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:32:50	2007/08/09 14:35:24	3/4					○	10.107.1.243	5060
!	2007/08/09 14:32:41	2007/08/09 14:32:43	3/4			1			10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:32:40	2007/08/09 14:32:40				1			10.107.203.37	5060
!	2007/08/09 14:32:37	2007/08/09 14:37:41	1/4					○	10.107.150.30	5060

× モ

ログは最大5,000件の表示と保存ができます。5,000件を超えた場合、古いものから順に削除されます。

表示の説明	内容
未読	動作ログ表示時に未読のデータの場合は「!」を表示します。
開始日付	動作の開始された時間を表示します。
終了日付	動作の終了した時間を表示します。動作中は「接続中」を表示します。
ビュー	動作の発生したビュー番号を表示します。 4画面モード時 ビュー1：1/4 ビュー2：2/4 ビュー3：3/4 ビュー4：4/4
Ct	常時接続時に「○」を表示します。シーケンス接続時には「S」を表示します。
Nr	マニュアル接続時に「○」を表示します。シーケンス接続時には「S」を表示します。
Lv1	レベル1アラーム時のアラーム内容を表示します。 接点：1～8 モーション：m *
Lv2	レベル2アラーム時のアラーム内容を表示します。 接点：1～8 モーション：m *
PI	録画再生時に「○」を表示します。
IPアドレス	動作の対象となった機器のIPアドレスを表示します。
SIPポート	動作の対象となった通信のポート番号を表示します。
ビュー指定	表示するログのビューを選択します。 ビュー：1～4、なし
アラーム指定	表示するアラームの種類を選択します。 レベル1アラーム / レベル2アラーム モーション * / 接点1～8
開始日付指定	表示するログの開始日付の範囲を選択します。 ・開始日時 ・終了日時
終了日付指定	表示するログの終了日付の範囲を選択します。 ・開始日時 ・終了日時
ログ消去ボタン	動作ログを消去します。
表示更新ボタン	動作ログを現在の最新の状態に更新します。
ファイルへ保存ボタン	現在表示されている動作ログをCSV形式のファイルに保存します。
接続中のみを表示する	チェックボックスがONの時は「終了日付」カラムの値が「接続中」のレコードのみを表示します。チェックボックスがOFFの時はすべてのレコードを表示します。

\* いたずら検知機能は、モーションとして記録されます。ただし、N-CC2130、N-CC2230D2、N-CC2230R2、N-CC2830D2のいたずら検知機能は、接点入力8として記録されます。

動作ログの開始終了時間は、以下の通りです。

#### [カメラの接続時]

接続が成功したときが開始時間になります。その後、切断ボタンを押す、または異常切断されたときが終了時間になります。

#### [シーケンス接続時]

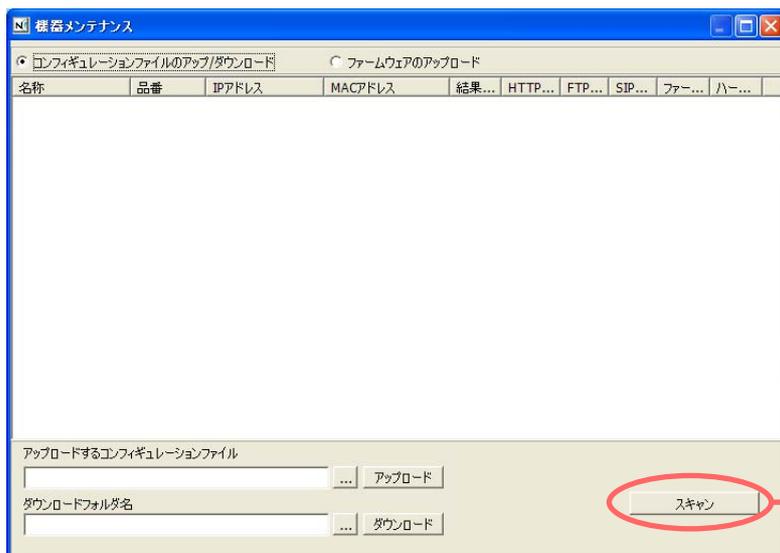
シーケンスグループの接続を開始したときが開始時間になり、シーケンス内に登録されている機器ごとに同一時間で複数の動作ログレコードを作成します。

シーケンスが停止されたときに、上記レコードのすべての終了時間が登録されます。

## 機器メンテナンスを利用する

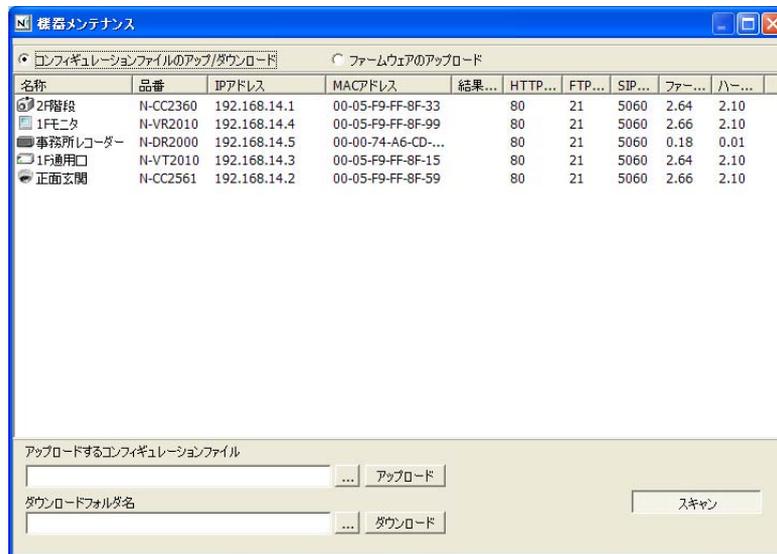
機器メンテナンスでは、ネットワーク上の機器へファームウェアをアップロードすることができます。また、コンフィギュレーションファイルをアップロード、ダウンロードすることもできます。

- 1 管理ウィンドウの「機器メンテナンス」をクリックする。  
機器メンテナンスのウィンドウが表示されます。



「スキャン」をクリックする。

- 2 「スキャン」をクリックして、ネットワーク上の機器を検出する。  
ネットワーク上に接続されている機器の情報が表示されます。



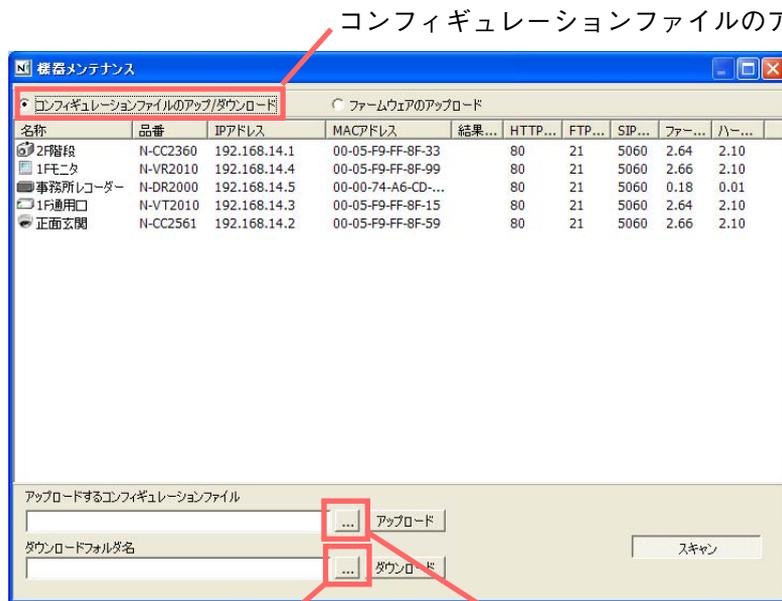
メ モ スキャンリストには、最大2,000台の機器が表示できます。

#### ご注意

- ローカルブロードキャストが届く範囲で、電源が入っている機器が検出されます。
- スキャンボタンがクリックされた状態で、5分間経過すると自動的にボタンがオフ状態になります。
- ネットワークの状態により、一部の情報がリスト上に表示されない場合があります。

## ■ コンフィギュレーションファイルのアップロード

コンフィギュレーションファイルを機器へアップロードすると、保存していた設定を機器へ反映することができます。



ダウンロードフォルダを参照

アップロードファイルを参照

**1** 「コンフィギュレーションファイルのアップ/ダウンロード」を選択する。

**2** [...] をクリックして、アップロードするコンフィギュレーションファイルを指定する。

[メ モ] アップロードは、def形式のファイルのみ可能です。

**3** アップロードする機器をリストから指定する。  
一度に複数の機器を選択できます。

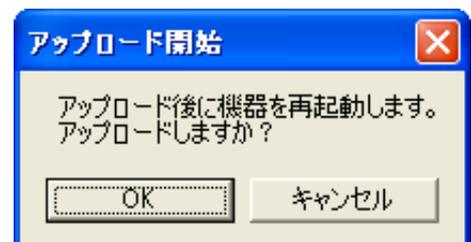
**ご注意**

- 同一のコンフィギュレーションファイルを複数の機器へアップロードすると、IPアドレスなどがすべて同じになります。
- 異なる品番の機器へ同時にアップロードすることはできません。

**4** 「アップロード」をクリックする。  
アップロードの開始確認のダイアログが表示されます。

**ご注意**

アップロード対象の機器と異なる品番のコンフィギュレーションファイルをアップロードすると、設定が正しく反映されない場合があります。



**5** 「OK」をクリックする。  
アップロードを実行します。  
アップロード結果がリスト上の結果/進捗状況欄に表示されます。

**ご注意**

コンフィギュレーションファイルは、ソフトウェアデコーダーからネットワークデジタルレコーダーへアップロードすることはできません。ネットワークデジタルレコーダーの設定画面からアップロードしてください。

## ■ コンフィギュレーションファイルのダウンロード

機器のコンフィギュレーションファイルをダウンロードすると、機器の設定をPCに保存することができます。

**1** 「コンフィギュレーションファイルのアップロード／ダウンロード」を選択する。

**2**  をクリックして、ダウンロード先フォルダを指定する。

**3** ダウンロードする機器をリストから指定する。

一度に複数の機器を選択できます。

**ご注意** 異なる品番の機器から同時にダウンロードすることはできません。

**4** 「ダウンロード」をクリックする。

ダウンロードの開始確認のダイアログが表示されます。

**5** 「OK」をクリックする。

ダウンロードを実行します。

ダウンロード結果がリスト上の結果／進捗状況欄に表示されます。

ダウンロードに成功すると指定したフォルダにコンフィギュレーションファイルが保存されます。

ファイル名は「機器のIP」＋「FTPポート」となります。

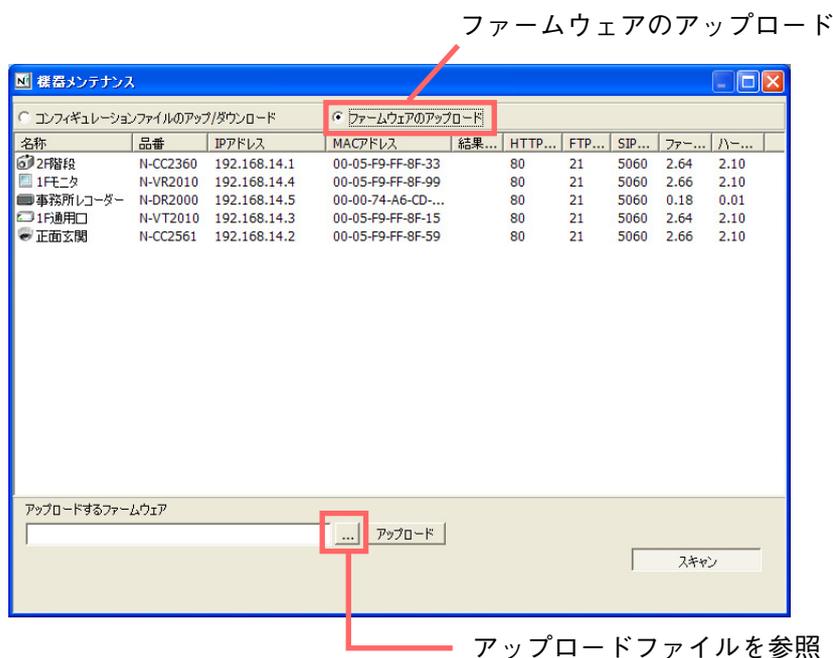
例：IP 192.168.14.1 FTPポート 21のときのファイル名  
19216801400121.def

### ご注意

- 同一ファイル名のファイルが保存フォルダに存在する場合は上書きされます。
- ソフトウェアデコーダーでは、ネットワークデジタルレコーダーからコンフィギュレーションファイルはダウンロードできません。ネットワークデジタルレコーダーの設定画面からダウンロードしてください。

## ■ ファームウェアのアップロード

ファームウェアを機器へアップロードすると、ファームウェアの更新ができます。



- 1 「ファームウェアのアップロード」を選択する。
- 2  をクリックして、アップロードするファームウェアを指定する。

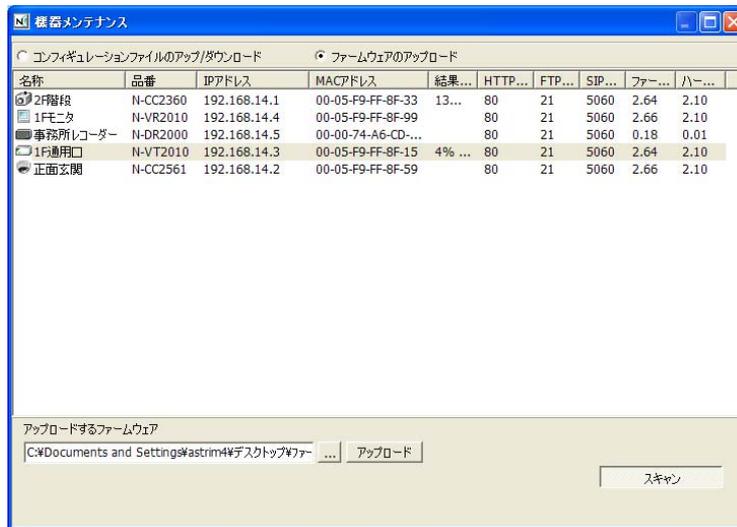
ファームウェアの拡張子は、以下のようになります。

品 番	拡張子
N-CC2360、N-CC2561、N-CC2571 N-VT2010（ハードウェア Ver 3.xx 以下） N-VR2010	.DME
N-CC2130、N-CC2230D2、N-CC2230R2 N-CC2360A、N-CC2600、N-CC2700 N-CC2720、N-CC2830D2 N-VT2010（ハードウェア Ver 5.00 以上）	.D25
N-CC2100M、N-CC2200MD、N-CC2400MZ N-CC2420MD、N-CC2420MR、N-CC2650M N-CC2800MD	.D27
N-DR2000	.dat

**ご注意**

N-VT2010 はハードウェアバージョンによって対応するファームウェアの拡張子が異なります。  
ハードウェアに合ったファームウェアをアップロードしてください。

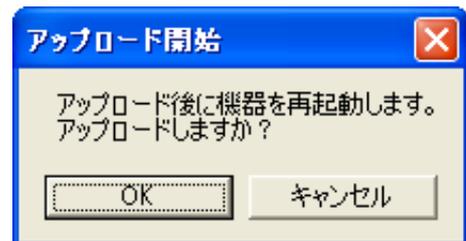
- 3** アップロードする機器をリストから指定する。  
一度に複数の機器を選択できます。



- 4** 「アップロード」をクリックする。  
アップロードの開始確認のダイアログが表示されます。

**ご注意**

異なる品番の機器へ同時にアップロードすることはできません。



- 5** 「OK」をクリックする。  
アップロードを実行します。リスト上の結果／進捗状況欄でアップロード状態を確認できます。

[ネットワークデジタルレコーダー以外]

- ファイルのアップロードが成功すると「Start...」を表示します。失敗した場合は「NG」と表示され、アップロードが中止されます。
- アップロードが成功すると、機器のREADY LEDが点滅し、ファームウェアの書き換えの進捗が表示されます。
- リスト上に100%と表示され、機器のREADY LEDが点灯に変わると、ファームウェアの書き換えが完了します。

[ネットワークデジタルレコーダーの場合]

- ファイルのアップロードが成功すると「Start...」を表示します。失敗した場合は「NG」と表示され、アップロードが中止されます。
- ファイルのアップロードが成功すると、直後に機器が再起動され、起動処理が完了するとファームウェアの書き換えが完了します。

**メモ**

アップロードの完了を確認するときは、再度スキャンを行い、バージョン情報を確認してください。

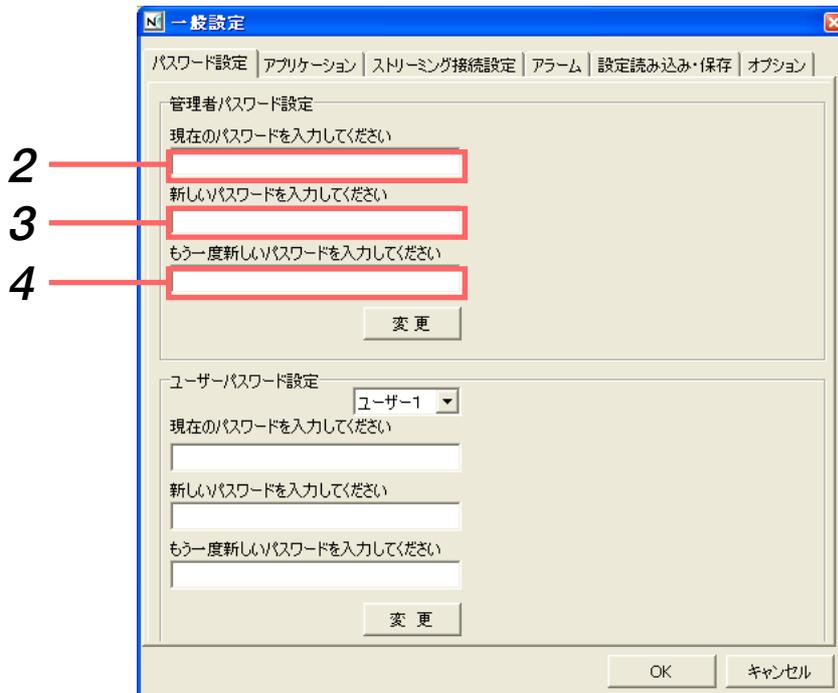
**ご注意**

- 異なる品番のファームウェアをアップロードすると、機器が正常に動作しないことがあります。
- ファームウェアのアップロードには最大40分程度かかります。機器のREADY LEDが点滅している間は、故障の原因となりますので機器の電源を切らないでください。

# アプリケーションの設定を行う

ソフトウェアデコーダーの各種設定ができます。

管理ウィンドウの「一般設定」をクリックすると、一般設定ウィンドウが表示されます。



## ■ 管理者パスワードを設定する

ソフトウェアデコーダーにログインするときに利用する管理者パスワードを設定することができます。

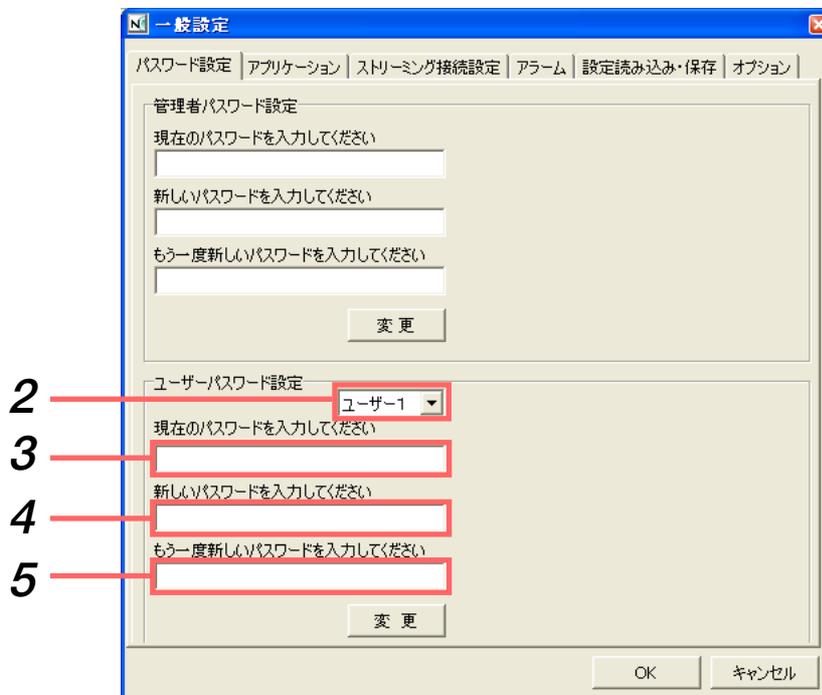
**メモ** パスワードは半角英数 15 文字までで設定できます。

- 1 「パスワード設定」タブをクリックする。
- 2 現在のパスワードを入力する。  
工場出荷時は「guest」に設定されています。
- 3 新しいパスワードを入力する。
- 4 新しいパスワードを再度入力する。
- 5 「変更」をクリックする。  
正常に入力した場合は、新しいパスワードに変更されます。

**メモ** 変更したパスワードは、忘れないようにメモを取って保管してください。

## ■ ユーザーパスワードを設定する

「パスワード設定」タブをクリックすると、ユーザーログインレベルを設定することができます。ユーザーログインレベルは3段階あり、コンボボックスより設定します。



**1** 「パスワード設定」タブをクリックする。

**2** コンボボックスでユーザーレベルを指定する。

**3** 現在のパスワードを入力する。  
工場出荷時は「空白」に設定されています。

**4** 新しいパスワードを入力する。

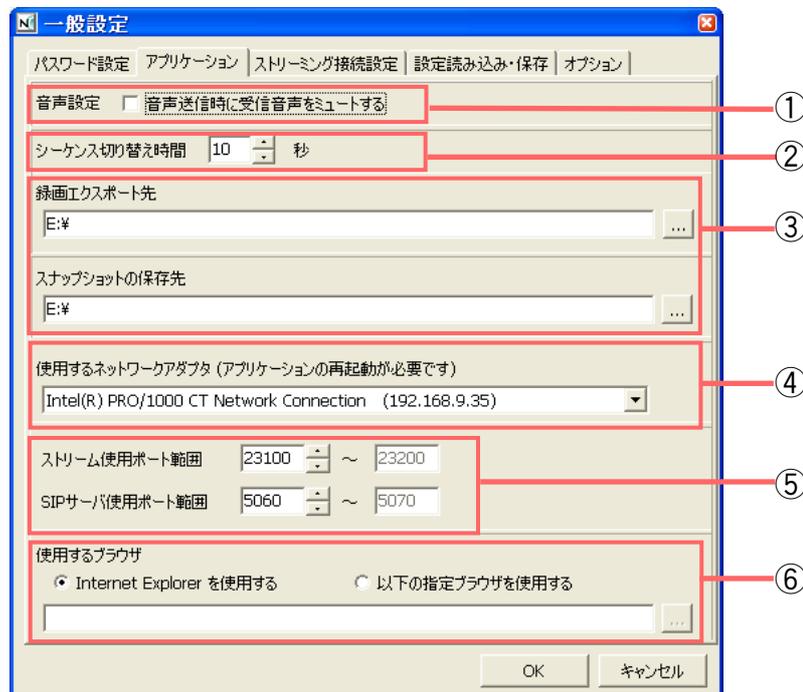
**5** 新しいパスワードを再度入力する。

**6** 「変更」をクリックする。  
正常に入力した場合は、新しいパスワードに変更されます。

メモ 変更したパスワードは、忘れないようにメモを取って保管してください。

## ■ アプリケーション全般の設定を行う

「アプリケーション」タブをクリックすると、アプリケーションのウィンドウが表示されます。



### ① 音声設定

チェックボックスをチェックすると機器への音声送信時に機器からの受信音声をミュートします。

### ② シーケンス切り替え時間

シーケンス切り替えの時間を設定してください。設定するとシーケンス時に指定した時間でシーケンスが切り替わります。5～60秒の範囲で設定ができます。

### ③ 録画エクスポート先、スナップショットの保存先

参照ボタンをクリックし、保存したいフォルダを指定します。

### ④ 使用するネットワークアダプタ

リストにPC上のネットワークアダプターとIPアドレスが表示されます。このリストより使用するアダプターを選択してください。

メ モ

1つのアダプターに複数IPアドレスが登録されていると、リストにはそのIPアドレスの登録数だけ表示されます。利用するIPアドレスを選択してください。

### ⑤ ストリーム使用ポート範囲、SIPサーバ使用ポート範囲

使用状況に合わせてポート範囲を指定します。

### ⑥ 使用するブラウザ

Internet Explorer を利用する場合は、「Internet Explorer を使用する」を選択します。

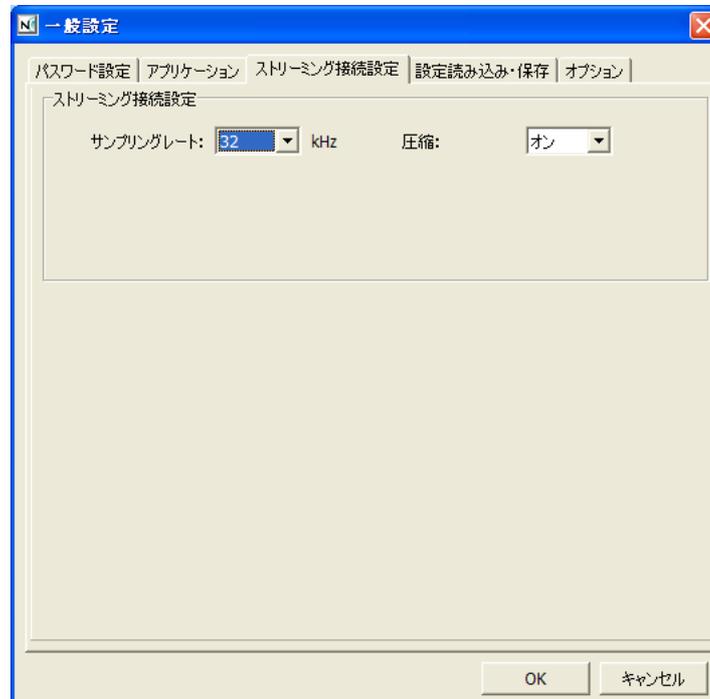
Internet Explorer 以外を利用する場合は、「以下の指定ブラウザを使用する」を選択し、参照ボタンをクリックしてアプリケーションの場所を指定します。

「OK」をクリックすると、設定変更が反映されます。

**ご注意** ネットワークアダプターの設定を変更した場合、アプリケーションの再起動が必要となります。変更はアプリケーションの次回起動時から有効となります。

## ■ ストリーミング接続時の受信音声の設定を行う

ストリーミング接続で受信する場合の音声を設定します。



**1** 「ストリーミング接続設定」タブをクリックする。

**2** 受信する音声のフォーマットを指定する。

設定項目	入力	説明
サンプリングレート	8/32 (kHz)	ストリーミングモードで受信する音声のサンプリングレートを指定します。
圧縮	オン / オフ	ストリーミングモードで受信する音声の圧縮フォーマットを指定します。

**3** 「OK」をクリックする。  
設定が反映されます。

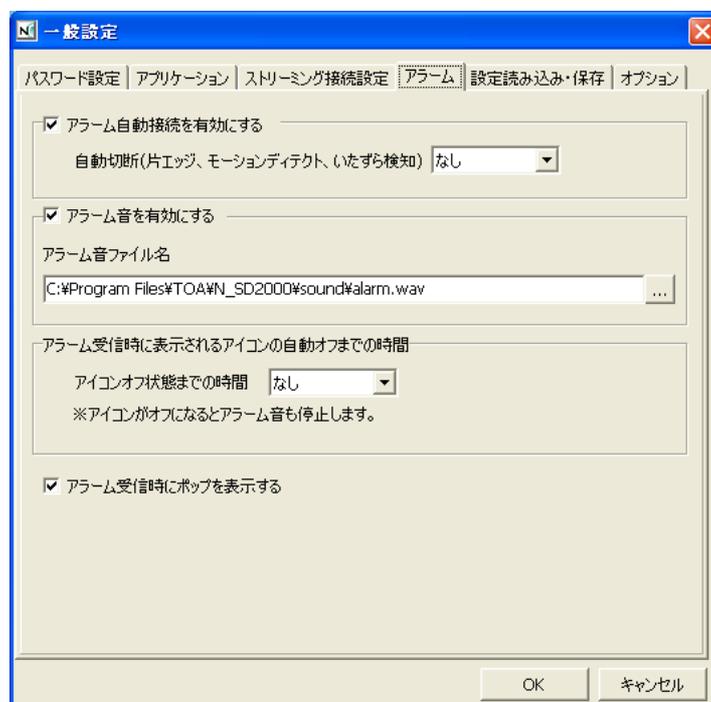
### ご注意

ストリーミング接続時に指定した音声フォーマットと接続した機器側の音声フォーマットが異なる場合は、接続ができません。

## ■ アラーム接続の設定を行う

### ● アラームの設定について

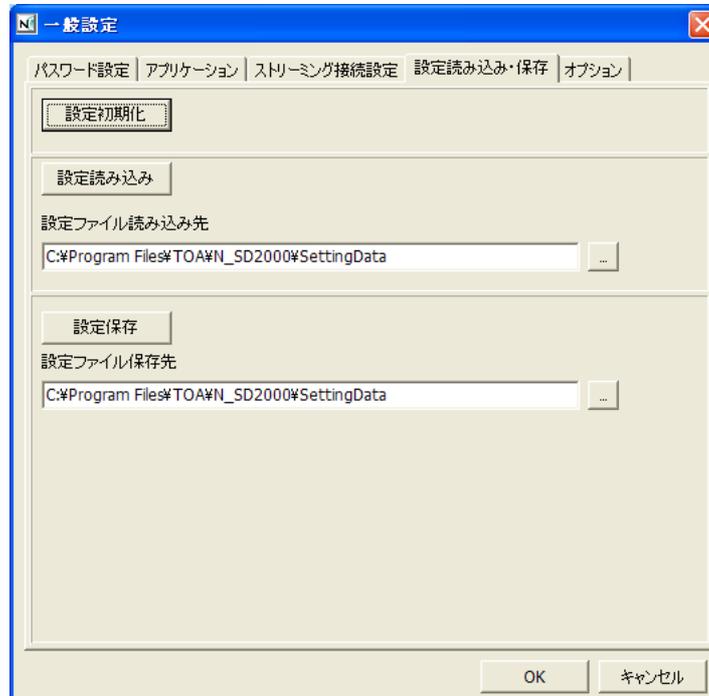
「アラーム」タブで設定できる内容は以下の通りです。  
詳しくは、P. 5-41 「アラームの設定について」を参照してください。



## ■ 設定の初期化・保存・読み込みをする

ソフトウェアデコーダーの設定初期化や設定の読み込み、設定の保存ができます。

「設定読み込み・保存」タブをクリックする。



[ 設定を初期化する場合 ]

「設定初期化」をクリックする。

実行するとアプリケーションが終了します。次回起動時に初期化されます。

**ご注意** パスワードは初期化されません。

[ 設定を読み込む場合 ]

**1** [...] をクリックして、読み込む設定ファイルのあるフォルダを指定する。

**2** 「設定読み込み」をクリックする。

読み込み後にアプリケーションが終了します。次回起動時に読み込んだ設定が反映されます。

**ご注意** パスワードは反映されません。

[ 現在の設定を保存する場合 ]

**1**  をクリックして、保存先フォルダを指定する。

**2** 「設定保存」をクリックする。

以下の設定ファイルが指定したフォルダに作成されます。“xxx” はバージョンによって異なる数字が入ります。

(例) CamTree\_jpnxxx.txt, nsd2000xxx.dat, UnitData\_jpnxxx.cds

**ご注意**

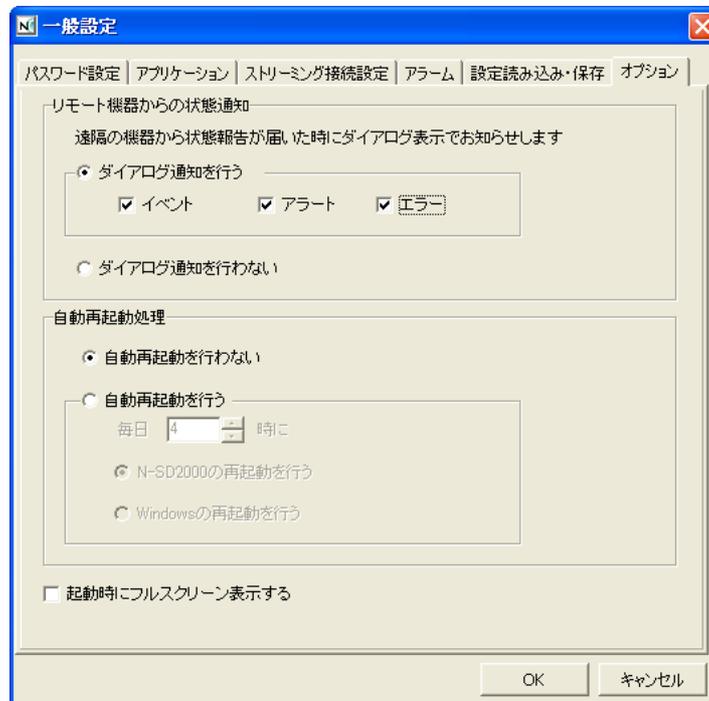
- パスワードは保存されません。
- 作成したファイルのファイル名を変更すると設定ファイルを読み込めなくなります。ファイル名は変更しないでください。

 設定がすべて終わった時点で設定を保存しておくことをお勧めします。

## ■ 機器からのログ受信の設定を行う

機器からのログメッセージを受信した時に、ダイアログを表示するかどうかの設定をします。

「オプション」タブをクリックする。



[ダイアログ通知を行わない場合]

**1** 「ダイアログ通知を行わない」をクリックする。

**2** 「OK」をクリックする。  
設定が反映されます。

[ダイアログ通知を行う場合]

**1** 「ダイアログ通知を行う」を選択する。

**2** 表示するログの種類を指定する。  
「イベント」「アラート」「エラー」のチェックボックスをクリックして選択します。  
複数選択は可能です。

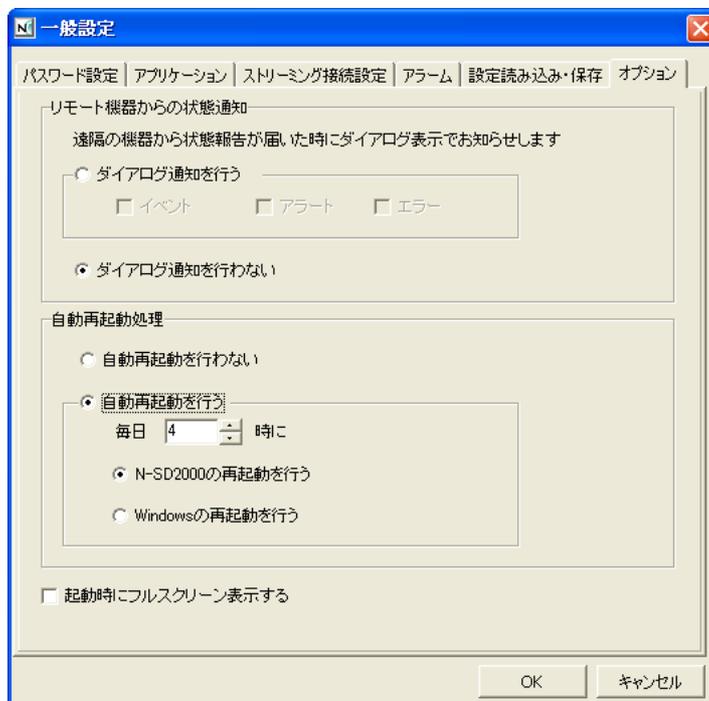
**3** 「OK」をクリックする。  
設定が反映され、指定した種類のログメッセージを受信したときにログメッセージ内容がダイアログに表示されます。

**ご注意** システムログで受信したログメッセージの中には、ダイアログ通知しないものもあります。

## ■ 自動再起動の設定を行う

定期的に N-SD2000 または Windows の再起動を行うことができます。

「オプション」タブをクリックする。



[自動再起動処理を行わない場合]

**1** 「自動再起動を行わない」をクリックする。

**2** 「OK」をクリックする。  
設定が反映されます。

[自動再起動処理を行う場合]

**1** 「自動再起動を行う」をクリックする。

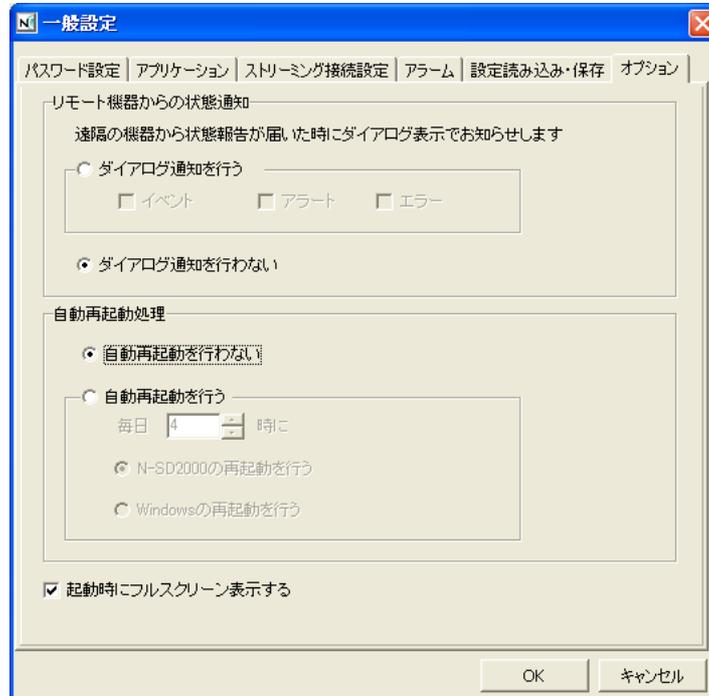
**2** 再起動する時刻を指定する。

**3** 再起動の方法を指定する。

## ■ 自動でフルスクリーン表示にする設定を行う

ソフトウェアデコーダーの起動時に、自動でフルスクリーン表示にすることができます。

「オプション」タブをクリックする。



### 1 起動時にフルスクリーン表示するか指定する。

チェックあり：起動時にフルスクリーン表示をします。

チェックなし：起動時にフルスクリーン表示を行いません。

### 2 「OK」をクリックする。

設定が反映されます。

#### 【ご注意】

ソフトウェアデコーダーの起動後にシリアルキー入力ダイアログが表示される場合、フルスクリーン状態は解除されます。



# 第5章

---

操作のしかた

## ログインについて

ユーザーごとにログインするパスワードを設定すると、各パスワードを入力してログインすることができます。

### ■ ログイン画面



The screenshot shows a login dialog box titled "N-SD2000 ログイン". It has a "ユーザー" (User) dropdown menu with "管理者" (Administrator) selected. Below it is a "パスワード" (Password) text input field. There are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons. Below the buttons is a section for "使用するネットワークアダプタ" (Network adapter to use) with a dropdown menu showing "Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection (10.107.9.35)". At the bottom, there is a checkbox labeled "自動でログインする" (Log in automatically) which is currently unchecked.

ユーザーの選択レベルは管理者、ユーザー1、ユーザー2、ユーザー3の4種類があります。

[自動でログインする] にチェックを入れてユーザーモードでログインすると、次回のソフトウェアデコーダーの起動時には自動ログイン設定が有効になります。

自動ログイン設定が有効の場合は、ログイン画面を表示してから5秒後に表示されている設定で自動ログインします。

キャンセルボタンをクリックすると、ログイン画面が終了します。再起動後は、前回起動時の設定内容で起動します。

[使用するネットワークアダプタ] の取り扱い

ユーザーで [管理者] 以外が選択された場合は、ネットワークアダプターの選択コンボボックスは無効になり、設定値に保存されているネットワークアダプターで起動します。

## ● ログイン方法の変更

次回起動時にログインモードを変更する場合は、以下の手順で行います。

ログイン画面表示中の5秒間は、ユーザー切り替えや自動ログインなどの設定変更ができます。ただし、ユーザーモードでの権限が制約されているときは、管理者モードで変更してください。

現在のログイン状態 \ 次回に使用するログインモード		管理者		ユーザー	
		自動ログイン	手動ログイン	自動ログイン	手動ログイン
管理者	自動ログイン	—	—	—	—
	手動ログイン	—	アプリケーション再起動	再起動後、ログイン画面で自動ログインチェックを有効にしてユーザーモードログイン	再起動、ユーザーモードログイン
ユーザー	自動ログイン	—	再起動後にユーザー選択を管理者にしてログイン	アプリケーション再起動し、無操作で5秒間待機	アプリケーション再起動し、自動ログインチェックを無効化してログイン
	手動ログイン	—	再起動後にユーザー選択を管理者にしてログイン	アプリケーション再起動し、自動ログインチェックを有効化してログイン	アプリケーション再起動

自動ログインは、ユーザーモードで設定できます。前回使用していたログインモード設定で起動します。

## ● ログイン画面

ユーザーが以下の内容を変更した場合は、自動ログインができません。

- ・自動ログインチェック
- ・ユーザー切替ボックス
- ・パスワード入力ボックス
- ・ネットワークアダプター選択

また、以下の場合もログインできません。

- ・間違ったパスワードを入力した
- ・自動入力されたパスワードが間違っている

## ■ ユーザーログインレベル

### ● レベルごとの権限

ログインレベルは、管理者、ユーザー1、ユーザー2、ユーザー3の4種類があります。ユーザーごとの権限の個別変更はできず、ログインレベルによってできる操作は異なります。各レベルのアプリケーションの操作権限は以下の通りです。

	管理者	ユーザー1	ユーザー2	ユーザー3
機器リスト操作	○	×	×	×
ツリービュー編集	○	×	×	×
一般設定操作	○	×	×	×
機器メンテナンスの操作	○	×	×	×
モーションディテクト設定	○	×	×	×
エクスポート	○	×	×	×
録画再生	○	○	×	×
カメラ、DVR 制御（シリアルブリッジ）	○	○	○	×
接続（ダブルクリック）	○	○	○	×
切断	○	○	○	×
スナップショット	○	○	○	×
デジタルズーム	○	○	○	×
静止	○	○	○	×
カメラメニュー	○	×	×	×
接点状態表示	○	○	○	○
接点出力操作	○	○	○	×
1/4 切り換えボタン	○	○	○	×
フルスクリーン	○	○	○	○
PTT・一斉送信	○	○	○	×
シーケンス一時停止・切断	○	○	○	×
常時接続有効/無効	○	○	○	×
一斉切断ボタン	○	○	○	×
アラームアイコンクリック	○	○	○	○
レシーバー接続	○	○	×	×
動作ログの表示	○	○	×	×
システムログの表示	○	×	×	×

**[機器リスト操作]**

無効設定の場合、管理ウィンドウの機器マネージャーボタンが非表示になり、機器マネージャー画面は表示されません。

接続動作などに使用するパラメーターは、すでに設定されている値を使用します。

**[ツリービュー編集]**

無効設定の場合、デザインモードチェックボックスが無効になり、ツリービュー内の編集操作を行うことはできません。

機器の接続情報、ブラウザー接続、プロパティ表示は常に有効になります。

**[一般操作設定]**

無効設定の場合、管理ウィンドウの一般設定ボタンが非表示になり、一般設定画面は表示されません。

アプリケーションの動作はすでに設定されている値で動作します。

**[機器メンテナンスの操作]**

無効設定の場合、管理ウィンドウの機器メンテナンスボタンが非表示になり、機器メンテナンス画面は表示されません。

**[モーションディテクト設定]**

無効設定の場合、[モーションディテクト] タブは非表示になります。

モーション動作については、すべてのレベルでアラーム動作は有効になります。

**[エクスポート]**

無効設定の場合、N-DR2000の録画再生での静止中にローカルディスクに映像をダウンロードするためのエクスポートボタンは無効になります。

**[録画再生]**

無効設定の場合、管理ウィンドウの録画検索ボタンが非表示になり、録画検索はできません。

録画検索が可能なユーザーレベルであっても、機器リスト内に管理者権限でN-DR2000が登録されていなければ検索を行うことはできません。

## 第5章 操作のしかた

### [シリアルブリッジ]

無効設定の場合、以下の機能について制限があります。

- コンビネーションカメラやデジタルレコーダー、マルチスイッチャーの制御画面が非表示になり、制御を行うことはできません。
- ビュー画面クリック操作によるコンビネーションカメラのポイントビュー、ズームビューなどの操作を行うことはできません。
- 接点出力ボタンは状態表示のみ動作可能です。
- PCのRS-232C端子への機器接続によるシリアルブリッジは行うことはできません。

無効設定の状態でも、以下の機能は有効となります。

- 接点入力、接点出力状態の表示

### [接 続 (ダブルクリック)]

無効設定の場合、ツリービューからのダブルクリックによる接続を行うことはできません。

### [切 断]

無効設定の場合、ビューの接続中、ツリービューの切断ボタンと一斉切断ボタンが無効になり、切断操作はできません。常時接続・アラーム接続についても切断操作はできません。

### [スナップショット]

無効設定の場合、ツールバーのスナップショットボタンが無効になり、静止画のキャプチャーはできません。

### [デジタルズーム]

無効設定の場合、ツールバーのデジタルズームボタンが無効になり、接続中のデジタルズーム操作はできません。

### [静 止]

無効設定の場合、ツールバーの静止ボタンが無効になり、接続中の静止画表示はできません。

### [カメラメニュー]

無効設定の場合、ツールバーのカメラメニューボタンが無効になり、ネットワークカメラの設定操作画面は表示されません。

### [接点状態表示]

ツールバーの接点入力と接点出力ボタンで表示される接点情報は、すべてのユーザーレベルで表示されます。

### [接点出力操作]

無効設定の場合、ツールバーの接点出力ボタンは状態表示のみが行われ、クリック動作による接点出力コマンドの送付は行われません。

[1/4切り換えボタン]

無効設定の場合、右側に表示される1画面、4画面切り換えボタンは非表示になります。

[フルスクリーンボタン]

すべてのモードで有効です。

[PTT・一斉送信ボタン]

無効設定の場合、右側に表示されるPTT、音声一斉送信ボタンは非表示になります。この場合、接続時パラメーター設定で音声送信が有効であっても、SIP接続では音声送信は無効状態で接続されます。

[シーケンス一時停止、切断ボタン]

無効設定の場合、右側に表示されるシーケンス一時停止、シーケンス切断ボタンは非表示になります。

[常時接続有効／無効]

無効設定の場合、常時接続グループの右クリックによる接続、切断はできません。

[一斉切断ボタン]

無効設定の場合、右側に表示される一斉切断ボタンは非表示になります。

[アラームアイコンクリック]

すべてのモードで有効です。

[レシーバー接続]

無効設定の場合、管理ウィンドウのレシーバーボタンが非表示になり、レシーバー接続切断はできません。レシーバー画面が表示可能なユーザーレベルであっても、機器リスト内に管理者権限でレシーバーが登録されていなければ操作を行うことはできません。

[動作ログの表示]

無効設定の場合、管理ウィンドウの動作ログボタンが非表示になり、動作ログの閲覧はできません。

[システムログの表示]

無効設定の場合、管理ウィンドウのシステムログボタンが非表示になり、システムログの閲覧はできません。

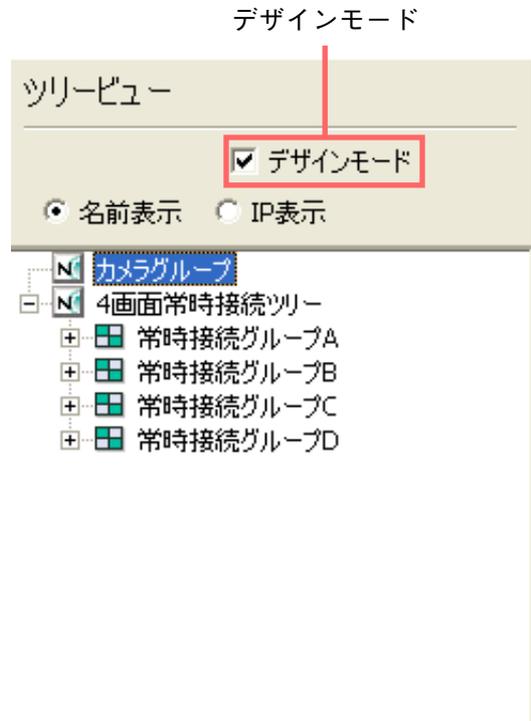
## ツリービューを構築する

機器をツリービューへ登録しツリービューを構築することで、機器とのライブ接続が可能な状態になります。このとき、ロケーション・グループ・シーケンス・常時接続グループを設定することで機器の分類やさまざまな接続が可能となります。

「デザインモード」にチェックを入れるとツリービューの編集をすることができます。以下の設定は、デザインモードで行います。

### メモ

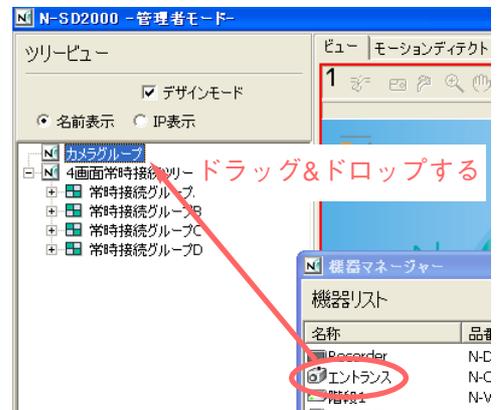
- 表示は名前表示かIPアドレス表示を選択できます。機器の名称が登録されていない場合、自動でIPアドレスが表示されます。
- デザインモードにしたまま5分以上ツリービューの設定動作を行わなかった場合は、自動でデザインモードのチェックが外れます。
- ツリービューには、最大2,000台の機器が登録できます。



## ツリービューへ機器を追加する

- 1 管理ウィンドウの「機器マネージャー」をクリックする。  
機器マネージャーウィンドウが立ち上がります。

- 2 ツリービューへ登録したい機器を、機器リストからツリービューのカメラグループヘドラッグ&ドロップする。  
ツリービューのカメラグループツリーに機器が登録されます。



## ■ ロケーションを設定する

ユーザーはロケーションを利用して、ツリー上の機器をわかりやすく分類することができます。

メモ

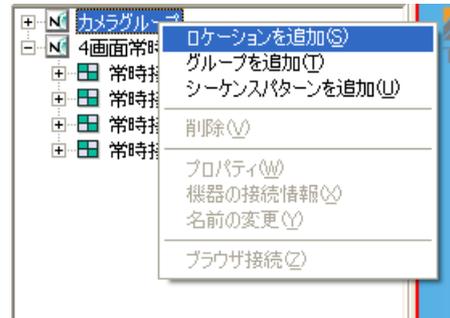
ロケーションアイコンは、ビューウィンドウへのダブルクリックによる接続に利用することはできません。

**1** カメラグループアイコンまたは、ロケーションアイコンを選択して右クリックする。

右図のポップアップメニューが表示されます。

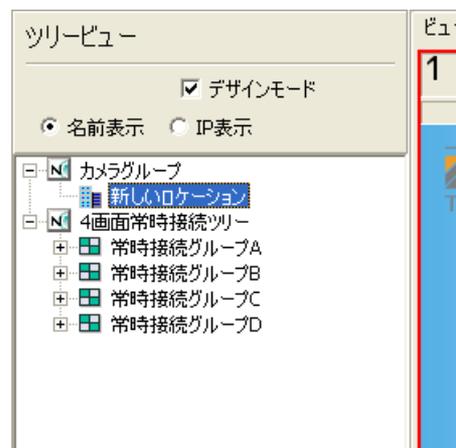
**2** 「ロケーションを追加」をクリックする。

ロケーションアイコンがツリー上に追加されます。



**3** 追加されたロケーションに分類する機器などを登録する。

- 機器リストからドラッグ&ドロップすることで機器を登録できます。
- ツリービュー内の機器、グループ、シーケンスパターンをドラッグ&ドロップすることで登録できます。
- ロケーションアイコンを右クリックすることで、ロケーション、グループ、シーケンスパターンをロケーション内に新たに追加できます。



## ■ グループを設定する

グループを設定すると、最大4つのビューの同時接続ができます。

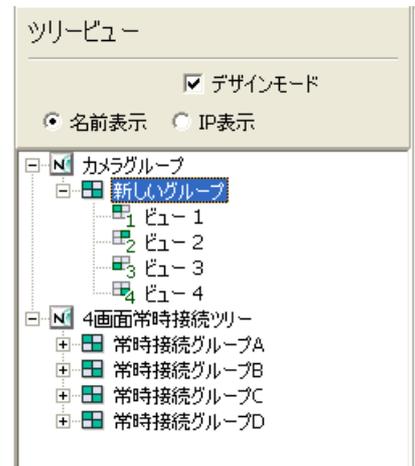
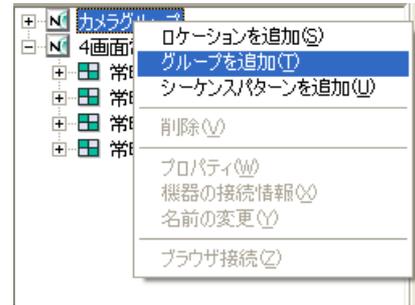
**1** カメラグループアイコンまたはロケーションアイコンを選択して右クリックする。

右図のポップアップメニューが表示されます。

**2** 「グループを追加」をクリックする。

**3** 追加されたグループへ機器などを登録する。

- ・ 機器リストからドラッグ&ドロップすることで機器を登録できます。
- ・ ツリービュー内の機器、シーケンスパターンをグループ内のビューアイコンへドラッグ&ドロップすることで登録できます。
- ・ グループ内のビューアイコンを右クリックすることで、シーケンスパターンを新たに追加できます。



## ■ シーケンスパターンを設定する

シーケンスパターンを設定すると、ライブのシーケンスができます。

**1** ロケーションアイコン、カメラグループアイコンおよびグループのビューアイコンを選択して右クリックする。

右図のポップアップメニューが表示されます。

**2** 「シーケンスパターンを追加」をクリックする。

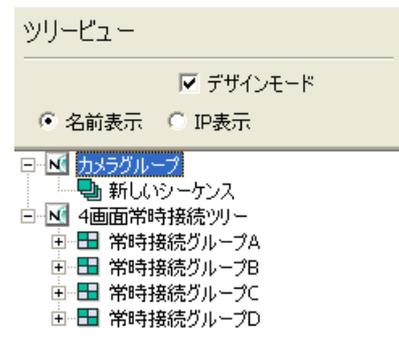
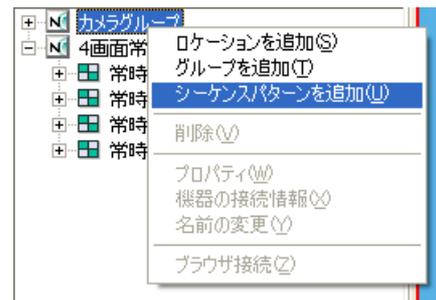
シーケンスパターンアイコンがツリー上に追加されます。

**3** シーケンスを行う機器を登録する。

機器リストおよびツリービュー内の機器をシーケンスアイコンへドラッグ&ドロップすることで登録できます。

メ モ

1つのシーケンスに登録できる機器は最大8台です。



## ■ 常時接続グループツリーの設定

ソフトウェアデコーダー常時接続を行う機器を設定できます。

常時接続グループツリーへ機器などを登録する。

- ・ 機器リストからドラッグ&ドロップすることで機器を登録できます。
- ・ ツリービュー内の機器、シーケンスパターンをドラッグ&ドロップすることができます。
- ・ グループ内のビューアイコンを右クリックすることで、シーケンスパターンを新たに登録することができます。

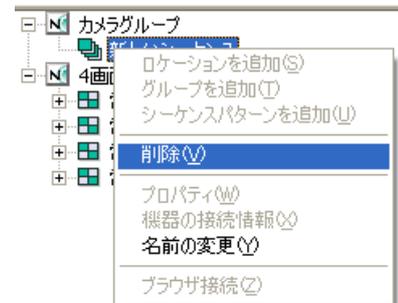
常時接続機能については、P. 5-15 を参照してください。



## ■ ツリービューからの削除

カメラグループや常時接続グループへ追加した機器などを削除することができます。

**1** 削除したいアイコンを選択し、右クリックする。

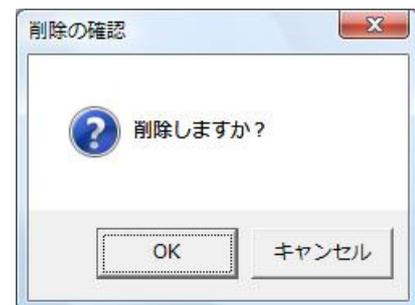


**2** 「削除」をクリックする。

**3** ダイアログが表示され「OK」をクリックすると削除されます。

メモ

機器リストより削除された機器は、ツリービューからも削除されます。



## 接続状態の表示について

### ■ ツリービューの表示

ツリービューからダブルクリックによるビューへの接続を行ったときに、操作した文字列は太字で表示されます。

**ご注意** 録画再生とアラーム接続には適用されません。

#### ● 常時接続グループについて

常時接続が“有効”になっているグループ名は太字で表示されます。その下層の接続されている機器も太字になります。

ビューがマニュアル接続やアラーム接続などで常時接続以外の動作になった場合でも、常時接続グループの表示は“有効/無効”の設定に従った表示を継続します。

#### ● 表示動作

ダブルクリック操作によって接続が成功した場合、ダブルクリックした機器の文字を太字に変更します。

切断された場合、標準の太さに戻ります。

通常接続中のビューにアラーム接続があった場合は、それまで接続状態で表示されていた機器の文字は標準の太さに戻ります（常時接続グループを除く）。

ツリービュー上に同一機器が複数登録されている場合でも、ダブルクリックを行った機器に対してのみ文字の太さが変わり、ツリービュー全体で散在している同一機器の文字の太さは変更されません。

グループ接続の場合、グループ名を含む下の階層の文字の太さが変更されます。

グループ名の接続中の文字は、SIP接続、ストリーミング接続にかかわらず、常に黒太字で表示されます。

グループ接続中にその階層下の機器を削除した場合、削除した機器の部分は標準の太さに戻り、グループ名の太さは変更せずに継続されます。

シーケンス接続の場合、シーケンスグループから下の階層の文字の太さが変更されます。

シーケンス名の接続中の文字は、SIP接続、ストリーミング接続にかかわらず、常に黒太字で表示されます。

シーケンス接続中にその階層下の機器を削除した場合、シーケンス名の太さは変更せずに継続されます。

グループ接続中にアラーム接続があった場合は、アラーム接続に置き換わった機器とグループ名の太さは標準に戻ります。

シーケンス接続中にアラーム接続に置き換わった場合は、アラーム接続に置き換わったシーケンス名とその下層機器の文字の太さは標準に戻ります。

## ■ ビュー GUI 表示動作

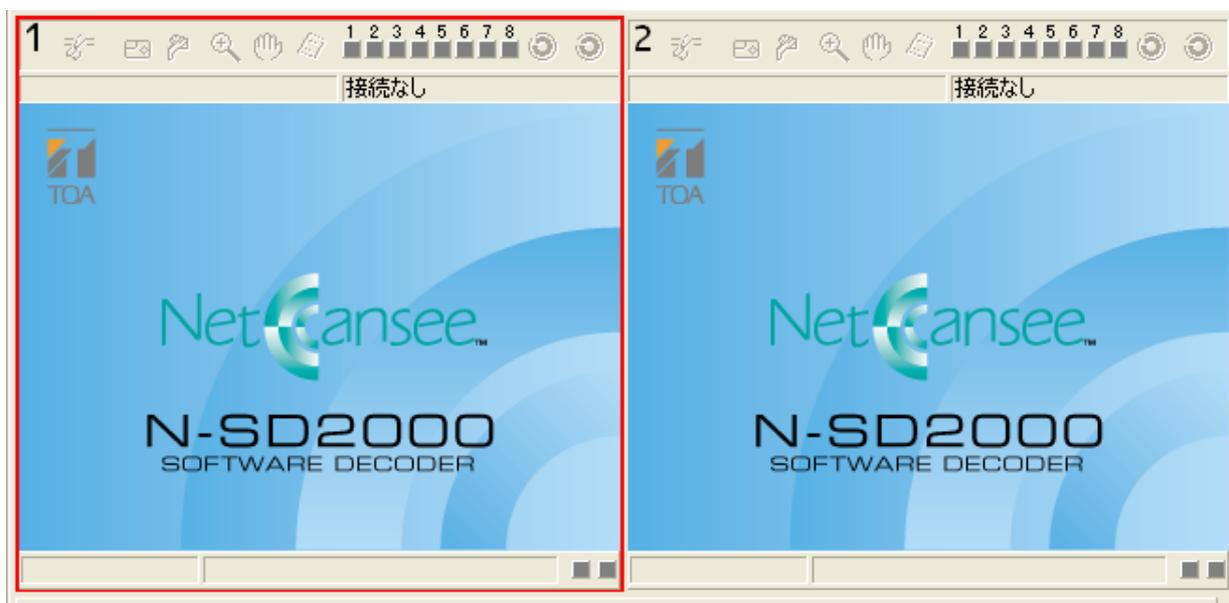
### ● ビュー選択状態

ビューが選択されているときは、ツールバー、ステータスバー、ビュー全体を囲む赤枠が表示されます。

### ● 画面選択

上下ステータスバー、ビュー画面のクリック、ツールバーの操作によって、該当するビューが選択状態になります。

ツールバー領域でのクリックイベントに対しては画面選択の反映はされません。ただし、ツールボタンのデジタルズーム、静止表示、カメラメニューの操作を行うと画面選択が切り換わります。

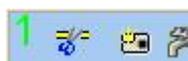


## ■ ツールバーの表示

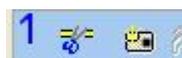
ツールバー直下のステータスバーには接続中の状態を表す文字列が表示されます。  
ビュー画面下部のステータスバーは機器名称、IPアドレス、異常時の状態が表示されます。

### ● 色表示の例（SIP 接続）

[ストリーミング接続無効]



[ストリーミング接続有効]



[無接続]



[ライブ接続中（マニュアル接続）]



[ライブ接続中（シーケンス）]



[アラーム接続中（レベル1）]



[録画再生中（マニュアル）]



[録画再生中（エクスポート画面表示中）]



[ライブ接続中（常時接続）]



# 常時接続

## ■ 常時接続機能について

常時接続機能については以下の通りです。

- 常時接続機能とは、ソフトウェアデコーダー起動時に、1、4画面にあらかじめ決められた機器・シーケンスとの接続を行う機能です。
- 4画面常時接続グループに登録された機器はビューが空いている場合に接続が行われます。ただし、マニュアル接続・アラーム時接続の方が優先されるため、マニュアル接続、アラーム接続が行われたときは自動で切断されます。
- 常時接続されている機器・シーケンスについては、通信異常等にて切断が行われたときは、自動ですぐに再接続が行われます。(シーケンス時は次の接続対象の接続が行われます。)
- 常時接続を登録しているビューにてアラーム接続が終了した場合、ユーザーの操作によってマニュアル接続等が切断されたときは自動で再接続が行われます。
- 常時接続は「常時接続グループの無効化」、「常時接続グループのダブルクリック」、「一斉切断ボタン押下」、「アプリケーションの終了時」のみ終了します。
- 常時接続が行われているビューについては、切断ボタンは表示されません。

常時接続設定（機器・シーケンスの登録）については以下の通りです。

- 常時接続を行いたいカメラ・シーケンスについては「ツリービュー」の「4画面常時接続ツリー」の「常時接続グループA～D」に登録します。
- 4画面常時接続グループの各ビューには、単独カメラとシーケンスを登録することができます。
- 登録しようとしたカメラがすでにグループ内の別ビューに登録されている（シーケンス内も含む）ときは登録できません。
- 登録しようとしたシーケンスの中のカメラがすでにグループ内の別ビューに登録されている（シーケンス内も含む）ときは登録できません。
- 登録先のグループですでに常時接続が行われているときは、登録・削除を行うことはできません。

マニュアル・アラーム接続にて、常時接続が上書きされているときも登録・削除はできません。

- 有効となっている常時接続グループに登録している機器が「機器マネージャ」から削除された場合は、有効となっている常時接続グループに登録している機器も削除されます。ただし、ビューの接続については切断されるまでは継続します。

シーケンスの時は削除された機器を除きシーケンスを行います。シーケンスに登録されている機器が削除されたときは、現在の映像を継続したままとなります。

[常時接続ツリーの表示]



① 4画面常時接続ツリー

4つのグループを持ち、それぞれのグループ内にビュー1から4に対して機器・シーケンスの登録が行えます。

各常時接続グループは、右クリックで以下のメニューが表示されます。

常時接続されていないグループ：「常時接続有効」

常時接続されているグループ：「常時接続無効」

「常時接続有効」メニューを選択すると、現在の常時接続が終了し、新たに常時接続が行われます。

「常時接続無効」メニューを選択すると、現在の常時接続が終了します。

ソフトウェアデコーダ終了時に有効になっている常時接続グループは、次回起動時に自動接続されます。

接続中のグループに対して、機器の登録/削除を行うことはできません。

接続中のグループに登録されている機器が「機器マネージャ」から削除された場合は、接続中のグループに登録している機器も削除されます。ただし、ビューの接続については切断されるまでは継続します。

シーケンスのときは、削除された機器を除きシーケンスを行います。シーケンスに登録されている機器が削除されたときは、現在の映像を継続したままとなります。

また、常時接続グループをダブルクリックすると、有効/無効を切り換えることができます。

② 一斉切断ボタン

ビューに接続されているすべての映像（マニュアル・アラーム・常時・録画再生）が切断されます。



# ライブ映像を表示する

## ■ 1 台の機器を接続する

ライブ映像を表示する方法を以下に記載します。

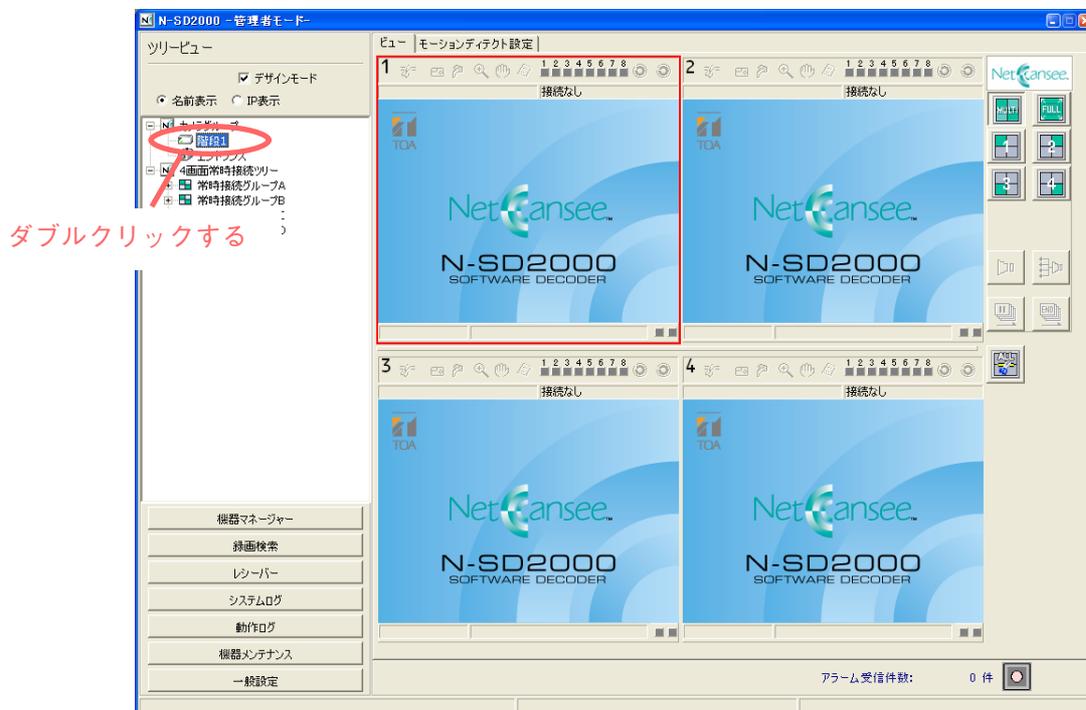
**1** ツリービューへ登録した機器を選択する。(P. 5-8「ツリービューを構築する」参照)

**2** 接続を行いたいビューをクリックして指定する。  
指定したビューが赤枠選択されます。

☒ ☒ 1画面表示では、指定の必要はありません。

**3** 表示したい機器をツリービュー上でダブルクリックする。  
接続が完了すると、ライブ映像が表示されます。

☒ ☒ ビューがレベル1アラームまたはN-DR2000のエキスポート中であれば、接続できません。



## ■ グループ接続を行う

一度の動作で4つのビューに一齐に接続することができます。

**1** ツリービューへグループを登録し、接続を行う機器を登録する。(P. 5-8「ツリービューを構築する」参照)

**2** 接続を行いたいグループをダブルクリックする。  
登録された機器へそれぞれ接続動作し、ライブ映像が表示されます。



## ■ シーケンスを行う

複数の機器を1つのビューに自動で切り替えて表示します。

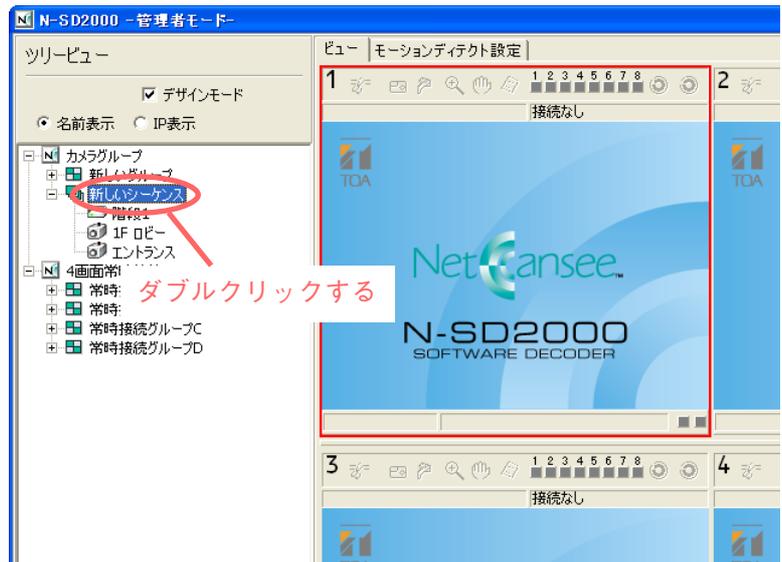
- 1 ツリービューへシーケンスパターンを登録し、シーケンスを行う機器を登録する。(P. 5-8「ツリービューを構築する」参照)
- 2 接続を行いたいビューを選択し、シーケンスパターンをダブルクリックする。  
シーケンスパターンに登録した順にシーケンスが行われます。

### ご注意

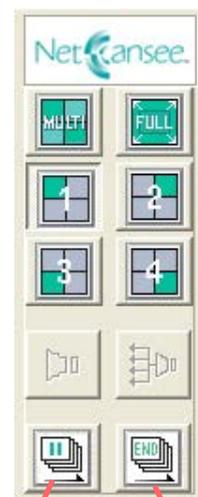
- シーケンス中のビューでは音声を送信できません。
- ビューがレベル1アラームまたはN-DR2000のEXPORT中であれば、ダブルクリック接続できません。

### メモ

シーケンス切り替え時間は、一般設定で設定できます。



- 3 シーケンスの切り替えを一時停止するには「シーケンス一時停止」をクリックする。  
シーケンスを再開するには、再度「シーケンス一時停止」をクリックしてください。
- 4 シーケンスを終了する。  
ツールバーの「切断」をクリックするか、シーケンス中のビューを選択し「シーケンス切断」をクリックしてください。



シーケンス  
一時停止

シーケンス  
切断

## ライブ音声を受信・送信する

### ■ 機器からの音声を受信する

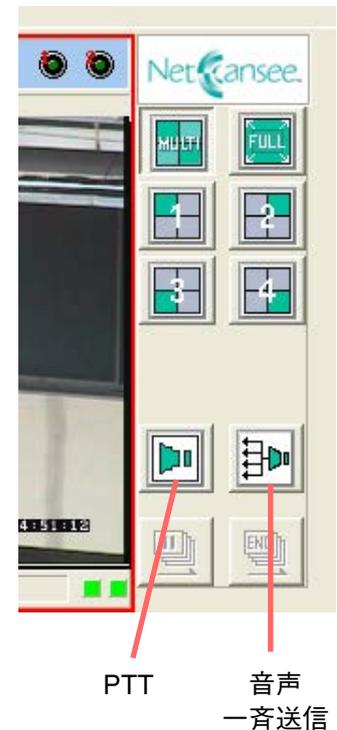
- 1 機器リストから音声を受信する機器を選択する。
- 2 接続時パラメーター設定で、音声送受信モードを「受信のみ」または「送受信」にする。
- 3 「OK」をクリックする。
- 4 機器をツリービューに登録していない場合、ツリービューへ登録する。
- 5 指定したビューに対し、ダブルクリック接続する。  
接続が完了すると音声の受信を開始し、PCのスピーカーへ音声が出力されます。

#### ■ ご注意

- 受信音声は、選択しているビューのみPCのスピーカーへ出力されます。
- 音声のみの受信、送受信はできません。
- 機器の音声設定が正しく行われていない場合、設定通りに動作しないことがあります。詳しくは、各機器の説明書（P. 1-2「説明書の名称」）を参照してください。

## ■ 機器へ音声を送信する

- 1 機器リストから音声を送信する機器を選択する。
- 2 接続時パラメーター設定で、音声送受信設定を「送信のみ」または「送受信」にする。
- 3 「OK」をクリックする。
- 4 機器をツリービューに登録していない場合、ツリービューへ登録する。
- 5 指定したビューヘダブルクリック接続する。  
接続が完了し、音声送信が可能な場合は、「PTT」が有効になります。
- 6 ビューを選択し、「PTT」をクリックすると音声を送信されます。



### メモ

音声送受信時にマイク、スピーカーの位置を修正しても音声の回り込みが気になる場合は、「一般設定」の「アプリケーション」タブで、「音声送信時に受信音声をミュートする」の項目にチェックを入れてください。

### ご注意

- 優先度により音声を送信できないことがあります。詳しくは、各機器の説明書（P. 1-2「説明書の名称」）を参照してください。
- シーケンスでは音声送信ができません。

### ● 音声をすべてのビューへ送信する

接続時に「音声一斉送信」をクリックする。

音声送信可能状態でライブ接続されているビューの機器すべてに同一の音声を送信されます。

「音声一斉送信」は、4つのビューのいずれかが音声送信できるときに有効になります。

## ■ 音声状態の表示について



### [ 音声インジケータ ]

- 灰 : 音声受信・音声送信を行っていない場合に表示されます。
- 黄緑 : 通常音声受信状態・音声送信状態のときに表示されます。
- 黄 : ループバック音声受信状態のときに表示されます（音声受信側のみ）。インジケータ上にマウスを置くと、ヒントとしてループバック音声送信元IPが表示されます。



### ● ループバックについて

- ループバックに設定された機器の音声を受信すると、その機器で送受信されている音声をモニタリングすることが可能です。
- 受信する音声は次のようにスピーカーより出力されます。
  - Lch : 接続機器が送信している音声
  - Rch : 接続機器が受信している音声

**ご注意** 接続機器が音声を受信していないとき、またはループバック音声送信元IPと受信先のIPアドレスが同じ場合は、Rchからは音声が出力されません。

## ライブ接続中の操作について

ライブ接続中のビューに対していろいろな操作を行うことができます。

### ご注意

ストリーミングモードでの接続時はパラメーター変更、接点入出力、カメラメニューの操作はできません。

## ■ スナップショットを保存する



スナップショット

接続中のビューでツールバーの「スナップショット」をクリックする。

指定されたフォルダに表示中の画像がJPEG形式で保存されます。保存される画像サイズは常にD1になります。受信中のライブ映像の画像サイズがD1より小さい場合はD1に拡大されます。

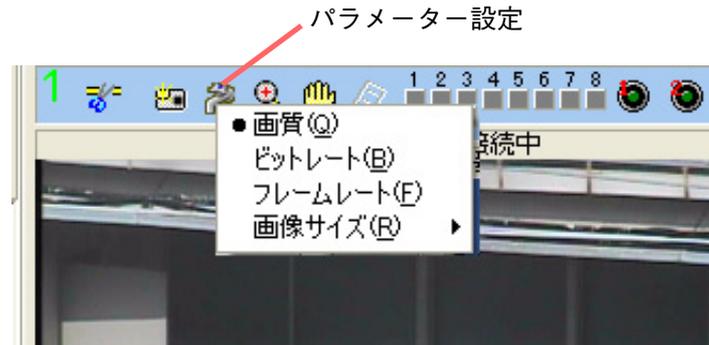
**メ モ** スナップショットの保存先は「一般設定」の「アプリケーションタブ」で設定してください。

## ■ 接続中に各種パラメーター変更を行う

機器と接続し映像を表示した状態で、映像ストリームに関連するパラメーターを変更できます。

### ご注意

- 設定値は機器の設定値以上に変更することはできません。
- 指定した機器が他の機器と接続中の場合、接続されている機器の中で一番低い設定値になり、指定した設定値にならない場合があります。
- ここでのパラメーター変更は接続時パラメーターの設定値を変えるものではありません。



1 接続中のビューの「パラメーター設定」をクリックする。

2 操作したいパラメーターを選択する。

### ● 画質を選択する

画質パラメーター設定スライドバーが表われます。  
表示時は現在の値が表示され、操作すると指定した値に変更されます。

### ● ビットレートを選択する

ビットレート設定スライドバーが表われます。  
表示時は現在の値が表示され、操作すると指定したビットレートに変更されます。

### ● フレームレートを選択する

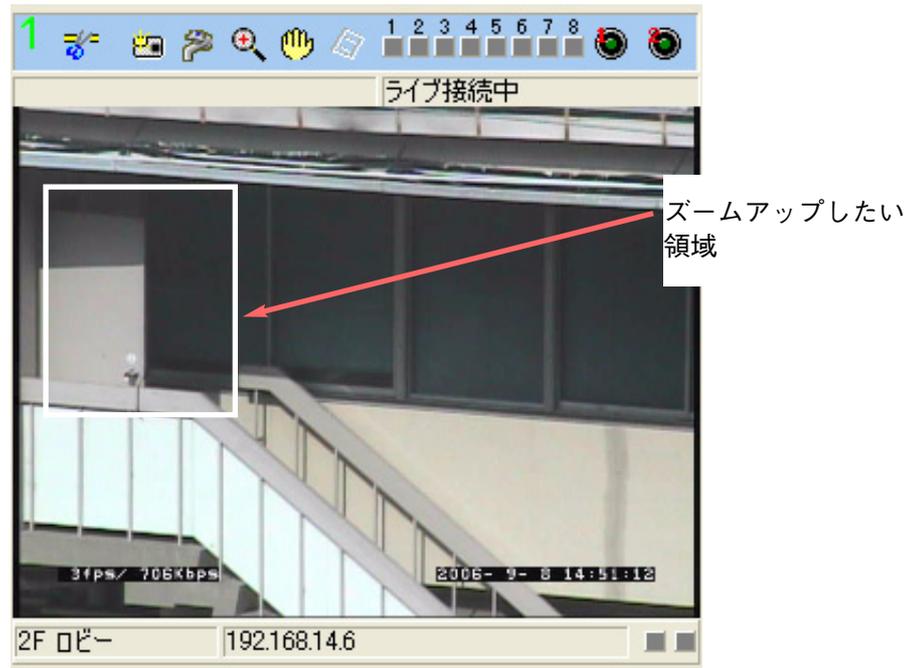
フレームレート設定スライドバーが表われます。  
表示時は現在の値が表示され、操作すると指定したフレームレートに変更されます。

### ● 画像サイズを選択する

画像サイズ選択メニューが表われます。  
表示時は現在の値が表示され、選択すると指定した画像サイズに変更されます。

**ご注意** 設定後は、一度接続が切断され、再度接続動作が行われます。

## ■ デジタルズームを行う



デジタルズーム

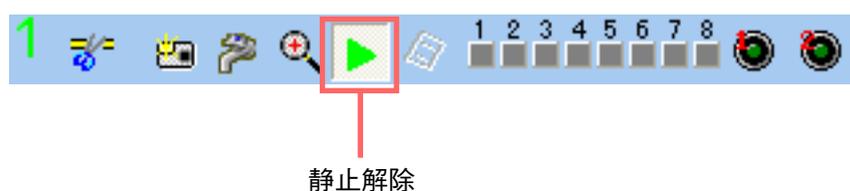
- 1** 接続中のビュー上の「デジタルズーム」をクリックする。
- 2** ビュー上でズームアップしたい領域をドラッグする。  
ドラッグ中には白い線で領域が表示されます。  
指定が終わると選択した領域がズームアップされます。
- 3** ズームアップ中に画面上をクリックする。  
クリックした方向にズーム領域が移動します。
- 4** 「デジタルズーム」を再度クリックする。  
デジタルズームが終了します。

## ■ ライブ映像を静止する

ライブ映像を静止させて表示することができます。



- 1** 接続中のビュー上の「静止表示」をクリックする。  
クリックした状態で映像が静止します。  
ボタンは「静止解除」の状態になります。



- 2** 「静止解除」をクリックする。  
ライブ映像の表示が再開します。

## ■ 接点入力について

接続している機器の接点入力の状態を表示します。

機器によって接点入力数が異なり、下表のようになります。接点入力があると、接点入力1～8が黄緑色に点灯します。



品番	接点入力数	品番	接点入力数	品番	接点入力数
N-CC2100M	2	N-CC2400MZ	2	N-CC2700	4
N-CC2130	2	N-CC2420MD	2	N-CC2720	4
N-CC2200MD	2	N-CC2420MR	2	N-CC2800MD	2
N-CC2230D2	2	N-CC2561	8	N-CC2830D2	4
N-CC2230R2	2	N-CC2571	8	N-VT2010	2
N-CC2360	2	N-CC2600	3		
N-CC2360A	2	N-CC2650M	3		

## ■ 接点出力について

接続している機器の接点出力の状態を表示します。クリックすると、ソフトウェアデコーダーから機器の接点出力のオン/オフを切り換えることができます。

### ご注意

- 機器の接点出力の設定で [ソース] の項目ができますが、リモート接点入力のときのみ、接点出力のオン/オフを切り換えることができます。
- 機器側で接点出力保持時間を設定していると、接点出力ボタンを押しても接点の状態はオフになりません。

接点出力は、2つの出力があります。接点出力がオン状態になると、接点出力1、接点出力2、のボタン内部の色が黄緑色になります。



## 機器の制御を行う

**ご注意** ストリーミングモードで接続した場合、機器の制御はできません。

### ■ カメラメニュー制御について

カメラメニューを表示できるカメラを接続した場合、ツールバーの上の「カメラメニュー」が有効になり、カメラの各種設定が可能になります。

[カメラメニューを表示できるカメラ]

N-CC2100M、N-CC2130、N-CC2200MD、N-CC2230D2、N-CC2230R2、N-CC2360、N-CC2360A  
N-CC2400MZ、N-CC2420MD、N-CC2420MR、N-CC2650M、N-CC2800MD、N-CC2830D2



- 1 接続中に接続ビュー上の「カメラメニュー」をクリックする。  
カメラメニュー制御パネルまたは設定パネルが表示されます。  
カメラメニューの制御パネル、設定パネルについては、各機器の説明書 (P. 1-2 「説明書の名称」) を参照してください。

- 2 「カメラメニュー」を再度クリックする。  
カメラメニュー制御パネルが閉じます。

メモ

ネットワークコンビネーションカメラとトランスミッターに接続したコンビネーションカメラのメニュー制御は P. 5-36 「コンビネーションカメラ、屋外メガピクセルズームカメラの制御を行う」を参照して下さい。

## ■ デジタルレコーダーの制御を行う (C-DR1605/0905)

トランスミッターに接続されたデジタルレコーダーを制御することができます。

**1** トランスミッターとデジタルレコーダーを接続する。

**2** 接続時パラメーター設定のRS-232CでC-DR1605/C-DR0905制御を選択する。

**3** トランスミッターとソフトウェアデコーダーを接続する。

接続すると、デジタルレコーダーの制御パネルが表示されます。

**4** 制御する。

制御パネルのボタンでデジタルレコーダーの制御ができます。



記録/停止ボタン

メモ

- 機器に対する制御権の有無はパネル内の左上部に表示されます。
- 接続時パラメーター設定のRS-485にてTOAコンビネーションカメラタイプA (C-RM700マスター機能)、TOAコンビネーションカメラタイプA (C-RM500スレーブ機能)、TOAコンビネーションカメラタイプA (C-RM700スレーブ機能) およびTOAコンビネーションカメラタイプB (C-RM700マスター機能 (ポイントビュー含む)) を選択した場合は、コンビネーションカメラ制御パネルも同時に表示されます (P. 5-31 参照)。

### ご注意

デジタルレコーダーに接続したコンビネーションカメラを制御する場合は、コンビネーションカメラのカメラIDをデジタルレコーダーのチャンネル番号とあわせてください。

設定項目	説明	
分割/SEQボタン	クリックするとマルチプレクサ機能で選択した画面の4分割、9分割、16分割、シーケンス表示が切り換わります。	
サーチボタン	クリックするとタイムデートサーチメニューを表示します。再度クリックするとサーチ方式設定を表示します。さらにクリックすると、サーチメニューは閉じます。	
設定ボタン	クリックすると設定画面が表示されます。再度クリックすると設定画面は閉じます。	
カメラ番号ボタン (1~16)	クリックした番号のカメラ映像に切り換わります。コンビネーションカメラ制御ウィンドウが表示されている場合、デジタルレコーダー制御パネルのカメラ番号ボタンをクリックすると、コンビネーションカメラのカメラIDも同じIDに自動で切り換わります。	
マルチプレクサ出力ボタン	Aボタン	クリックするとカメラ番号ボタン、分割/SEQボタンの操作をOUTPUT A端子とアナログ出力端子に接続されたモニター映像用に切り換えます。
マルチプレクサ出力ボタン	Bボタン	クリックするとカメラ番号ボタン、分割/SEQボタンの操作をOUTPUT B端子に接続されたモニター映像用に切り換えます。
記録/停止ボタン	クリックすると記録を開始します。記録中に3秒以上押すと記録を停止します。	
■ボタン	クリックすると再生を停止します。	

## 第5章 操作のしかた

設定項目	説明
◀◀ ボタン	クリック時間の長さに応じた逆方向スピードサーチを行います。 (本体のシャトル左回しに対応します) 2秒：1 MB単位 6秒：10 MB単位 14秒：100 MB単位 22秒：1 GB単位
◀ ボタン	クリックすると逆再生を開始します。
◀   ボタン	一時停止中にクリックすると逆方向のコマ送りをを行います。 (本体のジョグ左回しに対応します)
ボタン	再生中にクリックすると静止画再生になります。再度クリックすると再生を開始します。
▶ ボタン	一時停止中にクリックすると順方向のコマ送りをを行います。 (本体のジョグ右回しに対応します)
▶ ボタン	クリックすると再生を開始します。
▶▶ ボタン	クリック時間の長さに応じた順方向スピードサーチを行います。 (本体のシャトル右回しに対応します) 2秒：1 MB単位 6秒：10 MB単位 14秒：100 MB単位 22秒：1 GB単位
アラームホールドボタン	クリックするとアラーム信号および動き検知を5分間受け付けません。
警告消去ボタン	クリックすると画面上の警告表示を消去したり、データクリアの実行などを行います。

※ 詳しくは、機器本体の取扱説明書を参照してください。

## ■ デジタルレコーダーの制御を行う (C-DR161/DR091/DV09xW-6)

トランスミッターに接続されたデジタルレコーダーを制御することができます。

- 1 トランスミッターとデジタルレコーダーを接続する。
- 2 接続時パラメーター設定のRS-232CまたはRS-485の設定で、C-DR161 / DR091 / DV09xW-6 + TOA コンビネーションカメラ制御 (C-RM1000 機能) のいずれかを選択する。
- 3 トランスミッターとソフトウェアデコーダーを接続する。  
接続すると、デジタルレコーダーの制御パネルが表示されます。



コンビネーションカメラ制御部      シーケンス 4分割      16分割 9分割      メインパネル      設定操作部

### メモ

- 接続カメラ選択ウィンドウで、すべてのカメラを「固定カメラ/なし」に設定すると、コンビネーションカメラ制御部は表示されません。
- 設定操作部はメインパネル上の「ズーム」および「メニュー」のどちらかがオン状態のときのみ表示されます。
- 機器に対する制御権の有無はパネル内の左上部に表示されます。

### ご注意

デジタルレコーダーが再生中および再生/ライブ混在表示中は、コンビネーションカメラ制御部の矢印ボタン、AFボタン、ズームボタン、フォーカスボタンは動作しません。

## 4 制御パネルのボタンで制御する。

制御パネルの操作については、次のページを参照してください。

## 第5章 操作のしかた

### [メインパネル]

設定項目	説明
カメラ番号ボタン (1~16)	クリックした番号のカメラ映像に切り換わります。 コンビネーションカメラ制御ウィンドウが表示されている場合、デジタルレコーダー制御パネルのカメラ番号ボタンをクリックすると、コンビネーションカメラのカメラIDも同じIDに自動で切り換わります。
DVR-ID	選択したDVR-IDのデジタルレコーダーの制御が可能な状態になります。 デジタルレコーダーをカスケード接続している場合は、「接続時パラメーター設定」でカスケード設定を行ってください。
モニター選択ボタン (1、2)	クリックしたモニターの操作が可能な状態になります。
ズーム*1	クリックするとボタンがオン状態でズーム選択画面になり、設定操作部が表示されます。 再度クリックするとオフ状態になり、ズーム選択画面が解除されます。
シーケンスボタン	デジタルレコーダーがライブ動作中にクリックすると、シーケンス動作ができます。
4分割ボタン	クリックすると4分割表示になります。4分割表示中にクリックすると次のグループに変わります。
9分割ボタン*1	クリックすると9分割表示になります。9分割表示中にクリックすると次のグループに変わります。
16分割ボタン*1	クリックすると16分割表示になります。
■ ボタン*1	再生中にクリックすると再生が停止しライブに戻ります。
◀◀ ボタン*1	クリックすると録画された最古の時刻から再生できます。
◀◀◀ ボタン*1	クリックすると早戻し再生ができます。早戻し中にクリックすると再生速度が次のように変化します。  通常再生 → 2倍速 → 4倍速 → 8倍速 → 1分飛ばし → 10分飛ばし → 通常再生
◀ ボタン*1	クリックすると逆再生ができます。
◀◀◀◀ ボタン*1	一時停止中にクリックするとコマ戻しができます。
◀◀◀◀◀ ボタン*1	再生中にクリックすると一時停止ができます。
◀◀◀◀◀◀ ボタン*1	一時停止中にクリックするとコマ送りができます。
▶ ボタン*1	クリックすると再生ができます。
▶▶▶ ボタン*1	クリックすると早送り再生ができます。早送り中にクリックすると再生速度が次のように変化します。  通常再生 → 2倍速 → 4倍速 → 8倍速 → 1分飛ばし → 10分飛ばし → 通常再生
▶▶▶▶ ボタン*1	クリックすると録画された最新の時刻から逆再生できます。
緊急録画ボタン	クリックすると緊急録画が開始されます。
アラーム解除	クリックするとブザーを停止できます。長押しするとアラームが解除できます。
メニューボタン*1	ライブ中にクリックするとボタンがオン状態となり、設定操作部が表示されます。再度クリックすると設定操作部が閉じます。

## [設定操作部]

設定項目	説明
矢印ボタン	クリックするとメニューカーソルを移動できます。
戻ボタン*2	クリックするとメニューが前画面に戻ります。
進ボタン*2	クリックするとメニューが次画面に進みます。
＋ボタン*2	クリックするとメニューの設定値を増加させることができます。
－ボタン*2	クリックするとメニューの設定値を減少させることができます。
確定ボタン	クリックすると設定を確定することができます。
検索ボタン*2	クリックするとボタンがオン状態となり、検索画面が表示できます。再度クリックすると検索画面を終了します。
トリプレックスボタン*2	クリックするとボタンがオン状態となり、トリプレックス設定画面が表示できます。再度クリックするとトリプレックス設定画面を終了します。
DVRボタン*2	クリックするとボタンがオン状態となり、メニュー画面が表示できます。再度クリックするとメニュー画面を終了します。
配置ボタン*2	クリックするとボタンがオン状態となり、配置設定画面が表示できます。再度クリックすると配置設定画面を終了します。

\*1 モニター2選択時は表示されません。

\*2 ズーム時は無効状態になります。

メモ
----

コンビネーションカメラ操作部については、P. 5-36「コンビネーションカメラ、屋外メガピクセルズームカメラの制御を行う」を参照してください。

※ 詳しくは、機器本体の取扱説明書を参照してください。

## ■ マルチスイッチャーの制御を行う (C-MSシリーズ)

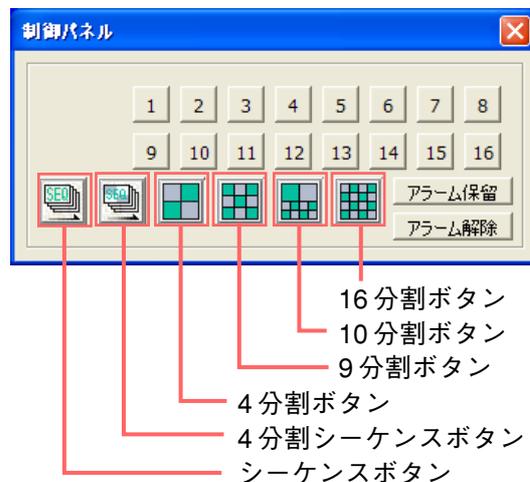
トランスミッターに接続されたマルチスイッチャーを制御することができます。

**1** トランスミッターとマルチスイッチャーを接続する。

**2** 接続時パラメーター設定のRS-232Cでマルチスイッチャー (C-MSシリーズ) 制御 (C-RM100(ISDN)機能) を選択する。

**3** トランスミッターとソフトウェアデコーダーを接続する。  
接続すると、マルチスイッチャーの制御パネルが表示されます。

**4** 制御する。  
制御パネルのボタンで次の制御ができます。



### メモ

- 機器に対する制御権の有無はパネル内左上部に表示されます。
- 接続時パラメーター設定のRS-485にてTOA コンビネーションカメラ タイプA (C-RM700 マスター機能)、TOA コンビネーションカメラ タイプA (C-RM500 スレーブ機能)、TOA コンビネーションカメラ タイプA (C-RM700 スレーブ機能) および TOA コンビネーションカメラ タイプB (C-RM700 マスター機能 (ポイントビュー含む)) を選択した場合は、コンビネーションカメラ制御パネルも同時に表示されます (P. 5-31 参照)。

### ご注意

マルチスイッチャーに接続したコンビネーションカメラを制御する場合は、コンビネーションカメラのカメラIDをマルチスイッチャーのチャンネル番号とあわせてください。

設定項目	説明
アラーム保留ボタン	クリックするとアラーム保留状態となります。再度クリックすると解除されます。アラーム保留状態ではアラーム入力によりモニター画面の切り換えは行われません。
アラーム解除ボタン	本体がカメラモードのときにクリックするとアラームが解除されます。本体がVTRモードのときにクリックするとブザーを一時停止します。
カメラ選択ボタン (1~16)	クリックした番号のカメラ映像に切り換わります。コンビネーションカメラ制御ウィンドウが表示されている場合、マルチスイッチャー制御パネルのカメラ番号ボタンをクリックすると、コンビネーションカメラのカメラIDも同じIDに自動で切り換わります。
シーケンスボタン	クリックすると1画面シーケンスが行われます。
4分割シーケンスボタン	クリックすると4画面シーケンスが行われます。
4分割ボタン	クリックすると4分割表示に切り換わります。再度クリックすると表示グループが切り換わります。
9分割ボタン	クリックすると9分割表示に切り換わります。再度クリックすると表示グループが切り換わります。
10分割ボタン	クリックすると10分割表示に切り換わります。再度クリックすると表示グループが切り換わります。
16分割ボタン	クリックすると16分割表示に切り換わります。

※ 詳しくは、機器本体の取扱説明書を参照してください。

## ■ システムコントローラーの制御を行う (C-SC80/C-SC50)

トランスミッターに接続されたシステムコントローラーを制御することができます。

- 1 トランスミッターとシステムコントローラーを接続する。
- 2 接続時パラメーター設定のRS-232CでC-SC80/C-SC50制御 (C-RM100(ISDN)機能) を選択する。
- 3 トランスミッターとソフトウェアデコーダーを接続する。  
接続すると、カメラ制御とシステムコントローラーの制御パネルが表示されます。
- 4 制御する。  
制御パネルのボタンで次の制御ができます。



設定項目	説明
シーケンスボタン	C-SC80/C-SC50のシーケンス動作を開始します。
カメラ選択ボタン	クリックした番号のカメラ映像に切り換わります。
カメラ選択番号切換ボタン	カメラ選択ボタン番号の表示グループを切り換えます。 C-SC50のみ使用可能です。

### ご注意

C-RM50Aの操作中は、N-SD2000から制御を行うことはできません。

### メモ

- C-SC80/C-SC50に接続されたC-RM50AとRS-232Cの制御権は、C-SC80/C-SC50側で先優先になります。
- シーケンスを停止するときは、カメラ選択ボタンをクリックすると停止します。
- コンビネーションカメラの制御パネルについては、P. 5-36「コンビネーションカメラ、屋外メガピクセルズームカメラの制御を行う」を参照してください。

## ■ コンビネーションカメラ、屋外メガピクセルズームカメラの制御を行う

トランスミッターに接続したコンビネーションカメラ、ネットワークコンビネーションカメラ、および屋外メガピクセルズームカメラの制御ができます。

**ご注意** コンビネーションカメラ タイプBおよびネットワークコンビネーションカメラで電子ズーム倍率を指定できる機種を使用する場合は、コンビネーションカメラの電子ズームの設定を×2Cont、×4Cont、×8Cont、×12Cont、のいずれかに設定してください。

### ● 表示する前に

[トランスミッターとコンビネーションカメラの場合]

制御パネル A：TOA コンビネーションカメラ タイプA (C-RM700 マスター機能)、コンビネーションカメラ タイプB (C-RM700 マスター機能 (ポイントビュー含む)) を選択して接続すると表示されます。

制御パネル B：「RS-485」で TOA コンビネーションカメラ タイプA (C-RM500 スレーブ機能) を選択して接続すると表示されます。

制御パネル C：「RS-232C」で C-SC100/マルチスイッチャー (C-MS シリーズ) 制御 (C-RM100(ISDN)機能)、C-SC80/C-SC50 制御 (C-RM100(ISDN)機能) を選択して接続すると表示されます。

制御パネル D：「RS-485」で TOA コンビネーションカメラ タイプA (C-RM700 スレーブ機能) を選択して接続すると表示されます。

[ネットワークコンビネーションカメラの場合]

登録したネットワークコンビネーションカメラを接続すると、制御パネル Aが表示されます。

[屋外メガピクセルズームカメラの場合]

登録した屋外メガピクセルズームカメラを接続すると、制御パネル Eが表示されます。

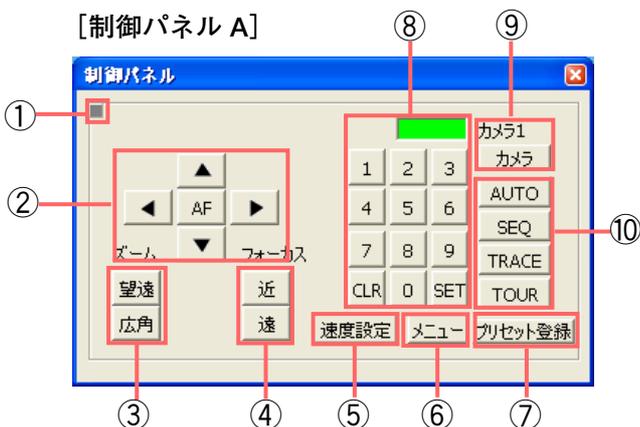
[ネットワークメガピクセルPTZカメラ (N-CC2650M) の場合]

登録したネットワークメガピクセルPTZカメラを接続すると、制御パネル Fが表示されます。

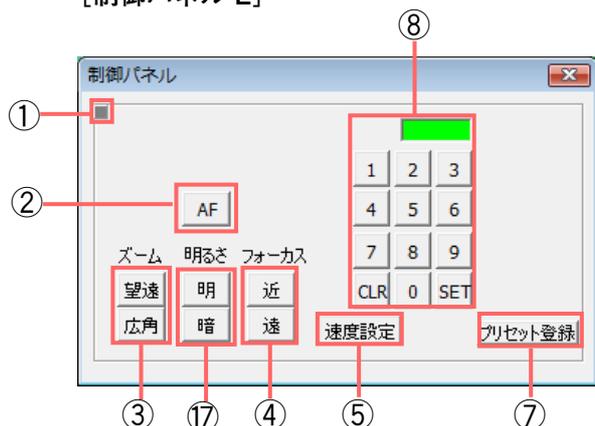
### ● 制御する

制御パネルのボタンで次の制御ができます。

メ モ 機器に対する制御権はパネル内に表示されます。



[制御パネル E]



[制御パネル F]



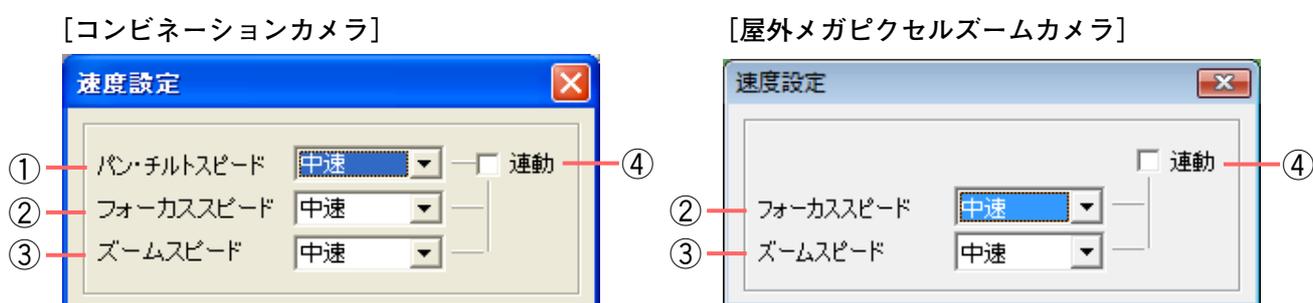
- ① 通信インジケータ : 制御権がある場合は操作時に緑色、ない場合は紫色で点滅します。  
 制御権表示 : 制御権の有無が表示されます。制御権の設定は各機器のシリアルポートの設定から行ってください。
- ② AF : オートフォーカスをします。  
 ▶ : 右方向にカメラを動かします。  
 ◀ : 左方向にカメラを動かします。  
 ▲ : 上方向にカメラを動かします。  
 ▼ : 下方向にカメラを動かします。
- ③ 望遠 : 望遠表示にします。  
 広角 : 広角表示にします。
- ④ 近 : 焦点を近くに合わせます。  
 遠 : 焦点を遠くに合わせます。
- ⑤ 速度設定 : 速度設定ウィンドウが開きます。速度設定ウィンドウは、次項を参照してください。
- ⑥ メニュー : コンビネーションカメラのカメラメニューが表示されます。
- ⑦ プリセット登録 : 登録したいポジション番号を入力しクリックすると、現在のカメラポジションがプリセット登録されます。
- ⑧ 0~9 : ポジションやカメラ選択用数字を入力します。  
 SET : ポジション設定を決定するときに使用します。  
 CLR : 入力表示部に表示された数値をクリアするときに使用します。  
 入力表示部 : 0~9のボタンで入力された数値を表示します。
- ⑨ カメラ : カメラ番号を入力してボタンをクリックすると、入力した番号のカメラを表示します。  
**ご注意** ネットワークコンビネーションカメラでは、カメラ番号を指定できません。
- ⑩ AUTO : オート動作をします。タイプAではカメラメニューでの設定通り動作します。タイプBではカメラメニューの設定に関わらずオートパンを行います。  
 SEQ : カメラポジションをシーケンスします。  
**ご注意** N-CC2600、N-CC2650M、N-CC2700、N-CC2720は使用できません。  
 [メ]モ C-CC602、C-CC704 (生産完了品)、C-CC724でTOAコンビネーションカメラタイプA (C-RM700マスター機能) を選択した場合は、ツアー1の動作を行います。
- TRACE : 動作させるトレース番号を入力し、クリックするとトレース動作を開始します。(タイプA時は表示されません)  
**ご注意** N-CC2650Mは使用できません。
- TOUR : 動作させるツアー番号を入力し、クリックするとツアー動作を開始します。(タイプA時は表示されません)
- ⑪ ダイレクトセレクト : C-RM500またはC-RM100に登録したダイレクトセレクトを動作させることができます。

## 第5章 操作のしかた

- ⑫ デフロスタ :ハウジングなどに付属するデフロスタを動かすことができます。
- ⑬ ワイパー :ハウジングなどに付属するワイパーを動かすことができます。
- ⑭ 予備 : C-SC100 で制御可能な予備接点を動かすことができます。
- ⑮ 予備1、予備2 : C-RM700 で制御可能な予備接点を動かすことができます。
- ⑯ ファンクション : C-RM700のファンクションキーを動作させることができます。
- ⑰ 明 : 画面を明るくします。
- 暗 : 画面を暗くします。

### ● 速度設定ウィンドウ

コンビネーションカメラ、屋外メガピクセルズームカメラの動作速度の設定を行います。速度設定は「微速」「低速」「中速」「高速」から選択できます。



- ① パン・チルトスピード : パン・チルトの動作速度設定を行います。
- ② フォーカススピード : フォーカス時の動作速度を設定します。
- ③ ズームスピード : ズーム時の動作速度を設定します。
- ④ 連動 : ①～③の項目を一括して変更するときにチェックを入れます。

#### メモ

- カメラメニューに「マニュアルセッテイ」の「マニュアルスピード」がある場合は、タイプAでのみ有効になります。タイプBのカメラを使用する場合は、速度設定ウィンドウの設定が優先されます。
- N-CC2600、N-CC2720のフォーカススピードは「中速」で固定になります。

#### ご注意

- 接続時パラメータ設定の「RS-232C」で、C-SC100/マルチスイッチャー (C-MSシリーズ) 制御 (C-RM100(ISDN)機能) と、「RS-485」でTOA コンビネーションカメラ タイプA (C-RM500スレーブ機能) を選択した場合、「高速」は機能しません。
- C-CC602、C-CC724のフォーカススピードは、常時「中速」で動作します。
- 接続パラメータ設定の「RS-485」で、TOA コンビネーションカメラタイプA (C-RM700スレーブ機能) を選択した場合のフォーカススピードは、「微速」以外は同一速度で動作します。

### ● ポイントビュー・ズームビュー機能

タイプBでコンビネーションカメラをトランスミッターに接続した場合、またはネットワークコンビネーションカメラの場合、ライブ接続中に以下の機能を利用することができます。

ポイントビュー : ライブ画面上をマウスで左クリックすると、クリックした位置が中心になるようにカメラが旋回します。

ズームビュー : ライブ画面上をマウスドラッグし長方形を描くと、その領域がズームアップされます。右クリックするとズームアウトします。

**ご注意** デジタルレコーダー C-DR161/DR091/DV09xW-6 経由でコンビネーションカメラの制御を行う場合は、これらの機能は利用できません。

# アラーム

## ■ ソフトウェアデコーダーのアラーム接続について

ソフトウェアデコーダーは、IPカメラ、トランスミッターからのアラームを受信すると接続処理を行います。接続処理はソフトウェアデコーダーの映像接続状態等により異なります。

## ■ アラームについて

### ● アラーム信号

アラーム信号は以下の通りです。

- 一般設定の [アラーム] タブの [アラーム自動接続を有効にする] にチェックが入っている場合、自動接続が行われます。
- アラーム信号が両エッジについては、自動切断は行われません。
- アラーム信号が両エッジ・片エッジともにマニュアル切断を行うことができます。
- ソフトウェアデコーダーのマニュアル接続は、機器リストに登録されているものが対象となりますが、アラーム接続は、機器リストに登録されていない機器も接続が行われます。
- 自動接続設定 ON でアラームを受信したときにフルスクリーンモードになっている場合は、フルスクリーンモードは解除されます。
- 自動接続設定 ON でアプリケーションが最小化のときは、通常の画面状態に戻ります。
- 自動アラーム接続が行われたときは、映像は4画面表示になります。
- すべてのビューがレベル1アラームまたはN-DR2000のエクスポート中であれば、受信件数が更新されますが、接続は行われません。
- すべてのビューが常時接続、ライブ接続またはN-DR2000再生の場合は、接続の最も古いビューが切断され、アラーム接続されます。
- 常時接続とライブ接続、N-DR2000再生が混在している場合は、常時接続の最も古いビューが切断され、アラーム接続されます。
- 接続しているビューにアラームと同一機器がすでに存在している場合は、リトリガ（アラーム時間の延長）動作となります。
- アラーム接続が終了すると、ビューはロゴ画面または常時接続に戻ります。
- 空きビューがあれば、番号の若いビューに接続します。

### ● 片エッジの自動切断について

ソフトウェアデコーダーで設定される自動切断時間は、アラームを受信したときにソフトウェアデコーダーにて設定されている時間とします。

例：ソフトウェアデコーダーの設定時間が1分の時にアラームAが発生  
ソフトウェアデコーダーの設定時間を3分に変更後アラームBが発生

アラームAの自動切断時間：1分

アラームBの自動切断時間：3分

## ■ アラーム受信時の画面表示状態について

アラーム受信時の画面状態は以下の通りです。(1画面、4画面共通)



- ① アラーム受信時にアイコン状態がONになります。  
アラーム音の設定が行われているときはアラーム音が鳴ります。アイコンをクリックするとアラーム音は停止します。  
アイコンをクリックまたは設定されている「アイコンのオフ状態までの時間」経過後、アイコン状態はOFFになります。  
接続中のすべてのアラームが「ユーザの切断動作」、「両エッジ時の終了エッジ受信」、「片エッジの自動切断時間経過」等で終了したときは、アイコン状態はOFFになります。  
アイコン状態がOFFになったときはアラーム音も停止されます。
- ② アラーム受信時にアラーム受信件数を表示します。  
動作ログ画面を表示すると消去されます。動作ログの最大表示件数は5,000件です。

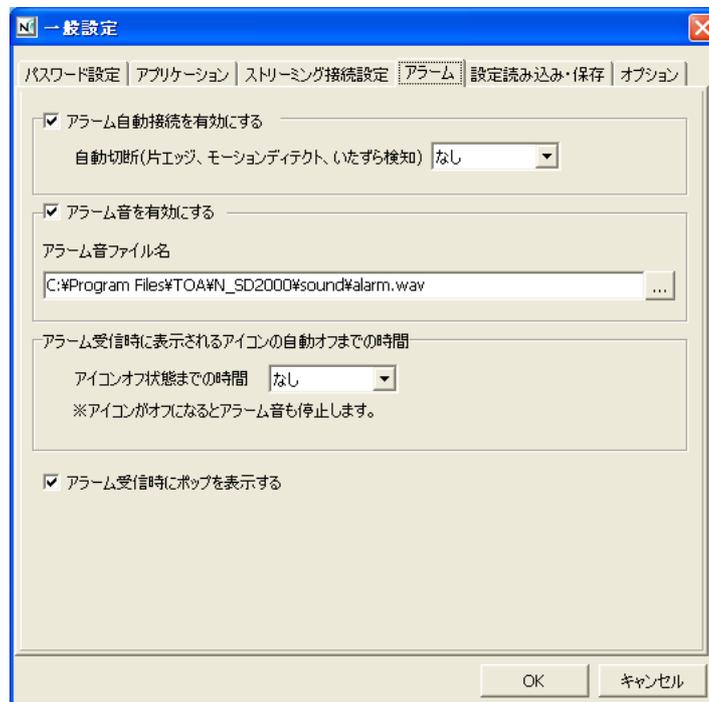
アラーム受信時には、アラーム受信ダイアログが表示されます。



アラーム受信ダイアログを閉じるには [OK] をクリックします。

## ■ アラームの設定について

「アラーム」タブで設定できる内容は以下の通りです。

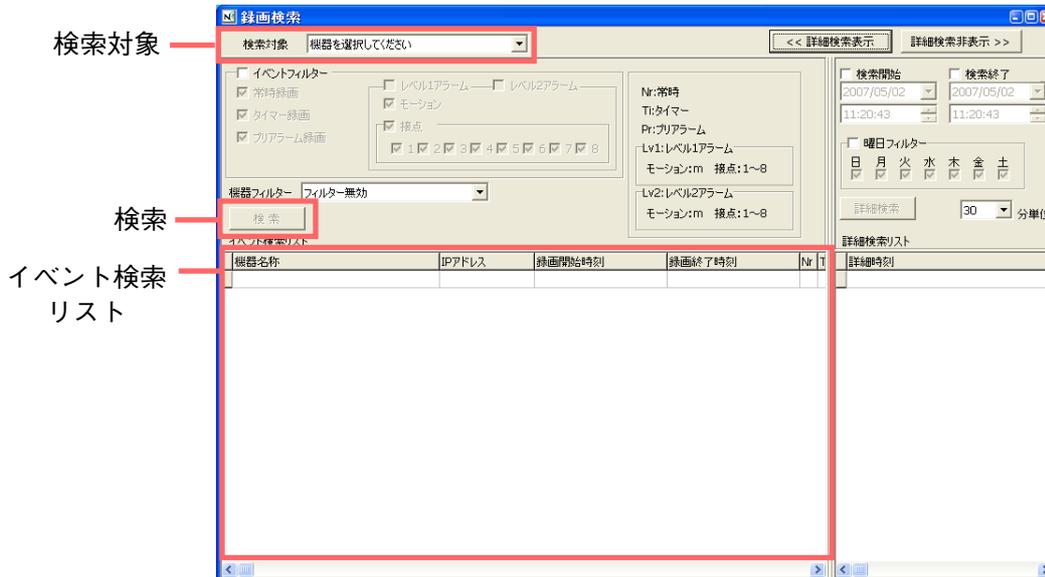


項目	選択（下線は初期値）	説明
アラーム自動接続を有効にする	デフォルト：ON	チェックボックスをONにするとアラーム受信時に自動接続を行います。チェックボックスをOFFにするとアラーム受信時に自動接続は行われず、ログのみが記録されます。
自動切断 （片エッジ、 モーションディテクト、 いたずら検知）	なし／10秒／20秒／ 30秒／1分／2分／3分	接続を行っている片エッジアラームの自動切断までの時間を設定します。
アラーム音を有効にする	デフォルト：ON	チェックボックスをONにするとアラーム受信時にアラーム音が鳴ります。チェックボックスをOFFにするとアラームを受信してもアラーム音は鳴りません。
アラーム音ファイル名	デフォルト： インストールフォルダ ¥sound¥alarm.wav	アラーム音が有効のときに再生される音声ファイルのフルパスが表示されます。
アラーム音ファイル 選択ダイアログ表示 ボタン	—	アラーム音ファイルを選択するためのファイル選択ダイアログを表示します。
アイコンオフ状態 の時間	なし／10秒／20秒／ 30秒／1分／2分／3分	アラーム受信時に、オンされるアイコンの自動オフまでの時間を設定します。
アラーム受信時に ポップを表示する	デフォルト：ON	アラーム受信時に、アラームが受信されたことを示すポップアップを表示するかどうかを選択します。

# 検索・再生する

## ■ イベント検索して再生する

ネットワークデジタルレコーダーへ録画されたデータの検索や再生を行います。管理ウィンドウの「録画検索」をクリックすると、ウィンドウが表示されます。



### 1 検索対象から検索する機器を選択する。

検索対象には機器リストに登録されたネットワークデジタルレコーダーが表示されます。

### 2 検索条件の設定をする。

イベントフィルター：チェックすると、フィルターが有効になります。表示したいイベントをチェックすると、そのイベントにて録画されたデータが表示されます。

機器フィルター：機器を指定し検索すると、指定した機器の録画のみがイベント検索リスト上に表示されます。

メ モ

機器フィルターで選択できる機器は、一度検索を行い、その検索結果で表示される機器のみです。

### 3 「検索」をクリックする。

検索結果が表示されます。

#### ご注意

- ネットワーク設定により正しく検索できない場合があります。
- 検索対象がネットワーク上に存在しない場合、検索ボタン横に「応答が無いため検索できません」と表示され、ボタンが無効になります。

イベント検索リストには、以下の情報が表示されます。

- 機器名称 : ネットワークデジタルレコーダーで録画された機器の名称が表示されます。
- IP アドレス : 録画された機器の IP アドレスが表示されます。
- 録画開始時刻 : 録画開始時刻が表示されます。
- 録画終了時刻 : 録画終了時刻が表示されます。録画中のデータは現在の時刻が表示されます。
- Nr : 常時録画を表します。該当する場合は○が表示されます。
- Ti : タイマー録画を表します。該当する場合は○が表示されます。
- Pr : プリアラーム録画を表します。該当する場合は○が表示されます。
- Lv1 : レベル1アラームによる録画が表示されます。  
[m] モーションディテクトによるアラーム\*  
[1~8] 接点入力に該当するアラーム
- Lv2 : レベル2アラームによる録画が表示されます。  
[m] モーションディテクトによるアラーム\*  
[1~8] 接点入力に該当するアラーム
- 画質 : 録画の画質が表示されます。5段階で表示され、1が最高画質になります。
- 画像サイズ : 録画画像サイズが表示されます。
- fps : 録画フレームレートが表示されます。
- 音声 : 録画データの音声の情報が表示されます。表示される内容は以下の通りです。

サンプリングレート	8 k (Hz)				32 k (Hz)				音声なし
圧縮	オン		オフ		オン		オフ		
ループバック	オン	オフ	オン	オフ	オン	オフ	オン	オフ	
表示内容	8 k/圧縮/L	8 k/圧縮	8 k/L	8 k	32 k/圧縮/L	32 k/圧縮	32 k/L	32 k	なし

\* いたずら検知機能は、モーションとして記録されます。ただし、N-CC2130、N-CC2230D2、N-CC2230R2、N-CC2830D2のいたずら検知機能は、接点入力8として記録されます。

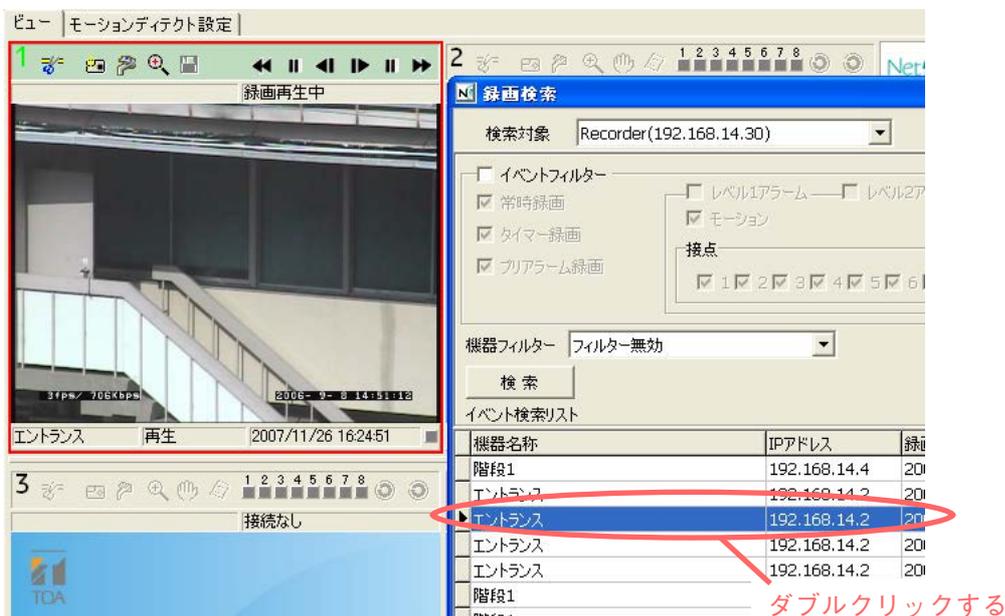
#### 4 接続を行いたいビューをクリックして指定する。

指定したビューが赤枠選択されます。

メ モ 1画面表示では、指定の必要はありません。

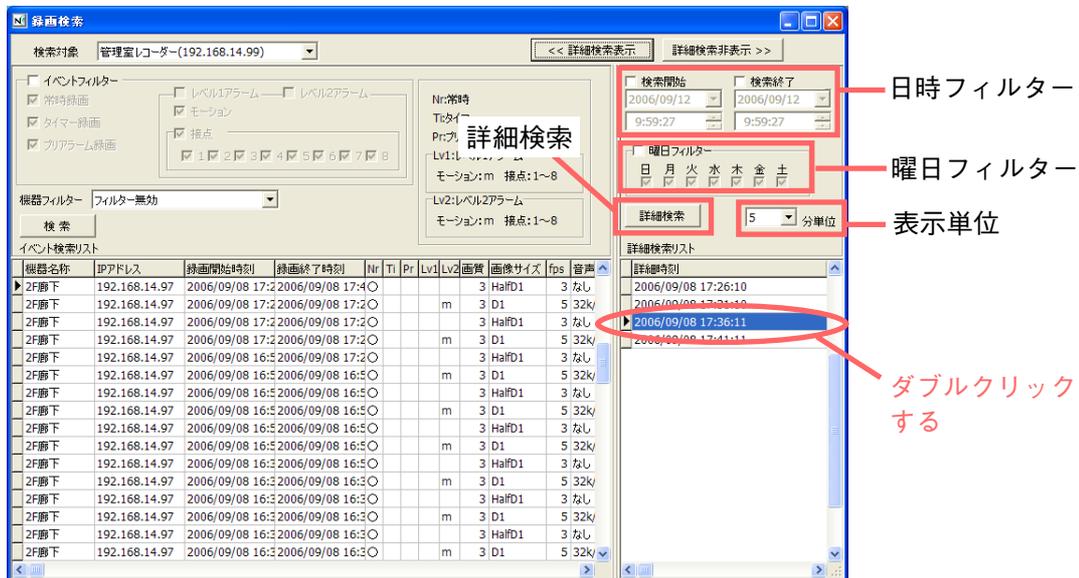
#### 5 録画データを選択し、ダブルクリックする。

録画データの先頭から再生が開始されます。



## ■ 詳細を検索して再生する

検索された録画イベントを詳細に検索し、頭出し再生を行うことができます。長時間の録画イベントなどを途中から再生する場合に有効です。



**1** 検索した結果から再生する録画データを選択する。

**2** 「<<詳細検索表示」をクリックして詳細検索画面を表示し、画面右側の条件設定を行う。

日時フィルター : 表示する日時を絞り込みます。

曜日フィルター : 表示する曜日を絞り込みます。

表示単位 : 録画データを分割して表示する時間単位を設定します。

**3** 「詳細検索」をクリックする。

選択した録画データの詳細な結果が表示されます。

**4** 詳細時刻を選択し、指定したビューへダブルクリック接続する。

選択した時刻からの頭出し再生が行われます。

## 再生について

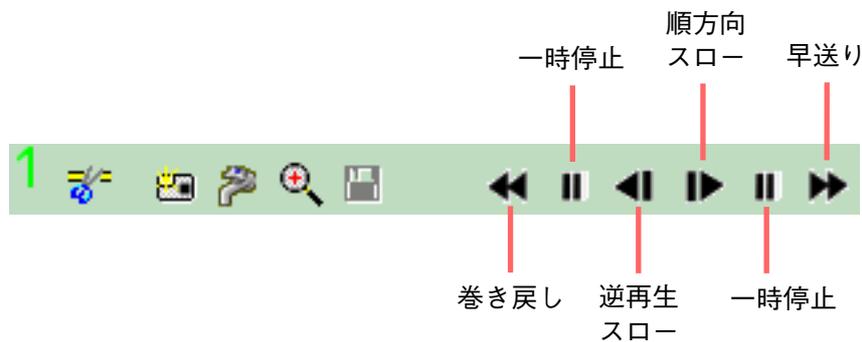
録画検索ウィンドウからダブルクリックすると、指定したビューで再生を開始します。再生が開始されるとビュー上のツールバーが再生用に変化します。

### ● 再生を制御する

再生中にツールバーのボタンを操作することで、様々な再生の制御が可能となります。

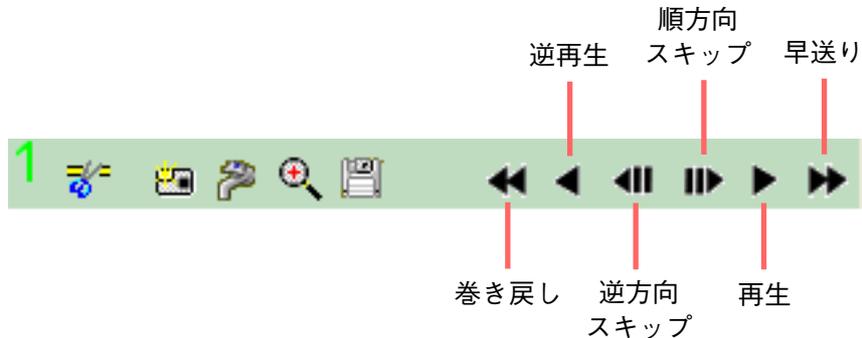
再生中は以下のボタンが有効になります。

[再生中]



一時停止中は以下のボタンが有効になります。

[一時停止中]



- 巻き戻し : 巻き戻しをします。巻き戻し中にクリックすると巻き戻し速度が、2倍、5倍、10倍、15倍、30倍に変わります。
- 一時停止 : クリックすると、再生が一時停止します。
- 逆再生 : クリックすると、逆再生されます。
- 逆再生スロー : クリックすると、逆方向にスロー再生します。逆方向スロー再生中にクリックすると、速度が0.5倍、0.1倍に変わります。
- 逆方向スキップ : クリックすると、映像が数フレーム戻ります。(目安：4秒)
- 順方向スロー : クリックすると、順方向にスロー再生します。順方向スロー再生中にクリックすると、速度が0.5倍、0.1倍に変わります。
- 順方向スキップ : クリックすると、映像が数フレーム進みます。(目安：4秒)
- 再生 : クリックすると、映像が再生されます。
- 早送り : 早送りをします。早送り中にクリックすると早送り速度が、2倍、5倍、10倍、15倍、30倍に変わります。

## ● 再生の終了について

再生中に切断ボタンをクリックすることで、再生を終了することができます。  
また、ファイルの最後まで再生、または逆再生でファイルの先頭まで再生すると自動的に再生を終了します。

## ● 音声再生について

録画データに音声が含まれている場合、再生時に自動で音声の再生も開始されます。  
ただし選択されていないビューの音声は再生されません。  
また、再生時以外（早送り、逆再生など）では音声は再生されません。

## ● スナップショット

クリックすると、再生している映像のスナップショットを保存することができます。  
保存される画像のサイズは常にD1になります。  
詳しくは、P. 5-23「スナップショットを保存する」を参照してください。

## ● デジタルズーム

クリックすると、再生している映像をズーム表示できます。  
詳しくは、P. 5-25「デジタルズームを行う」を参照してください。

## ● エクスポートについて

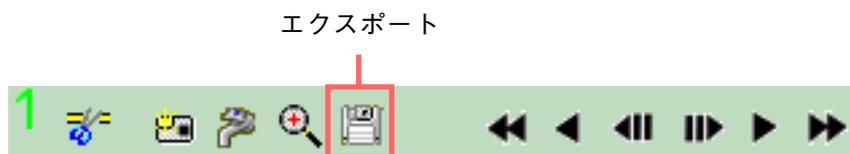
ネットワークデジタルレコーダーの録画データをPCのフォルダにエクスポートすることができます。

### ご注意

- 音声は保存されません。生成されるファイルは asf 形式になります。
- ネットワークデジタルレコーダーは、同時に複数のソフトウェアデコーダーからエクスポートを実行することはできません。実行中のエクスポートの終了を待ってエクスポートを実行してください。

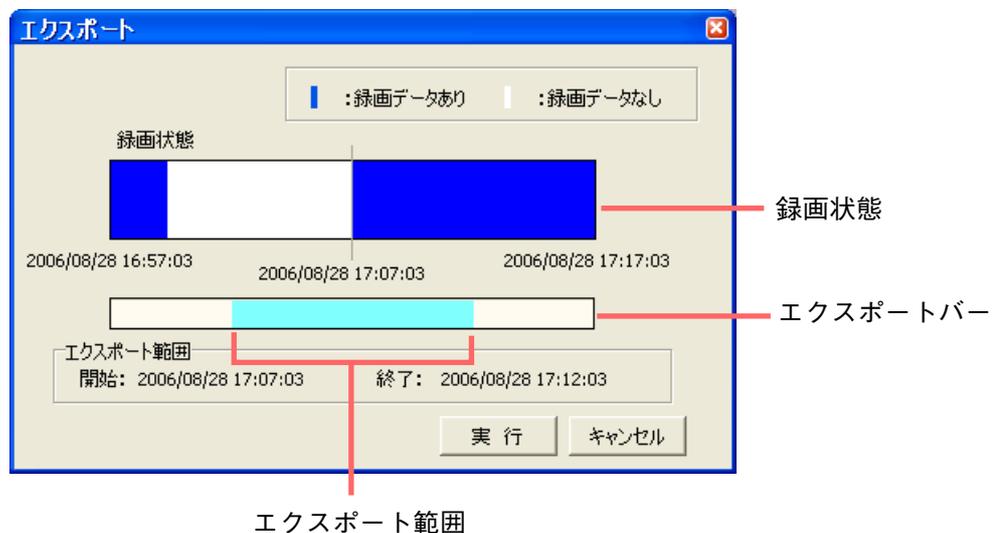
## 1 再生を一時停止する。

ビュー上のツールバーの「エクスポート」が有効になります。



## 2 「エクスポート」をクリックする。

エクスポートウィンドウが表示され、現在の再生時間を中心に、前後最大10分の録画状態が表示されます。



## 3 エクスポートしたい録画領域を設定する。

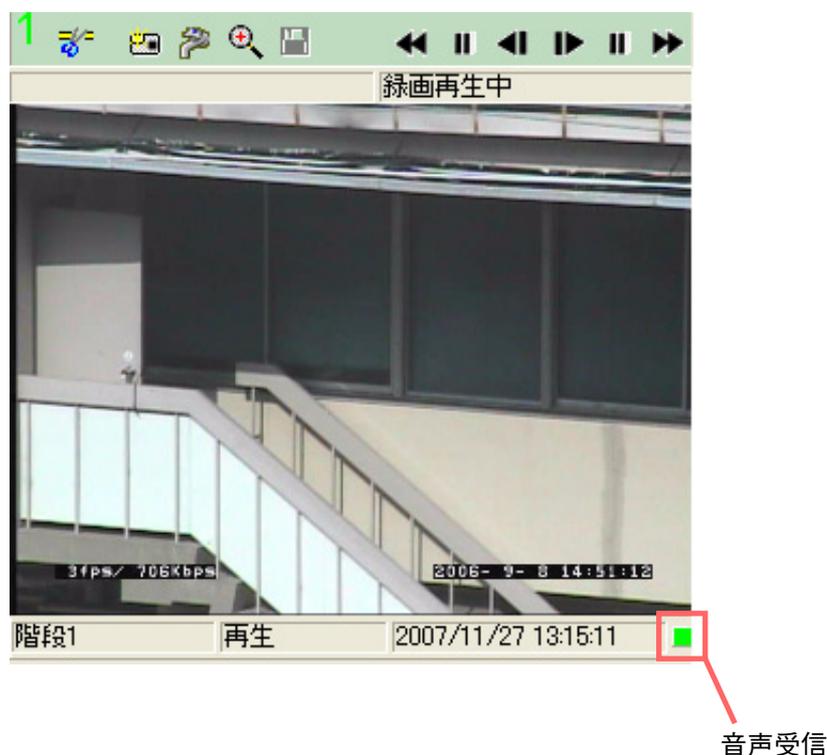
バーを左右に移動してエクスポート位置を設定します。バーの長さを調整することでエクスポート範囲を設定します。エクスポート範囲は最大10分、最小1分で設定可能です。

## 4 エクスポートを実行する。

「実行」をクリックするとエクスポートが開始され進捗が表示されます。エクスポートされた映像は、一般設定で指定したフォルダに保存されます。

## ● 音声状態の表示について

再生の場合は、受信のみとなります。



[ 音声インジケータ ]

灰 : 音声受信を行っていないときに表示されます。

黄緑 : 通常音声再生状態のときに表示されます。

黄 : ループバック音声再生状態のときに表示されます。(ヒントでループバック送信元 IP が表示されます。)

## ● ループバックについて

・ループバックで録画したファイルを再生すると、自動的にループバック再生状態になり、録画した機器で送受信された音声を再生することができます。

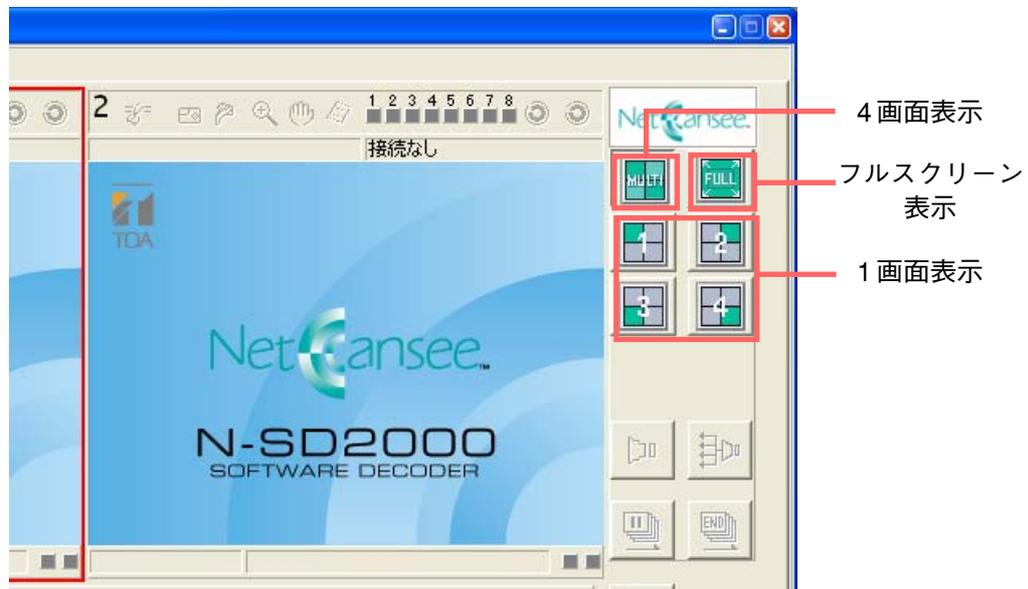
・受信する音声は次のようにスピーカーから出力されます。

Lch : 接続機器が送信している音声

Rch : 接続機器が受信している音声

# ビュー制御について

ビューウィンドウの画面状態の制御ができます。



## ■ 4画面表示

「MULTI」をクリックすると、画面が4画面表示になります。このときビューの画面上をクリックするとビューが選択状態になります。表示されるビューのサイズは、それぞれQVGAサイズ（320×240）となります。

## ■ 1画面表示

1画面表示の「1」～「4」をクリックすると、指定したビューの1画面表示になります。表示されるビューのサイズはVGAサイズ（640×480）となります。

## ■ フルスクリーン表示

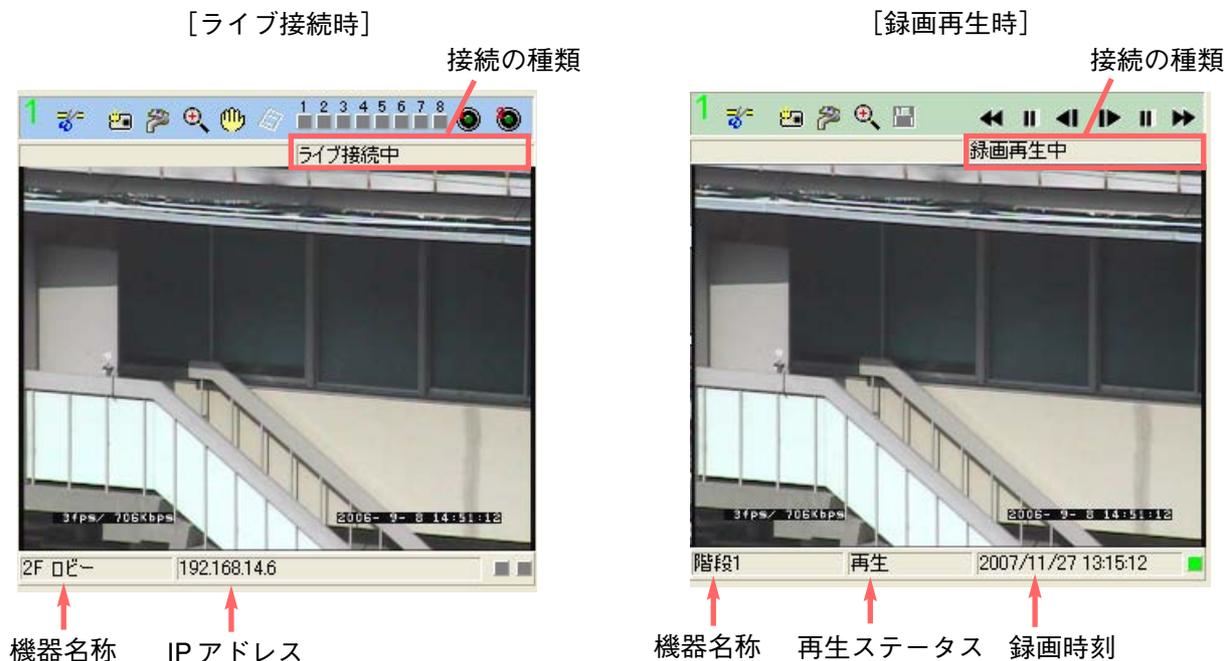
「FULL」をクリックすると、現在の画面表示状態のフルスクリーン画面になります。フルスクリーン画面で画面上をクリックすると、フルスクリーンが解除されて元の画面状態に戻ります。

メ モ

フルスクリーン前に機器マネージャーなどのフローティングウィンドウを表示していた場合、フルスクリーン終了時には閉じられます。

## ステータスバーについて

ステータスバーにはビューで表示している機器の情報が表示されます。通常は以下のような表示になります。



### [ライブ接続時]

- 機器名称 : 表示している機器の名称が表示されます。
- IP アドレス : IP アドレスが表示されます。
- 接続の種類 : 接続の種類が表示されます。

### [録画再生時]

- 機器名称 : 表示している機器の名称が表示されます。
- 再生ステータス : 現在の再生方向および速度が表示されます。
- 録画時刻 : 再生中の映像の録画時刻が表示されます。
- 接続の種類 : 接続の種類が表示されます。

ビューの状態に変化があった場合は、ステータスバーにその情報が表示されます。表示される情報については、P. 6-5「ステータスバーの表示について」を参照してください。

### ご注意

機器のスーパーインポーズで時刻を表示して録画している場合は、ステータスバーの録画時刻と多少ずれることがあります。

## 接続の優先度について

ソフトウェアデコーダーでの接続は、すべて後優先の接続になります。他の接続により機器側から切断が行われる場合があります。詳しくは、各機器の説明書 (P. 1-2「説明書の名称」) の「解説」を参照してください。

## 登録した機器とレシーバーを接続する

登録されたIPカメラ、トランスミッターとレシーバーを接続します。  
接続するには、以下の準備を行います。

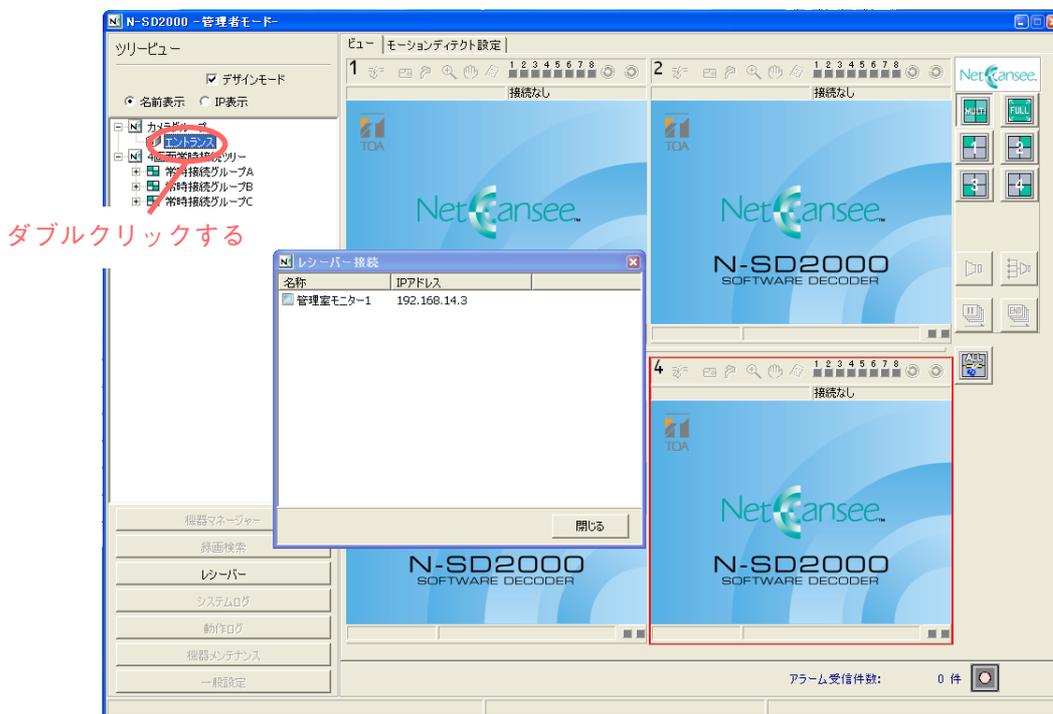
- 1 機器リストに接続を行う機器とレシーバーを登録する。
- 2 レシーバーと接続する機器をツリービューへ登録する。

### ■ 接 続

- 1 「レシーバー」をクリックする。  
機器リストに登録されたレシーバーが表示されます。

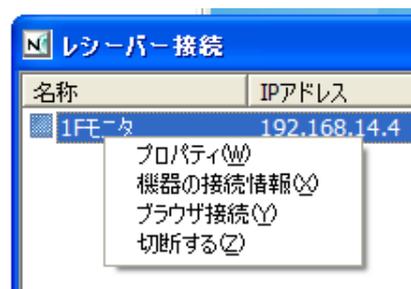


- 2** 接続したいレシーバーをクリックして選択し、ツリービューの接続したい機器をダブルクリックする。  
レシーバーに接続されたモニターに接続先の映像が表示されます。



## ■ 切 断

- 1** 「レシーバー」をクリックする。  
ウィンドウ上に機器リストに登録されたレシーバーが表示されます。
- 2** 切断したいレシーバーを選択し、右クリックする。  
ポップアップメニューが表示されます。
- 3** 「切断する」を選択する。  
選択したレシーバーの接続が切断されます。



# モーションディテクト設定について

ビューウィンドウのモーションディテクト設定タブをクリックすると、モーションディテクト設定画面が表示されます。

この画面でIPカメラおよびトランスミッターのモーションディテクト設定ができます。

☒ ☒ 画面の下のステータスバーはビューウィンドウと同じ内容が表示されます。

## ご注意

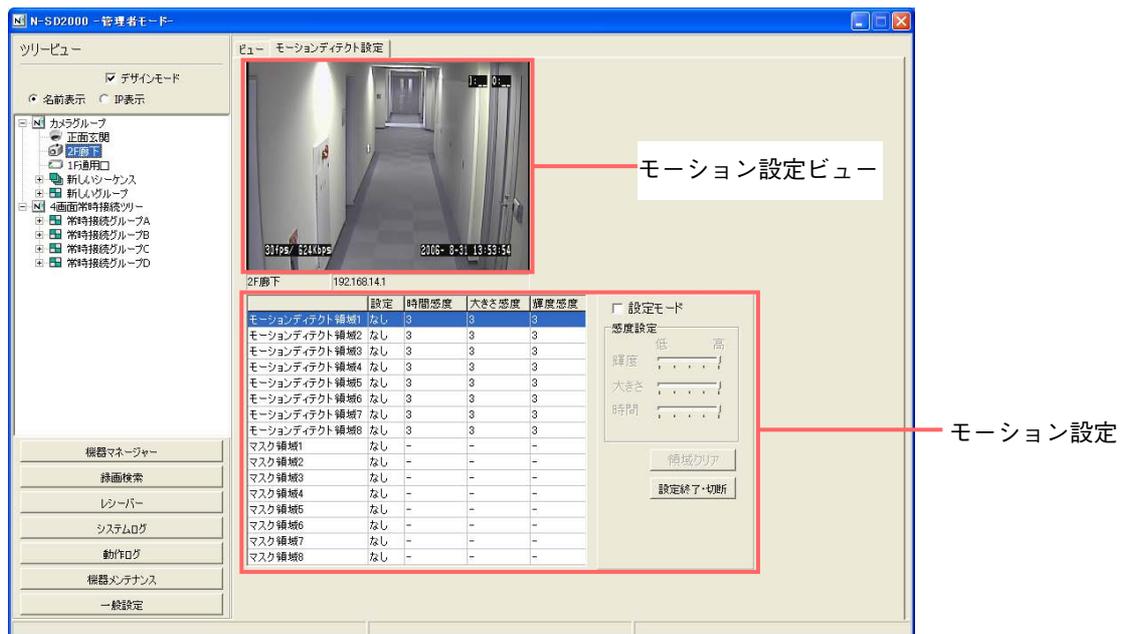
- モーションディテクト機能は、盗難、火災などを防止するための確実な動作を保証するものではありません。万一発生した事故や損害に関しては、一切責任を負いかねます。
- ネットワークコンビネーションカメラのモーションディテクト設定は本画面では行えません。(N-CC2650Mを除く)

**1** ツリービューから、接続したい機器をダブルクリックする。

接続が完了すると、設定対象の映像がモーション設定ビューに表示されます。

N-CC2650M接続時はプリセットポジション1に移動します。

☒ ☒ 設定対象に音声送受信設定されていても音声の送受信は行われません。



画面下のリスト上に、現在の設定情報が表示されます。

リスト左 : 領域名称が表示されます。

設定 : それぞれの領域の設定状況が表示されます。

時間感度 : モーションディテクトの時間に対する感度を設定します。\*

大きさ感度 : モーションディテクトの大きさに対する反応感度を設定します。\*

輝度感度 : モーションディテクトの明るさに対する反応感度を設定します。\*

\* 各感度は5段階で設定することができ、1が最高感度になります。

☒ ☒

モーションディテクト領域を設定している場合、その領域で動きを検出すると、赤色の枠でその領域がモーション設定ビュー上に表示されます。

**ご注意** 接続時パラメーターでストリーミングモードに設定されているときは接続できません。

## 2 「設定モード」にチェックを入れる。

設定モードになり、モーションディテクトおよびマスクが設定できる状態になります。

- リスト上で選択している領域の位置は、画面上に長方形の塗りつぶしで表示します。  
 モーションディテクト領域 : ピンク色  
 マスク領域 : 水色
- リスト上で選択されていない領域の設定は、長方形の枠でその位置を表示します。  
 モーションディテクト領域 : 黄色  
 マスク領域 : 青色

ビュー モーションディテクト設定

モーションディテクト領域

マスク領域

リスト上で選択されている領域

チェック入れる

	設定	時間感度	大きさ感度	輝度感度
モーションディテクト領域1	あり	1	3	1
モーションディテクト領域2	あり	3	3	4
モーションディテクト領域3	あり	3	3	3
モーションディテクト領域4	なし	3	3	3
モーションディテクト領域5	なし	3	3	3
モーションディテクト領域6	なし	3	3	3
モーションディテクト領域7	なし	3	3	3
モーションディテクト領域8	なし	3	3	3
マスク領域1	あり	-	-	-
マスク領域2	あり	-	-	-
マスク領域3	なし	-	-	-
マスク領域4	なし	-	-	-
マスク領域5	なし	-	-	-
マスク領域6	なし	-	-	-
マスク領域7	なし	-	-	-
マスク領域8	なし	-	-	-

2F廊下 192.168.14.1

30fps/ 667kpps 2006-8-31 13:57:59

設定モード

感度設定  
 低 高  
 輝度 [ ] [ ] [ ] [ ]  
 大きさ [ ] [ ] [ ] [ ]  
 時間 [ ] [ ] [ ] [ ]

領域クリア

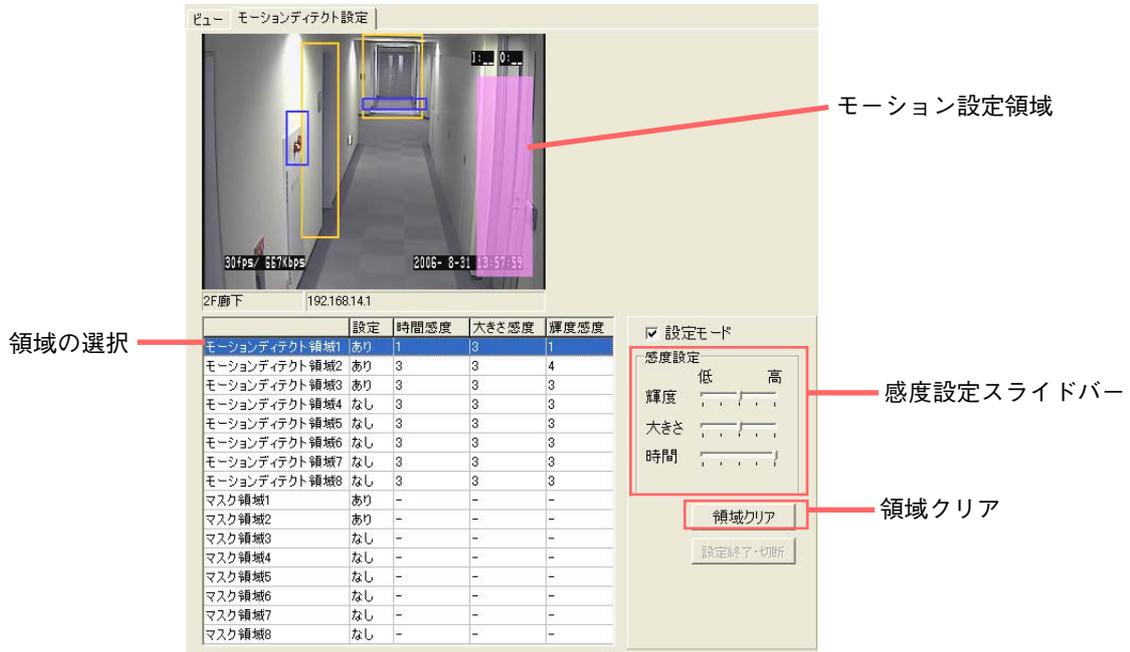
設定終了・切戻

### メモ

- 設定モード中はビュータブへの切り換え、アプリケーションの終了はできません。
- 設定変更は設定モードで行ってください。
- 設定がない場合は領域を表示しません。

### 3 モーションディテクト領域の設定をする。

リスト上からモーションディテクト領域1から8を選択し、画面上的の設定したい領域をマウスでドラッグします。ドラッグした領域がピンク色の長方形で表示され、リスト上の設定が「あり」になり、領域の設定が完了します。モーションディテクトの感度を変更する場合は、「感度設定スライドバー」を操作して変更してください。変更ごとに設定がリスト上に反映されます。



### 4 マスク領域の設定をする。

リスト上からマスク領域1から8を選択し、画面上的の設定したい領域をマウスでドラッグします。ドラッグした領域が水色の長方形で表示され、リスト上の設定が「あり」になります。ただし、感度設定はできません。

メ モ

マスク領域は、モーションディテクト領域内で動きに反応しない領域を設定するために利用します。



## 5 設定をクリアする。

設定した領域をクリアする場合は、その領域をリスト上で選択し、「領域のクリア」をクリックしてください。

リスト上の設定の表示が「なし」になります。

## 6 設定を終了する。

設定モードのチェックを外し、「設定終了・切断」をクリックしてください。

接続状態でビュータブと切り換え、10分以上放置すると自動で切断されます。

### ● 設定領域の確認

「設定モード」のチェックを外した状態でリスト上の領域を選択し、選択した領域に設定がある場合は、設定されている領域がモーション設定ビュー上で点滅します。

モーションディテクト領域：黄色

マスク領域：青色

[モーション領域確認図]

	設定	時間感度	大きさ感度	輝度感度
モーションディテクト領域1	あり	1	3	3
モーションディテクト領域2	あり	3	3	4
モーションディテクト領域3	あり	3	3	3
モーションディテクト領域4	なし	3	3	3
モーションディテクト領域5	なし	3	3	3
モーションディテクト領域6	なし	3	3	3
モーションディテクト領域7	なし	3	3	3
モーションディテクト領域8	なし	3	3	3

[マスク領域確認図]

点滅する

領域の選択

	設定	時間感度	大きさ感度	輝度感度
モーションディテクト領域1	あり	1	3	3
モーションディテクト領域2	あり	3	3	4
モーションディテクト領域3	あり	3	3	3
モーションディテクト領域4	なし	3	3	3
モーションディテクト領域5	なし	3	3	3
モーションディテクト領域6	なし	3	3	3
モーションディテクト領域7	なし	3	3	3
モーションディテクト領域8	なし	3	3	3
マスク領域1	あり	-	-	-

### ● モーションディテクトの動作確認

設定モード中は、リスト上で選択しているモーションディテクト領域と設定されているすべてのマスク領域が動作しているので、指定した領域のみのモーションディテクトの動作確認が可能です。

[モーション動作図]

モーション検知した場合

	設定	時間感度	大きさ感度	輝度感度
モーションディテクト領域1	あり	1	3	3
モーションディテクト領域2	あり	3	1	5
モーションディテクト領域3	あり	3	3	3
モーションディテクト領域4	なし	3	3	3
モーションディテクト領域5	なし	3	3	3
モーションディテクト領域6	なし	3	3	3
モーションディテクト領域7	なし	3	3	3
モーションディテクト領域8	なし	3	3	3
マスク領域1	あり	-	-	-
マスク領域2	あり	-	-	-
マスク領域3	なし	-	-	-
マスク領域4	なし	-	-	-
マスク領域5	なし	-	-	-
マスク領域6	なし	-	-	-
マスク領域7	なし	-	-	-
マスク領域8	なし	-	-	-

設定モード

感度設定 低 高

輝度 [Slider]

大きさ [Slider]

時間 [Slider]

領域クリア

設定終了+切断

## バージョン情報表示について

ソフトウェアデコーダーのバージョン情報と取扱説明書へのリンクが表示されます。



**1** メインウィンドウ上の「Netcansee」ロゴをクリックする。  
バージョン情報ダイアログが表示されます。

**2** 「取扱説明書を開く」のリンクをクリックする。  
ソフトウェアデコーダーの取扱説明書が表示されます。

**ご注意** 取扱説明書を見るときは、Adobe Reader をインストールしてください。

## ブラウザー接続について

Web ブラウザーで機器の設定画面と接続できます。

**メ モ** ブラウザー接続は機器リスト、スキャンリスト、レシーバー接続ウィンドウ、機器メンテナンスウィンドウ、ツリービューから接続することができます。

**1** 機器を選択し、右クリックする。

**2** 「ブラウザ接続」を選択する。

Web ブラウザーが起動し、選択した機器の設定画面が表示されます。

## 機器の接続情報について

機器へアクセスし、現在の機器の接続情報を見ることができます。

[IPカメラ、トランスミッター]

[レシーバー]

[ネットワークデジタルレコーダー]



**1** 機器を選択し、右クリックする。

**2** 「機器の接続情報」を選択する。

機器の接続情報ウィンドウが表示されます。

**メ モ** 機器の接続情報は機器リスト、ツリービュー、レシーバーウィンドウで見ることができます。

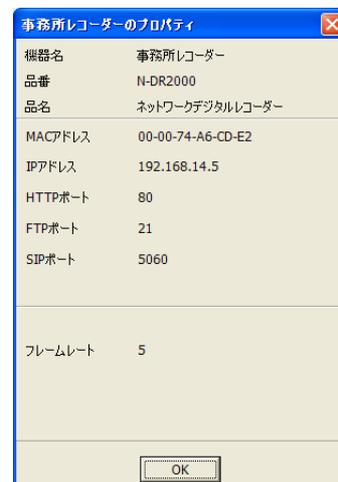
## 登録機器のプロパティ

機器のプロパティが表示されます。

[IPカメラ、トランスミッター]

[レシーバー]

[ネットワークデジタルレコーダー]



**1** 機器を選択し、右クリックする。

**2** 「プロパティ」を選択する。  
プロパティウィンドウが表示されます。

メモ

- プロパティは機器リスト、ツリービュー、レシーバーウィンドウで見ることができます。
- 表示される情報はソフトウェアデコーダーでの設定であり、機器本体の設定ではありません。

# 機器リストのCSVエクスポート

## ■ 保存動作

この機能は、N-SD0160 システムへの機器情報のインポートのために行います。(保存形式：CSV形式)  
CSVへエクスポート可能な最大数は100台で、機器リスト内の16台ずつをグループに分けて保存します。

## ■ エクスポートのしかた

**1** 機器リストでエクスポートしたい機器を選択する。

[Ctrl] キーで複数指定、[Shift] キーとクリックで複数範囲指定ができます。

**ご注意** N-DR2000とN-VR2010はエクスポートできません。

**2** [CSVエクスポート] をクリックする。

ファイルを保存するダイアログが表示されます。

### ● ファイル保存情報

ファイル中の保存情報は2種類あります。

- ・グループ設定 (1～7グループ)
- ・カメラ設定 (1～100台)

カメラは最大100台をリストとして保存することができます。グループ1で16台を超えると、17台目からはグループ2へ登録され、グループ7の登録カメラ台数は4台となります。

### ● ソフトウェアデコーダー接続時パラメーターからの設定変換

CSV形式に変換するときには、画像サイズは2段階、画質は3段階の数値に変換する。

	N-SD	CSV形式
画像サイズ	D1	1 (VGA)
	Half D1	2 (QVGA)
	QVGA	2 (QVGA)
画 質	1	1
	2	2
	3	2
	4	3
	5	3

● CSV エクスポートデータの設定例

[N-SD2000 機器リスト設定データ]

カメラ名	IPアドレス	ポート番号	管理者SIPパスワード	画像サイズ	画質
カメラ1	192.168.1.1	80	guest	D1	1
カメラ2	192.168.1.2	80	guest	D1	1
カメラ3	192.168.1.3	80	guest	D1	1
カメラ4	192.168.1.4	80	guest	D1	1
カメラ5	192.168.1.5	80	guest	D1	1
カメラ6	192.168.1.6	80	guest	D1	1
カメラ7	192.168.1.7	80	guest	D1	1
カメラ8	192.168.1.8	80	guest	D1	1
カメラ9	192.168.1.9	80	guest	D1	1
カメラ10	192.168.1.10	80	guest	D1	2
カメラ11	192.168.1.11	80	guest	D1	2
カメラ12	192.168.1.12	80	guest	D1	2
カメラ13	192.168.1.13	80	guest	D1	2
カメラ14	192.168.1.14	80	guest	D1	2
カメラ15	192.168.1.15	80	guest	D1	2
カメラ16	192.168.1.16	80	guest	D1	2
カメラ17	192.168.1.17	80	guest	Half D1	3
カメラ18	192.168.1.18	80	guest	Half D1	3
カメラ19	192.168.1.19	80	guest	Half D1	3
カメラ20	192.168.1.20	80	guest	Half D1	3
カメラ21	192.168.1.21	80	guest	Half D1	3
カメラ22	192.168.1.22	80	guest	Half D1	3
カメラ23	192.168.1.23	80	guest	Half D1	3
カメラ24	192.168.1.24	80	guest	Half D1	3
カメラ25	192.168.1.25	80	guest	Half D1	3
カメラ26	192.168.1.26	80	guest	Half D1	4
カメラ27	192.168.1.27	80	guest	Half D1	4
カメラ28	192.168.1.28	80	guest	Half D1	4
カメラ29	192.168.1.29	80	guest	QVGA	4
カメラ30	192.168.1.30	80	guest	QVGA	4
カメラ31	192.168.1.31	80	guest	QVGA	4
カメラ32	192.168.1.32	80	guest	QVGA	4
カメラ33	192.168.1.33	80	guest	QVGA	5
カメラ34	192.168.1.34	80	guest	QVGA	5
カメラ35	192.168.1.35	80	guest	QVGA	5
カメラ36	192.168.1.36	80	guest	QVGA	5
カメラ37	192.168.1.37	80	guest	QVGA	5

## [CSVエクスポート後データ]

カメラ名	所属グループID	IPアドレス	ポート番号	基本記録パスワード	画像サイズ	画質
カメラ1	1	192.168.1.1	80	guest	1	1
カメラ2	1	192.168.1.2	80	guest	1	1
カメラ3	1	192.168.1.3	80	guest	1	1
カメラ4	1	192.168.1.4	80	guest	1	1
カメラ5	1	192.168.1.5	80	guest	1	1
カメラ6	1	192.168.1.6	80	guest	1	1
カメラ7	1	192.168.1.7	80	guest	1	1
カメラ8	1	192.168.1.8	80	guest	1	1
カメラ9	1	192.168.1.9	80	guest	1	1
カメラ10	1	192.168.1.10	80	guest	1	2
カメラ11	1	192.168.1.11	80	guest	1	2
カメラ12	1	192.168.1.12	80	guest	1	2
カメラ13	1	192.168.1.13	80	guest	1	2
カメラ14	1	192.168.1.14	80	guest	1	2
カメラ15	1	192.168.1.15	80	guest	1	2
カメラ16	1	192.168.1.16	80	guest	1	2
カメラ17	2	192.168.1.17	80	guest	2	2
カメラ18	2	192.168.1.18	80	guest	2	2
カメラ19	2	192.168.1.19	80	guest	2	2
カメラ20	2	192.168.1.20	80	guest	2	2
カメラ21	2	192.168.1.21	80	guest	2	2
カメラ22	2	192.168.1.22	80	guest	2	2
カメラ23	2	192.168.1.23	80	guest	2	2
カメラ24	2	192.168.1.24	80	guest	2	2
カメラ25	2	192.168.1.25	80	guest	2	2
カメラ26	2	192.168.1.26	80	guest	2	3
カメラ27	2	192.168.1.27	80	guest	2	3
カメラ28	2	192.168.1.28	80	guest	2	3
カメラ29	2	192.168.1.29	80	guest	2	3
カメラ30	2	192.168.1.30	80	guest	2	3
カメラ31	2	192.168.1.31	80	guest	2	3
カメラ32	2	192.168.1.32	80	guest	2	3
カメラ33	3	192.168.1.33	80	guest	2	3
カメラ34	3	192.168.1.34	80	guest	2	3
カメラ35	3	192.168.1.35	80	guest	2	3
カメラ36	3	192.168.1.36	80	guest	2	3
カメラ37	3	192.168.1.37	80	guest	2	3



# 第6章

---

付 録

## 故障かな？と思ったら

症 状	調べるところ	対 処
スキャンができない。	ケーブルの誤接続	配線、プラグ、接触、接続を確認してください。
	使用するネットワークアダプターの選択が誤っている。	ネットワークアダプターを正しく選択してください。
	PCのネットワーク設定を誤っている。	PCのネットワーク設定を確認してください。
スキャンしてもネットワークデジタルレコーダーが見つからない。	ネットワークデジタルレコーダーのIPアドレスがPCのIPアドレスと同じになっている。	PCまたはネットワークデジタルレコーダーのIPアドレスを別の設定にしてください。
スキャンしても機器が見つからない。	ネットワーク設定が誤っている。	ローカルブロードキャストの届く範囲に機器を設置してください。
Web ブラウザー接続ができない。	ネットワーク設定が誤っている。	PCと接続先のネットワーク設定を確認してください。
Web ブラウザーが起動しない。	Web ブラウザー設定が誤っている。	一般設定でインターネットエクスプローラー以外を使用する場合のブラウザ指定の参照先を正しく指定してください。
スキャンリストから機器リストに登録できない。	同一 MAC アドレスの機器がすでに登録されている。	新たな情報で登録する場合は、すでに登録されている同一 MAC アドレスの機器を機器リストから削除してください。
ツリービューに登録できない。	デザインモードになっていない。	デザインモードをチェックしてください。
	レシーバーおよびネットワークデジタルレコーダーに登録しようとしている。	レシーバーおよびネットワークデジタルレコーダーはツリービューへ登録できません。
指定したビューへダブルクリック接続できない。	接続先ビューがレベル1アラームで使用 中である。	アラーム接続中のビューを切断してください。
カメラやトランスミッターと接続できないため、映像が表示されない。	ケーブルの誤接続	配線、プラグ、接触、接続を確認してください。
	SIPパスワードが誤っている。	接続先とSIPパスワードを同一にしてください。
	ネットワーク設定が誤っている。	PCおよび接続先のIPアドレス、サブネットマスクを確認してください。
	接続先に優先度の高い接続がすでに4セッション行われている。	接続先のセッションをどれか切断してください。
	ストリーミング接続設定が誤っている。	接続先のストリーミングモードの設定を確認してください。
音声スピーカーから出力されない。	ファイアウォールの設定で通信が止められている。	ファイアウォールを無効にしてください。
	機器の設定が誤っている。	接続先の音声設定を正しく設定してください。
	ビューが選択されていない。	音声出力したいビューを選択してください。
片側のスピーカーからしか音声が出力されない。	PCの設定が誤っている。	PCのボリューム設定を確認してください。
	ループバック設定中でループバック送信元IPがソフトウェアデコーダー自身になっている。	正常動作になります。両方のスピーカーから音声を鳴らしたい場合は、機器側のループバック設定をオフにしてください。

症 状	調べるところ	対 処
音声を送信できない	機器の設定が誤っている。	接続先の音声設定を正しく設定してください。
	PTT ボタン、一斉送信ボタンがクリックされていない。	送信したいビューを選択し PTT ボタンをクリックするか、一斉送信ボタンをクリックしてください。
	シーケンス接続をしている。	通常接続に切り換えてください。
	他の機器に送信権限をとられている。	現在音声送信可能となっている接続を切断してください。
	PC の設定が誤っている。	「コントロールパネル」→「サウンドとオーディオデバイス」より利用している入力デバイスを選択してください。
	ストリーミングモードで接続している。	ストリーミングモードをオフにしてください。
機器の制御ができない。	他の接続により制御権がとられている。	制御権がとられないよう接続先を設定してください。
	機器の RS-232C 端子もしくは RS-485 端子と制御機器の接続が誤っている。	接続をすべて確認してください。
コンビネーションカメラが制御できない。	制御対象のカメラ ID とパネル上に表示されているカメラ番号が異なっている。	制御対象のカメラ ID を指定してください。
	制御対象のカメラ ID と、そのカメラが入力されているデジタルレコーダーもしくはマルチスイッチャーの入力チャンネルの番号が異なっている。	制御対象のカメラ ID と入力チャンネルの番号をあわせてください。
スナップショットボタンが有効にならない。	機能制限モードで使用している。	動作条件に合ったスペックの PC を使用してください。
ツールバーでパラメーター変更ができない。	ストリーミングモードで接続している。	通常の接続で操作してください。
	設定が誤っている。	機器側の設定値以上に設定できません。機器側の設定を変更してください。
	指定した設定値以下で別のセッションが接続されている。	他の接続が指定した設定値以下で接続されています。その接続の設定値を上げてください。
デジタルズームボタンが有効にならない。	機能制限モードで使用している。	動作条件に合ったスペックの PC を使用してください。
静止表示ボタンが有効にならない。	機能制限モードで使用している。	動作条件に合ったスペックの PC を使用してください。
勝手に接続が切断された。	他の機器が接続先に新しく接続された。	接続が 4 セッションを超え、優先度により切断された可能性があります。接続先に接続されている別の機器を切断して再度接続してください。
	ネットワークが切断された。機器の電源が切れた。	機器を正しく設置してください。
	機器が内部異常を検出して再起動した。	再度接続を行ってください。
	ファームウェアおよびコンフィギュレーションファイルを更新している。	更新終了を待ち、再度接続してください。
勝手に切断され再度接続された。	他の機器により画像サイズが変更された。	接続中の他の機器が画像サイズを変更した、または新たな接続の画像サイズの設定が現在と別設定であった場合に起こります。
録画検索ウィンドウで、検索対象にネットワークデジタルレコーダが存在しない。	ネットワークデジタルレコーダーが機器リストに登録されていない。	ネットワークデジタルレコーダーを機器リストに登録してください。

## 第6章 付 録

症 状	調べるところ	対 処
録画検索ができない。	ネットワークデジタルレコーダーがネットワークに接続されていない。	配線、プラグ、接触、接続、電源のすべてを確認してください。
	選択したネットワークデジタルレコーダーのネットワーク設定が誤っている。	ネットワークデジタルレコーダーのネットワーク設定を正しく設定してください。
録画検索に時間がかかる。	ネットワークデジタルレコーダーの起動後初回の検索である。	ネットワークデジタルレコーダーは、起動後初回の検索時には、検索結果表示までに30秒程度時間がかかる場合があります。
録画の再生ができない。	対象のネットワークデジタルレコーダーが、すでに8セッションの再生をしている。	他の再生を止めて再度再生を試みてください。
エクスポートボタンが有効にならない。	一時停止をしていない。	エクスポートするビューの映像を一時停止してください。
レシーバーウィンドウにレシーバーが存在しない。	レシーバーが機器リストに登録されていない。	レシーバーを機器リストに登録してください。
レシーバーと接続できない。	レシーバーが接続されていない。	配線、プラグ、接触、接続、電源のすべてを確認してください。
	接続対象のカメラとレシーバーの設定が異なる。	接続対象のレシーバーがストリーミングモードのときは、カメラをストリーミングモードにしてください。
モーションディテクト設定画面で接続ができない。	ストリーミングモードで接続しようとしている。	設定対象の接続時パラメーターのストリーミングモードのチェックを外してください。
	N-CC2650M以外のネットワークコンビネーションカメラを設定しようとしている。	N-CC2650M以外のネットワークコンビネーションカメラは設定できません。
モーションディテクトの領域設定ができない。	設定モード以外で設定しようとしている。	設定モードにチェックを入れて設定モードにしてください。
モーションディテクト設定時にドラッグ中の領域の長方形が表示されない。	機能制限モードで使用している。	動作条件に合ったスペックのPCを使用してください。
アプリケーションが終了できない。	モーションディテクト設定モードになっている。	モーションディテクトの設定モードのチェックを外してください。
機器の接続情報が表示されない。	機器がネットワークに接続されていない。	配線、プラグ、接触、接続、電源のすべてを確認してください。
	ネットワーク設定が誤っている。	PC、接続時のパラメーター設定、接続先のネットワーク設定を確認してください。
接点出力ボタンを押してもオン／オフが切り換わらない。	機器側の接点出力設定が誤っている。	機器側の接点出力設定を正しく行ってください。
電子ズーム状態が自動的に解除される。	コンビネーションカメラメニューの「電子ズーム」が正しく設定されていない。	コンビネーションカメラの電子ズームの設定をx2cont、x4cont、x8cont、x12contにしてください。
接点出力状態が機器側と一致していない。	シーケンス切り替え時間と機器の接点出力保持時間が同じになっている。	シーケンス切り替え時間と機器の接点出力保持時間をずらして設定してください。
パスワードを入力してもログインできない。	大文字、小文字が間違っている。	Caps Lockが有効になっていないか確認してください。
	Num Lockが無効になっている。	Num Lockを有効にしてください。
画面をクリックしても反応しない。	フローティングウィンドウが別のウィンドウの背面に隠れている。	[alt] + [tab] キーを押してフローティングウィンドウを選択し、前面に表示してください。

## ステータスバーの表示について

表示	原因と対処法
接続時 SIP パスワードが不正です。	SIP パスワードの認証に失敗しました。接続時パラメーター設定で登録したパスワードと機器側の SIP パスワードが同一かどうか確認してください。
アクセスできませんでした。	機器側と正しくネットワークが接続されていること、電源が入っていることを確認してください。
再生を終了しました。	録画ファイルを最後まで再生して終了しました。異常ではありません。
機器が見つかりません。	ネットワークデジタルレコーダーに正常にアクセスできません。機器側と正しくネットワークが接続されていること、電源が入っていることを確認してください。
優先度により接続できません。	接続先のセッション数が上限を超えていて接続できません。他のセッションを切断してください。
接続処理異常により切断しました。	内部異常です。再度接続を行ってください。
30 秒後に再接続してください。	ソフトウェアデコーダーで切断を行わず終了したため、しばらく接続することができません。30 秒待った上で再度接続をしてください。
切断要求によって切断しました。	優先度の高いセッションにより機器側から切断されました。優先度の高いセッションの切断を待って再度接続してください。
未実装のメッセージを受信しました。	受信したメッセージに対応できていません。ソフトウェアデコーダーおよび機器のバージョンの互換性を確認してください。
音声送信に失敗しました。	内部異常です。*
異常が発生しました。(921)	内部異常です。*
異常が発生しました。(923)	内部異常です。*
接続が継続できません。	接続先へデータを送信できませんでした。ネットワーク状態を確認後、再度接続を行ってください。
接続を切断しました。	接続先から応答がありません。接続先が正しくネットワークに接続されているか確認してください。
応答がありませんでした。	接続先から応答がありません。接続先が正しくネットワークに接続されているか確認してください。
映像が届きませんでした。	ファイアウォールやウイルスチェックソフトでストリーム使用ポート範囲のポートが遮断されていないか確認してください。
マルチキャストグループに参加できません。	ストリーミング接続ができませんでした。ソフトウェアデコーダーおよび機器側の設定を確認してください。
音声が届きません。	ファイアウォールやウイルスチェックソフトでストリーム使用ポート範囲のポートが遮断されていないか確認してください。

## 第6章 付 録

表示	原因と対処法
異常が発生しました。(932)	内部異常です。*
ストリームが届きません。	パケットロスが発生してストリームを受信できませんでした。ネットワークの状態を確認してください。
異常が発生しました。(974)	内部異常です。*
音声タイプが異なるため接続できません。	ソフトウェアデータのストリーミング接続設定と機器側の音声設定が一致しているか確認してください。それでも直らない場合は内部異常となります。*
異常が発生しました。(976)	多地点からの接続がある場合に起きやすくなります。接続先の映像パラメーターの設定をそろえることで回避できます。
異常が発生しました。(978)	内部異常です。*
異常が発生しました。(979)	内部異常です。*
異常が発生しました。(980)	内部異常です。*
映像パケットロスにより切断しました。	パケットロスが発生しストリームを受信できませんでした。ネットワークの状態に合ったストリームで接続してください。
音声パケットロスにより切断しました。	パケットロスが発生しストリームを受信できませんでした。ネットワークの状態に合ったストリームで接続してください。

\* 内部異常が発生した場合には、販売店にお問い合わせください。または最寄りの営業所、お客様相談センターにご相談ください。

# 仕 様

対応パソコン	PC-AT 互換機
パソコン要件	<p>CPU : Pentium4 3 GHz 以上 Intel Core 2 Duo 1.5 GHz 以上</p> <p>メモリー : 512 MB 以上 (Windows XP)、 2 GB 以上 (Windows Vista、Windows 7)</p> <p>ディスプレイアダプター : XGA (1024 × 768 ドット) 以上、DirectX9.0a 以上対応、 Intel チップセット</p> <p>サウンドコントローラー : DirectX9.0a 以上対応</p> <p>ネットワークアダプター : 100BASE-TX 以上</p>
O	S Windows XP Professional (32 bit 版) *1 Windows Vista Business (32 bit 版) Windows 7 Professional (32 bit 版)
供給メディア	CD (1 枚)
機能	<p>ネットワークカラーカメラ・ネットワークコンビネーションカメラ・ネットワークビデオトランスミッターとの接続 映像 : ライブストリームのマニュアル接続、常時接続、4ch グループ接続、シーケンス接続、ストリーミング接続、アラーム接続 音声 : ライブ音声の再生、送受信、PTT、4ch 一斉送信</p> <p>ネットワークデジタルレコーダー N-DR2000 *2 との接続 録画ストリーム・音声の再生、録画データ検索、録画のエクスポート</p> <p>表示画面 フルスクリーン表示、1ch / 4ch 切替表示</p> <p>機器制御 接点入出力状態表示 接点出力制御 ネットワークビデオトランスミッター N-VT2010 経由でのデジタルレコーダー・マルチスイッチャー・コンビネーションカメラ制御</p> <p>制御対応機器</p> <p>コンビネーションカメラ : C-CC571/574、C-CC511/514、C-CC602、C-CC704 *2、 (ポイントビュー可能) C-CC711/714、C-CC724、C-CC771/774、C-CC761/764 *2</p> <p>コンビネーションカメラ : C-CC501/504 *2、C-CC551/554 *2 (ポイントビュー不可)</p> <p>デジタルレコーダー : C-DR161/091 シリーズ、C-DR1605/0905 *2</p> <p>マルチスイッチャー : C-MS161/91 シリーズ *2</p> <p>システムコントローラー : C-SC100、C-SC80、C-SC50B</p> <p>リモートコントローラー : C-RM100、C-RM700、C-RM500 *2</p> <p>ミカミ製 PTC 通信制御カメラ : PTC-113、PTC-EP-RC200</p> <p>シリアルブリッジ ネットワークカラーカメラメニュー制御</p> <p>その他の機能 ネットワーク接続機器の自動検出・再起動・設定変更・LED 点滅・台数表示、動作警告表示、接続機器の登録/削除/エクスポート (ネットワークソフトウェアレコーダー N-SD0160 用)、パラメーター設定、ネットワークビデオレシーバーとネットワークカラーカメラ・ネットワークコンビネーションカメラ・ネットワークビデオトランスミッターの接続/切断、一斉切断、モーションディテクト設定、スナップショット、デジタルズーム、画像一時停止、操作制限、システムログ保存、動作ログ保存、ファームウェアアップロード、コンフィギュレーションファイルのアップロード/ダウンロード、自動再起動</p>

\*1 .NET Framework 2.0 が別途必要です。

\*2 生産完了品

- ※ Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ※ Pentium、Intel Core は米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- ※ その他の会社名および製品名も各社の商標です。

### 【ご注意】

本ソフトウェアを起動している間、他のアプリケーションを使用すると、誤動作したり機能が低下する場合があります。

1 台の PC で複数のソフトウェアデコーダーを起動することはできません。

マルチディスプレイ環境で使用する場合、以下の点にご注意ください。

- 本ソフトウェアを動作させるディスプレイは 1 つに固定してください。動作中にディスプレイ間を移動すると正常に動作しない場合があります。
- デジタルズーム機能は、画像一時停止中に行ってください。一時停止せずにデジタルズーム機能を使用すると正常に動作しない場合があります。
- 本ソフトウェアは NAT（ポートフォワーディング、NAPT、IP マスカレード）には対応していませんので WAN 環境で使用する場合は、VPN などの直接プライベートアドレスで通信できる環境でご使用ください。

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。



商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

#### TOA お客様相談センター

商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。  
受付時間 9:00 ~ 17:00 (土日、祝日除く)

フリーダイヤル **0120-108-117**

ナビダイヤル 0570-064-475 (有料)

FAX 0570-017-108 (有料)

※ PHS、IP 電話からはつながりません。

TOA ホームページ <http://www.toa.co.jp/>